

大阪市感染症発生動向調査事業報告書  
(結核を除く)  
2019年(令和元年)版

大阪市



# 目次

事業概要	1
1 定点把握感染症（性感染症を除く）	2
1) 小児科定点把握疾患	
ア RSウイルス感染症	4
イ 咽頭結膜熱	5
ウ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6
エ 感染性胃腸炎	7
オ 水痘	8
カ 手足口病	9
キ 伝染性紅斑	10
ク 突発性発しん	11
ケ ヘルパンギーナ	12
コ 流行性耳下腺炎	13
2) インフルエンザ定点把握疾患	
インフルエンザ	14
3) 眼科定点把握疾患	
ア 急性出血性結膜炎	15
イ 流行性角結膜炎	16
4) 基幹定点把握疾患（週報）	
ア 細菌性髄膜炎	17
イ 無菌性髄膜炎	18
ウ マイコプラズマ肺炎	19
エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）	20
オ 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）	21
5) 基幹定点把握疾患（月報）	22
2 定点把握感染症（性感染症）	23
1) 性器クラミジア感染症	24
2) 性器ヘルペスウイルス感染症	
3) 尖圭コンジローマ	25
4) 淋菌感染症	
3 一～五類全数把握感染症	26
4 その他	
大阪市感染症発生動向調査事業実施要綱	48
大阪市感染症発生動向調査委員会規則	56
大阪市感染症発生動向調査委員会委員名簿	58
大阪市感染症発生動向調査指定届出機関一覧	59



## 2019年における事業概要

大阪市における感染症発生動向調査事業は、昭和57年に調査事業を開始して以来、現在では、大阪府および府下保健所設置市との密接な連携と、大阪府医師会、定点医療機関などの協力のもと行っている。

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、感染症法という。）では、一類から五類感染症（全数把握と定点把握）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を対象感染症とし、情報の収集・分析・提供・公開を行っている。

本事業で定点把握対象の五類感染症の発生状況を届け出る「指定届出機関（定点）」は、インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、性感染症定点および基幹定点から成っている。また、2008年4月1日より感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省で定める疑似症について、疑似症定点からの報告を受けている。

2019年12月末の指定数は、インフルエンザ定点82、小児科定点56、眼科定点17、性感染症定点19、基幹定点4、疑似症定点10である。

### 1 患者情報の収集

ファクシミリ等の活用により、医療機関からの患者情報を、全数把握対象感染症は直ちにまたは7日以内に、定点把握対象感染症は週単位（一部月単位）で収集している。さらに、収集した情報はオンラインシステムにより国立感染症研究所（中央感染症情報センター）に報告している。

### 2 情報の解析・評価

学識経験者、医療関係団体・医療施設等の代表者、関係行政機関の職員等により構成される大阪市感染症発生動向調査委員会において、収集した情報の解析・評価を行っている。

### 3 情報の提供・公開

収集した感染症情報を大阪市感染症週報などにより定点医療機関、大阪府医師会など関連機関に広く情報提供している。また、市ホームページにも感染症情報を掲載し、市民への情報提供も行っている。

### 4 病原体情報の収集

患者定点の中から病原体定点を選定し、これらの病原体定点から提供される検体について、微生物検査を地方衛生研究所である地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所において行っている。

## 1 定点把握感染症（性感染症を除く）

大阪市ブロック別区対照表

北部	北区、都島区、東淀川区、旭区、淀川区
西部	福島区、港区、此花区、大正区、西区、西淀川区
東部	中央区、生野区、天王寺区、城東区、浪速区、鶴見区、東成区
南部	阿倍野区、平野区、住之江区、西成区、住吉区、東住吉区



警報・注意報の基準値

対象疾患	警報		注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A 群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

2019年感染症発生動向調査 カレンダー

週	調査対象期間		
1	12/31	～	1/6
2	1/7	～	1/13
3	1/14	～	1/20
4	1/21	～	1/27
5	1/28	～	2/3
6	2/4	～	2/10
7	2/11	～	2/17
8	2/18	～	2/24
9	2/25	～	3/3
10	3/4	～	3/10
11	3/11	～	3/17
12	3/18	～	3/24
13	3/25	～	3/31
14	4/1	～	4/7
15	4/8	～	4/14
16	4/15	～	4/21
17	4/22	～	4/28
18	4/29	～	5/5
19	5/6	～	5/12
20	5/13	～	5/19
21	5/20	～	5/26
22	5/27	～	6/2
23	6/3	～	6/9
24	6/10	～	6/16
25	6/17	～	6/23
26	6/24	～	6/30

週	調査対象期間		
27	7/1	～	7/7
28	7/8	～	7/14
29	7/15	～	7/21
30	7/22	～	7/28
31	7/29	～	8/4
32	8/5	～	8/11
33	8/12	～	8/18
34	8/19	～	8/25
35	8/26	～	9/1
36	9/2	～	9/8
37	9/9	～	9/15
38	9/16	～	9/22
39	9/23	～	9/29
40	9/30	～	10/6
41	10/7	～	10/13
42	10/14	～	10/20
43	10/21	～	10/27
44	10/28	～	11/3
45	11/4	～	11/10
46	11/11	～	11/17
47	11/18	～	11/24
48	11/25	～	12/1
49	12/2	～	12/8
50	12/9	～	12/15
51	12/16	～	12/22
52	12/23	～	12/29

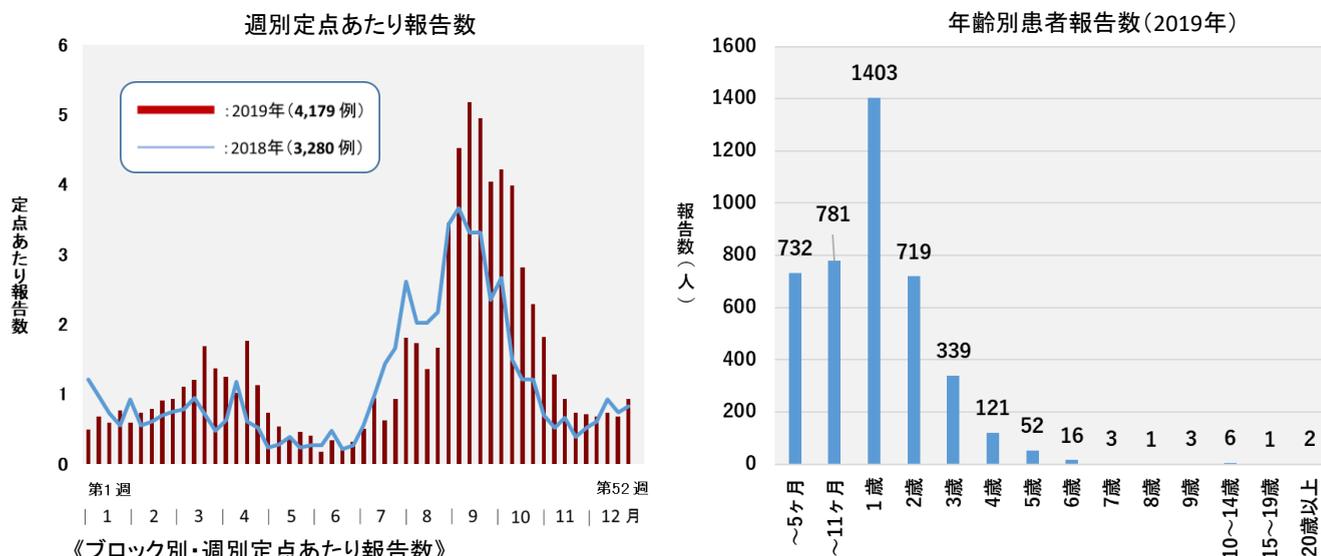
# 1) 小児科定点把握疾患

## ア RSウイルス感染症

2019年のRSウイルス感染症の報告数は4,179人、定点当たりの報告数の年平均は1.42であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.95であり、2019年は最も多い報告数であった。

RSウイルス感染症は年々流行が早まり、週別定点当たり報告数では、2019年は前年と同時期の第27週から増加し始め、ピークは第37週の5.18であった。

年齢別患者報告数は、1歳の1,403人が最も多く、6～11ヶ月の781人、0～5ヶ月の732人、2歳の719人と続き、3歳以下で全体の95.1%を占めている。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.49	0.68	0.60	0.77	0.60	0.74	0.79	0.91	0.93	1.11	1.21	1.68	1.37	1.25	1.02	1.77	1.13	0.73
北部	1.36	1.14	0.93	1.00	0.93	1.29	1.07	1.43	0.93	1.79	1.71	2.86	2.43	1.14	1.00	1.92	1.08	1.23
西部	0.30	0.60	0.90	0.80	1.10	0.80	1.00	1.10	1.20	1.90	1.40	1.40	1.60	2.20	1.00	2.50	2.30	1.80
東部	0.33	0.53	0.40	0.60	0.07	0.33	0.60	0.33	1.00	0.33	0.13	1.07	0.67	0.33	0.60	1.27	0.60	0.27
南部	0.06	0.50	0.33	0.72	0.50	0.61	0.61	0.89	0.72	0.78	1.61	1.44	1.00	1.56	1.39	1.67	0.94	0.17

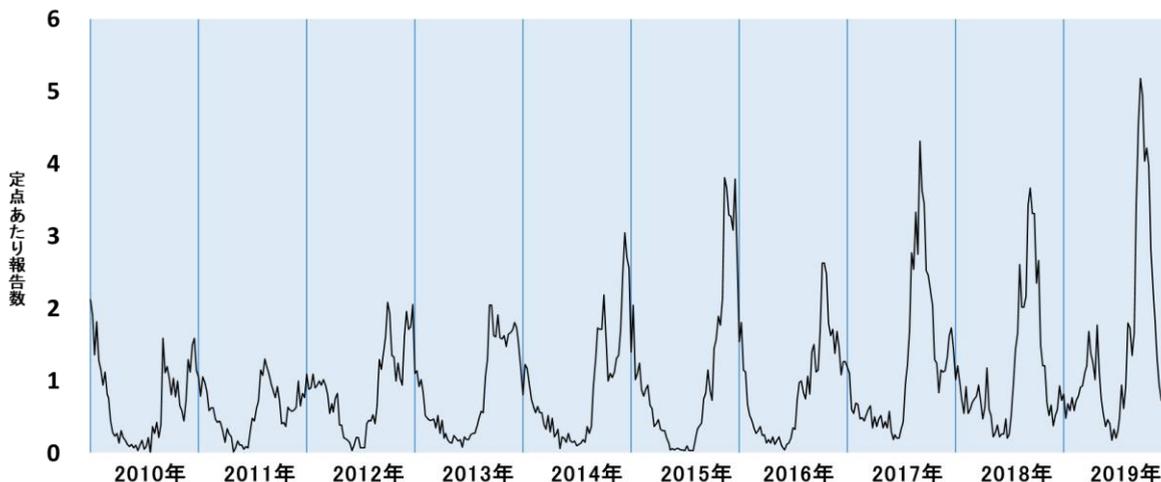
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.54	0.38	0.46	0.41	0.18	0.34	0.21	0.32	0.50	0.95	0.63	0.93	1.80	1.73	1.36	1.66	3.45	4.53
北部	1.08	0.54	0.46	0.62	0.31	0.23	0.38	0.85	0.92	2.08	1.15	1.62	3.46	2.08	2.38	2.31	6.00	5.92
西部	0.30	0.30	1.30	0.30	0.10	0.20	0.10	0.20	0.10	0.40	0.30	0.40	1.00	2.00	1.60	2.00	3.20	6.22
東部	0.20	0.27	0.07	0.33	0.13	0.27	0.13	0.27	0.47	1.00	1.00	1.00	1.20	1.27	0.47	1.33	3.47	4.27
南部	0.56	0.39	0.33	0.39	0.17	0.56	0.22	0.06	0.44	0.39	0.11	0.67	1.56	1.72	1.22	1.28	1.72	2.89

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	5.18	4.95	4.04	4.22	3.98	2.82	2.29	1.82	1.29	0.93	0.73	0.71	0.68	0.73	0.68	0.93	1.42
北部	7.77	8.15	6.62	7.15	6.15	5.00	4.64	3.14	2.14	2.29	0.79	1.43	1.29	1.79	1.36	1.29	2.28
西部	5.22	7.00	5.67	5.00	4.67	2.89	2.89	1.89	1.89	1.11	1.33	1.22	1.22	0.89	0.56	1.33	1.71
東部	3.40	2.27	2.53	2.73	1.80	1.60	0.93	1.40	0.80	0.33	0.67	0.53	0.33	0.27	0.73	0.93	0.92
南部	4.78	3.83	2.61	2.94	3.89	2.22	1.28	1.11	0.72	0.28	0.44	0.06	0.22	0.22	0.17	0.44	1.07

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)

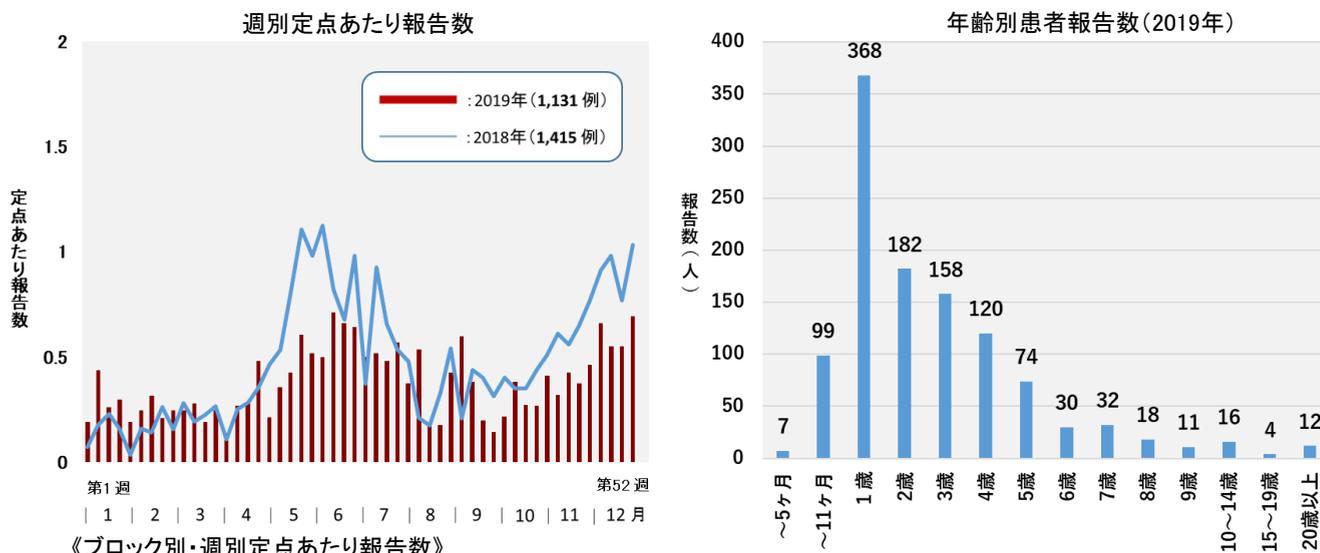


# イ 咽頭結膜熱

2019年の咽頭結膜熱の報告数は1,131人、定点当たりの報告数の年平均は0.38であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.41である。

週別定点あたり報告数では、夏期と冬期の二峰性の流行をみせ、ピークは第24週の0.71であった。

年齢別患者報告数は、1歳の368人、2歳の182人、3歳の158人と続き、5歳以下で全体の89.1%を占めた。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.19	0.44	0.26	0.30	0.19	0.25	0.32	0.21	0.25	0.25	0.28	0.19	0.25	0.14	0.27	0.29	0.48	0.21
北部	0.07	0.57	0.29	0.43	0.21	0.43	0.36	0.29	0.14	0.29	0.21	0.14	0.07	0.14	0.38	0.46	0.46	0.08
西部	0.60	0.30	0.30	0.30	0.20	0.10	0.30	0.20	0.20	0.20	0.10	0.20	0.20	0.10	0.10	0.20	0.10	0.90
東部	0.20	0.53	0.33	0.20	0.13	0.20	0.27	0.40	0.20	0.27	0.13	0.20	0.20	0.13	0.27	0.33	0.73	0.13
南部	0.06	0.33	0.17	0.28	0.22	0.22	0.33	0.00	0.39	0.22	0.56	0.22	0.44	0.17	0.28	0.17	0.50	0.00

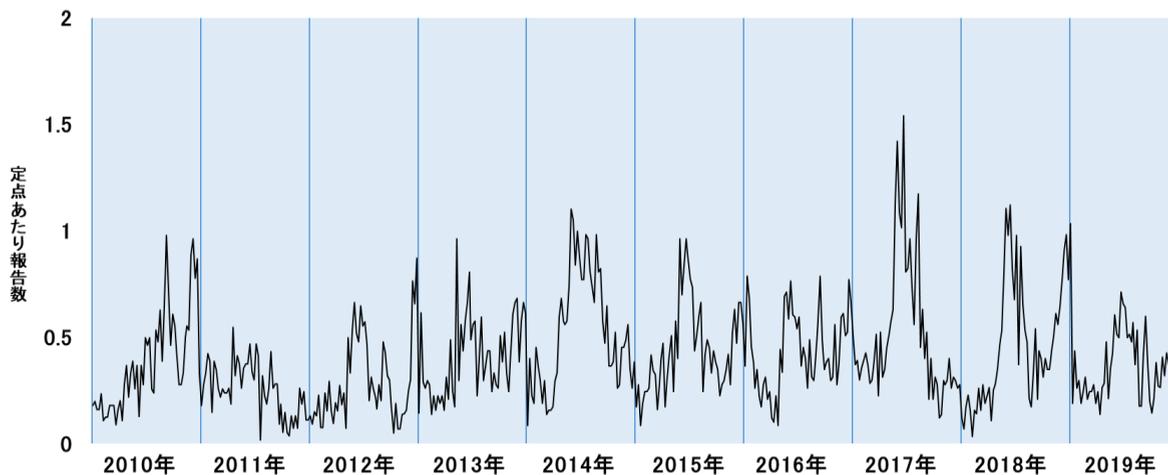
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.36	0.43	0.61	0.52	0.50	0.71	0.66	0.64	0.50	0.52	0.48	0.57	0.38	0.54	0.18	0.18	0.43	0.60
北部	0.46	0.69	0.23	0.38	0.38	0.54	0.46	0.69	0.38	0.38	0.46	0.23	0.38	0.31	0.00	0.23	0.46	0.54
西部	0.40	0.40	0.30	0.30	0.40	0.30	0.30	0.50	0.80	0.30	0.90	0.10	0.40	0.50	0.30	0.00	0.30	0.11
東部	0.53	0.40	0.80	0.53	0.53	0.87	0.80	0.87	0.33	0.40	0.13	0.73	0.13	0.07	0.13	0.00	0.07	0.13
南部	0.11	0.28	0.89	0.72	0.61	0.94	0.89	0.50	0.56	0.83	0.56	0.94	0.56	1.11	0.28	0.39	0.78	1.28

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.38	0.20	0.15	0.22	0.38	0.27	0.27	0.41	0.32	0.43	0.38	0.46	0.66	0.55	0.55	0.70	0.38
北部	0.15	0.15	0.23	0.00	0.46	0.15	0.21	0.36	0.43	0.14	0.21	0.50	1.07	0.29	0.57	0.29	0.34
西部	0.11	0.22	0.22	0.22	0.11	0.22	0.56	0.44	0.22	0.00	0.33	0.33	0.44	0.33	0.44	0.44	0.31
東部	0.20	0.20	0.00	0.20	0.07	0.27	0.20	0.13	0.13	0.67	0.20	0.27	0.13	0.60	0.40	0.47	0.32
南部	0.83	0.22	0.17	0.39	0.72	0.39	0.22	0.67	0.44	0.67	0.67	0.67	0.89	0.83	0.72	1.33	0.51

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)

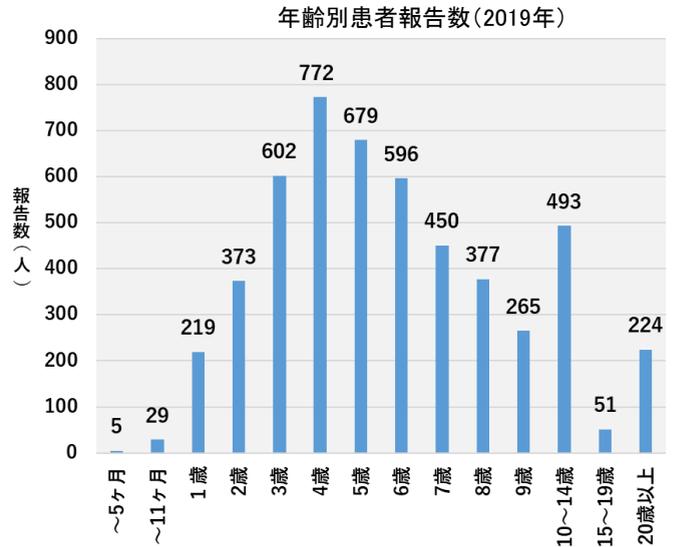
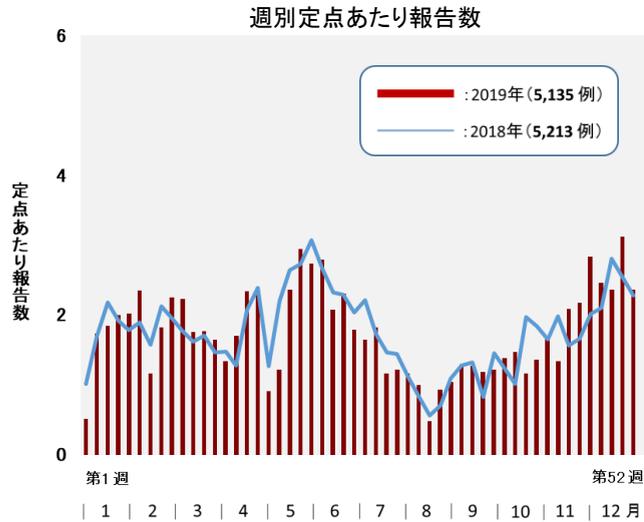


## ウ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2019年のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は5,135人、定点当たりの報告数の年平均は1.75であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.53である。

週別定点あたり報告数は、初夏と冬期に流行があり、例年と同様の傾向であった。ピークは第51週の3.13であった。

年齢別患者報告数は4歳の772人、5歳の679人、3歳の602人と続いた。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.51	1.74	1.84	2.00	2.02	2.35	1.16	1.82	2.25	2.23	1.75	1.77	1.65	1.33	1.70	2.34	2.29	0.91
北部	0.79	1.29	1.00	0.93	1.29	1.29	0.86	1.36	2.71	2.21	1.71	1.79	1.79	1.50	1.62	2.08	2.15	2.23
西部	1.00	1.80	1.80	2.60	2.00	1.70	1.60	2.50	2.20	3.40	1.70	0.90	1.70	0.50	2.00	2.00	2.00	1.30
東部	0.33	1.13	1.20	1.07	1.00	2.00	0.60	1.07	0.67	0.47	0.87	0.73	0.47	0.80	1.07	1.27	1.53	0.07
南部	0.17	2.56	3.06	3.28	3.44	3.83	1.61	2.44	3.22	3.06	2.56	3.11	2.50	2.11	2.11	3.61	3.17	0.44

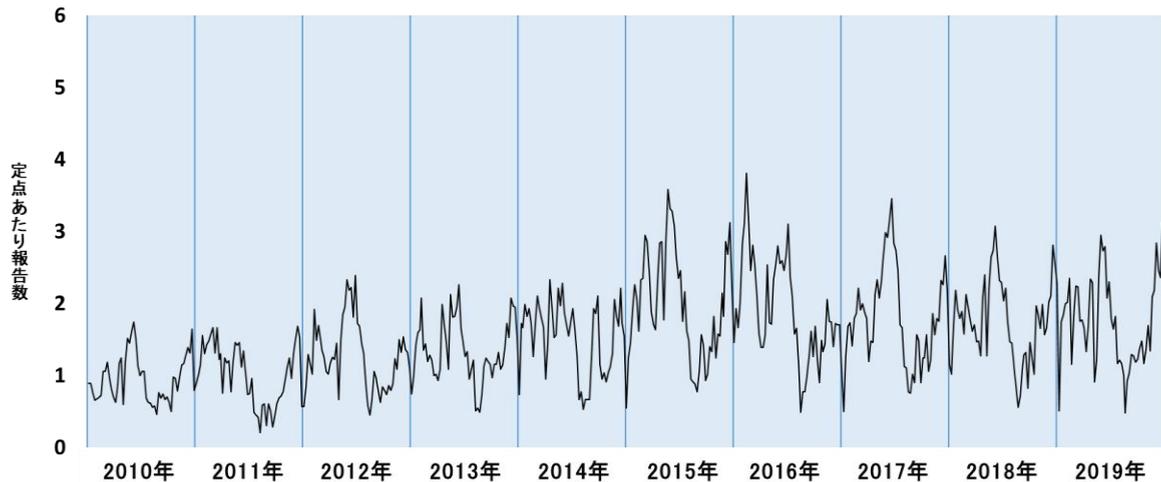
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	1.21	2.36	2.95	2.73	2.79	2.07	2.30	1.79	1.64	1.82	1.16	1.21	1.16	1.00	0.48	0.93	1.04	1.29
北部	1.00	1.77	1.92	2.54	1.69	1.23	1.85	1.08	1.38	1.31	0.85	1.23	1.54	0.54	0.38	0.69	0.62	0.62
西部	1.60	3.20	3.30	3.50	2.10	1.60	1.90	1.60	1.50	2.30	1.50	1.30	1.30	1.30	1.10	1.10	1.20	1.67
東部	0.80	1.47	1.93	1.53	2.00	1.60	1.20	1.27	0.73	1.00	0.60	0.80	0.40	0.67	0.13	0.60	1.07	0.67
南部	1.50	3.06	4.33	3.44	4.61	3.33	3.78	2.83	2.67	2.61	1.67	1.50	1.44	1.44	0.50	1.28	1.22	2.11

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	1.27	1.18	1.22	1.38	1.47	1.16	1.36	1.70	1.34	2.09	2.18	2.84	2.46	2.36	3.13	2.36	1.75
北部	1.23	1.15	0.92	0.62	0.77	1.15	1.43	1.93	1.21	0.93	2.00	2.36	2.50	2.00	3.00	2.29	1.47
西部	2.33	1.78	1.33	2.22	0.78	1.22	2.44	1.78	1.89	3.67	3.56	3.89	3.11	2.44	4.78	2.56	2.03
東部	0.53	0.67	0.93	1.60	1.93	0.87	0.87	1.33	1.33	2.13	1.47	1.93	1.47	2.20	1.27	1.13	1.09
南部	1.39	1.33	1.61	1.33	1.94	1.39	1.17	1.78	1.17	2.17	2.22	3.44	2.94	2.72	3.94	3.33	2.38

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週~2019年第52週)



## エ 感染性胃腸炎

2019年の感染性胃腸炎の報告数は14,067人で、定点当たりの報告数の年平均は4.77であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は4.55である。

週別定点あたり報告数は春期と、冬期に流行をみせ、ピークは第51週の8.96であった。

0～9歳における年齢別患者報告数は1歳が2,380人と最も多く、2歳の1,617人、3歳の1,408人と続き、0～4歳で全体の56.3%を占めた。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	2.14	6.25	4.81	5.88	6.05	6.21	5.54	6.39	5.09	5.70	5.51	4.74	5.18	5.02	6.61	8.70	7.91	3.52
北部	3.07	9.50	6.71	6.86	7.43	7.50	7.29	8.93	6.50	6.29	7.07	5.50	5.29	5.14	7.15	13.38	10.46	6.00
西部	4.90	7.90	6.90	5.70	8.20	9.20	8.10	4.70	3.50	6.70	3.40	5.20	6.50	7.60	7.80	7.40	7.80	7.50
東部	1.33	2.93	2.67	3.60	3.47	2.53	3.00	3.80	4.07	3.73	3.73	3.13	2.67	2.20	3.60	4.27	4.67	1.00
南部	0.56	5.56	3.94	7.11	5.94	6.61	4.89	7.50	5.72	6.33	6.94	5.22	6.44	5.83	8.06	9.72	8.83	1.61

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	5.18	6.25	6.93	6.88	5.77	4.34	3.64	3.77	3.34	3.50	3.11	2.88	2.98	2.05	1.57	2.20	3.13	2.95
北部	8.62	9.85	11.00	9.00	8.23	6.23	5.85	5.00	4.08	4.46	3.00	3.85	3.54	2.23	2.00	3.00	3.23	3.85
西部	5.00	5.80	5.80	5.80	4.20	4.30	3.50	5.70	3.60	3.40	3.40	2.10	3.80	2.60	2.90	1.90	3.00	3.00
東部	3.33	3.47	3.40	4.27	3.73	2.20	1.07	1.60	1.87	2.60	2.67	1.80	1.53	0.93	1.27	1.87	2.33	1.27
南部	4.33	6.22	7.56	8.11	6.56	4.78	4.28	3.61	3.89	3.61	3.39	3.50	3.33	2.56	0.78	2.06	3.78	3.67

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	3.00	2.82	2.25	3.24	3.36	2.44	2.55	3.50	3.07	5.59	5.34	6.48	8.09	8.48	8.96	7.16	4.77
北部	3.31	3.15	3.15	4.92	4.69	3.46	2.57	3.57	3.93	4.71	7.50	5.79	7.07	9.79	11.00	8.57	6.04
西部	3.78	3.33	2.33	4.67	4.33	2.00	2.67	3.78	2.33	8.78	7.22	10.67	17.33	13.44	13.89	10.78	5.77
東部	1.40	1.67	1.20	1.47	2.00	1.80	1.87	1.87	1.87	3.40	1.67	3.00	2.47	4.47	3.73	4.20	2.61
南部	3.72	3.28	2.44	2.78	3.06	2.44	3.06	4.67	3.78	6.50	5.78	7.83	8.94	8.33	9.28	6.72	5.10

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)

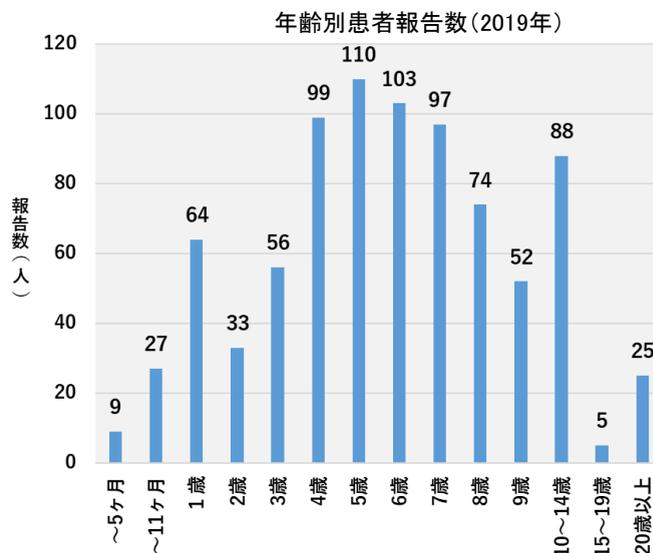
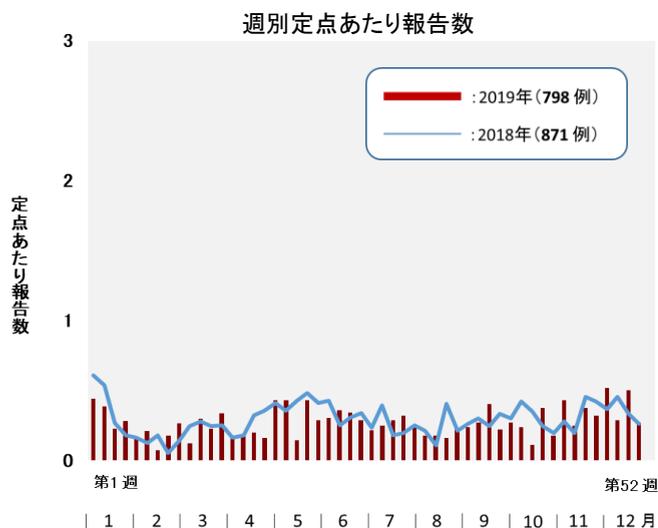


# オ 水痘

2019年の水痘の報告数は798人、定点当たりの報告数の年平均は0.27であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.67である。

2014年10月の水痘ワクチンの定期接種導入以降は報告数が減少しており、2019年は最も少ない報告数であった。

年齢別患者報告数は5歳の110人が最も多く、6歳の103人、4歳の99人と続いた。



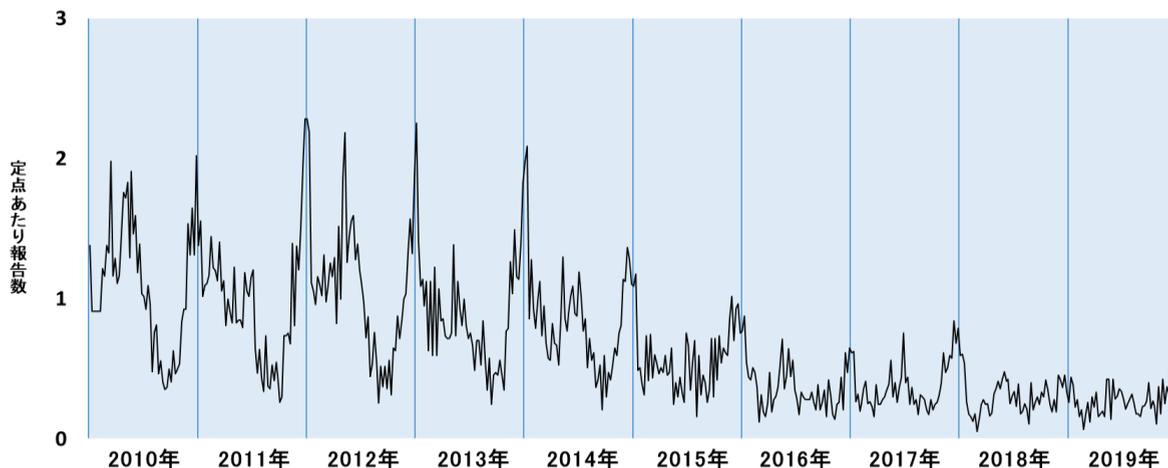
《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.44	0.39	0.23	0.28	0.16	0.21	0.07	0.18	0.26	0.12	0.30	0.23	0.33	0.16	0.18	0.20	0.16	0.43
北部	0.93	0.43	0.43	0.07	0.21	0.21	0.21	0.14	0.36	0.29	0.14	0.29	0.71	0.29	0.23	0.15	0.23	1.00
西部	0.90	0.40	0.10	0.40	0.20	0.50	0.10	0.50	0.10	0.20	0.30	0.70	0.30	0.30	0.40	0.20	0.20	0.80
東部	0.20	0.47	0.33	0.27	0.27	0.13	0.00	0.07	0.20	0.07	0.47	0.07	0.27	0.07	0.13	0.20	0.20	0.13
南部	0.00	0.28	0.06	0.39	0.00	0.11	0.00	0.11	0.33	0.00	0.28	0.06	0.11	0.06	0.06	0.22	0.06	0.06

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.43	0.14	0.43	0.29	0.30	0.36	0.34	0.29	0.21	0.25	0.29	0.32	0.25	0.18	0.18	0.16	0.23	0.24
北部	1.08	0.23	1.00	0.54	0.38	0.31	0.69	0.38	0.46	0.23	0.38	0.46	0.08	0.23	0.31	0.23	0.31	0.38
西部	0.20	0.10	0.20	0.10	0.20	0.20	0.30	0.00	0.20	0.30	0.30	0.50	0.70	0.10	0.50	0.20	0.30	0.22
東部	0.27	0.20	0.20	0.27	0.27	0.60	0.07	0.47	0.13	0.20	0.40	0.13	0.07	0.27	0.07	0.07	0.07	0.07
南部	0.22	0.06	0.33	0.22	0.33	0.28	0.33	0.22	0.11	0.28	0.11	0.28	0.28	0.11	0.00	0.17	0.28	0.28

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.27	0.40	0.22	0.27	0.24	0.11	0.38	0.18	0.43	0.25	0.38	0.32	0.52	0.29	0.50	0.27	0.27
北部	0.23	1.00	0.31	0.62	0.31	0.08	0.50	0.50	0.50	0.57	0.57	0.64	0.57	0.50	0.36	0.50	0.42
西部	0.33	0.22	0.33	0.44	0.44	0.00	0.44	0.22	0.44	0.22	0.11	0.56	1.00	0.33	0.67	0.00	0.33
東部	0.33	0.13	0.13	0.07	0.07	0.20	0.27	0.07	0.27	0.20	0.47	0.20	0.47	0.20	0.73	0.13	0.22
南部	0.22	0.28	0.17	0.11	0.22	0.11	0.33	0.00	0.50	0.06	0.28	0.06	0.28	0.17	0.33	0.33	0.18

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)

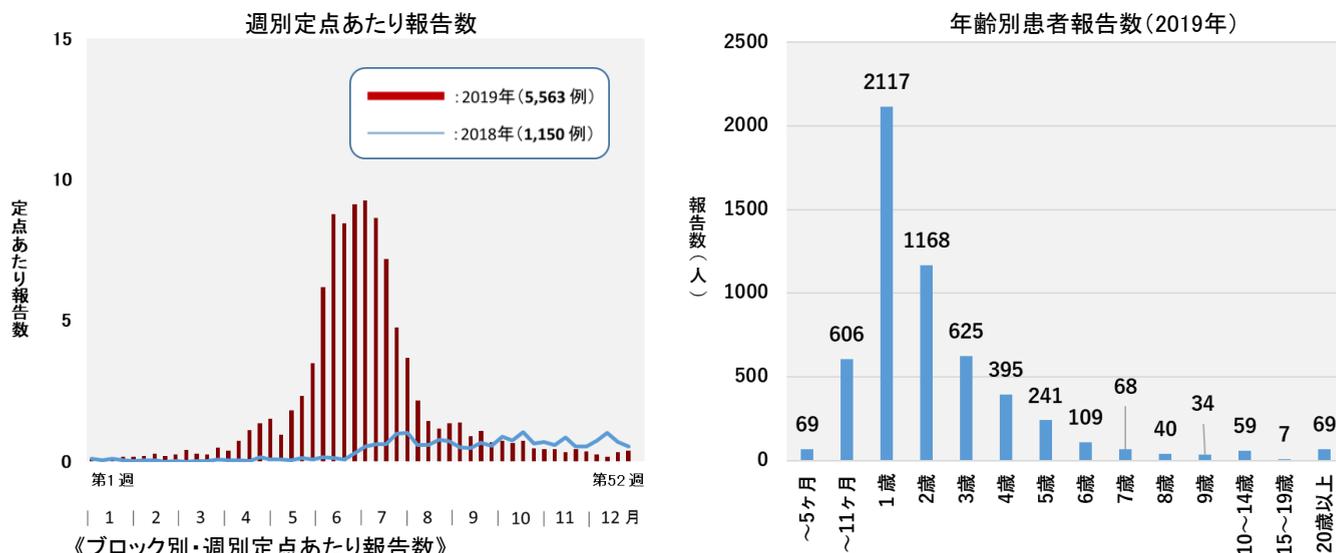


## カ 手足口病

2019年の手足口病の報告数は5,563人、定点当たりの報告数の年平均は1.90であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.06である。

夏型感染症である手足口病は、2011年に変異したCV-A6による大流行が起こってから、1年おきに大きな流行がみられ、2019年は流行年に当たる年であり、過去10年で四番目に多い報告数であった。

年齢別患者報告数は、1歳の2,117人が最も多く、2歳の1,168人、3歳の625人と続き、0～4歳で全体の89.5%を占めた。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.09	0.11	0.14	0.16	0.18	0.21	0.28	0.21	0.26	0.42	0.28	0.26	0.49	0.39	0.75	1.11	1.36	1.52
北部	0.21	0.00	0.29	0.21	0.43	0.14	0.21	0.00	0.21	0.64	0.29	0.29	0.64	0.21	1.00	1.08	2.92	5.15
西部	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.00	0.30	0.00	0.40	0.50	0.60	0.00	0.30	0.20	0.30	1.00	0.80	1.10
東部	0.13	0.20	0.00	0.13	0.13	0.40	0.47	0.53	0.47	0.20	0.20	0.20	0.53	0.33	1.27	1.33	1.07	0.20
南部	0.00	0.11	0.22	0.17	0.11	0.22	0.17	0.22	0.06	0.39	0.17	0.44	0.44	0.67	0.39	1.00	0.78	0.22

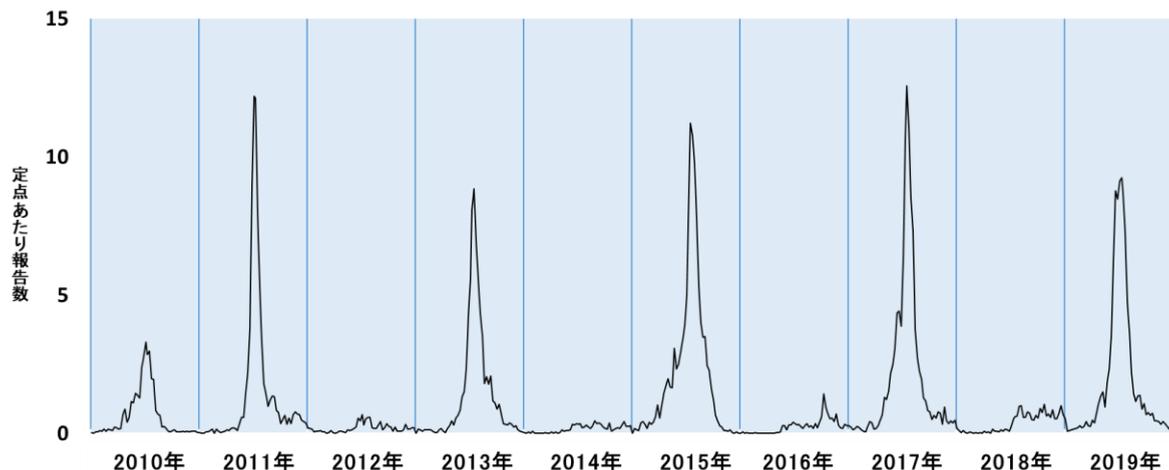
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.96	1.82	2.32	3.50	6.20	8.77	8.46	9.13	9.25	8.64	7.20	4.75	3.68	2.18	1.43	1.16	1.36	1.38
北部	1.92	3.00	4.38	5.77	9.31	13.08	10.92	13.54	10.85	8.08	9.23	5.85	6.08	3.38	2.38	1.92	2.62	2.23
西部	0.70	1.80	1.10	3.00	6.10	8.00	7.50	8.30	7.60	9.60	8.10	6.00	4.10	2.30	2.80	0.70	1.10	1.33
東部	0.67	1.67	1.87	2.20	2.53	4.07	4.60	4.93	5.80	7.20	5.07	3.27	1.60	1.47	0.27	0.87	1.07	0.87
南部	0.67	1.11	1.89	3.22	7.06	10.00	10.44	9.89	11.89	9.72	7.00	4.50	3.44	1.83	0.94	1.11	0.83	1.22

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.89	1.09	0.69	0.75	0.65	0.73	0.46	0.45	0.43	0.34	0.43	0.36	0.25	0.16	0.32	0.38	1.90
北部	1.15	1.69	1.31	1.00	1.15	0.62	0.29	0.57	0.71	0.07	0.29	0.21	0.21	0.07	0.36	0.29	2.66
西部	1.67	1.56	0.33	1.00	0.67	0.67	0.89	0.33	0.11	0.33	0.11	0.33	0.00	0.00	0.00	0.33	1.81
東部	0.47	0.20	0.40	0.53	0.40	0.27	0.07	0.13	0.07	0.13	0.13	0.47	0.13	0.33	0.40	0.53	1.20
南部	0.67	1.17	0.67	0.61	0.50	1.22	0.72	0.67	0.67	0.72	0.94	0.39	0.50	0.17	0.39	0.33	1.98

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)

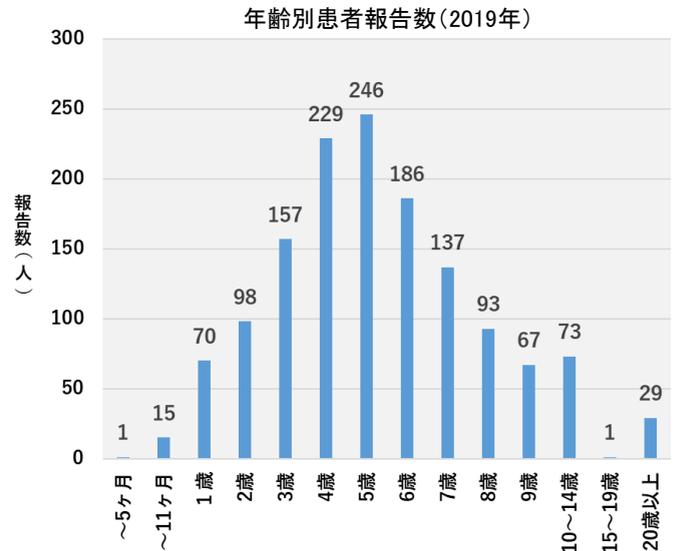
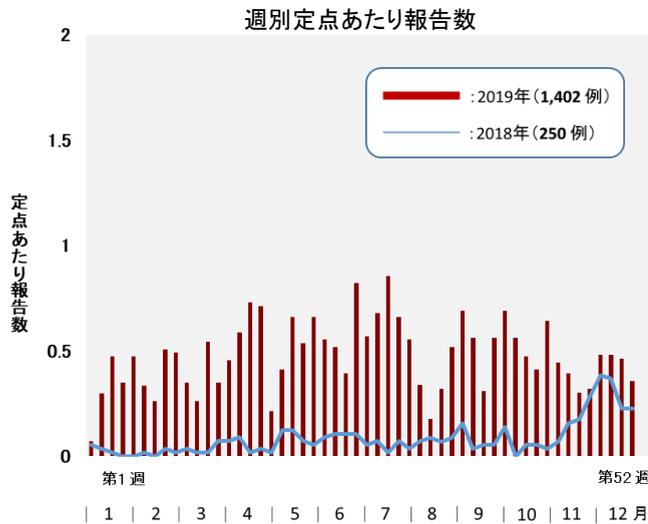


# キ 伝染性紅斑

2019年の伝染性紅斑の報告数は1,402人、定点当たりの報告数の年平均は0.48であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.16であり、2019年は最も多い報告数であった。

伝染性紅斑は約4年毎に流行する傾向があり、2019年は一年を通じて報告数が多かった。週別定点あたり報告数では、ピークは第29週の0.86であった。

年齢別患者報告数は5歳の246人が最も多く、4歳の229人、6歳の186人と続いた。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.07	0.30	0.47	0.35	0.47	0.33	0.26	0.51	0.49	0.35	0.26	0.54	0.35	0.46	0.59	0.73	0.71	0.21
北部	0.14	0.93	1.14	0.71	0.71	0.21	0.36	0.43	0.21	0.36	0.07	1.14	0.57	0.71	1.23	1.54	1.15	0.46
西部	0.20	0.10	0.30	0.20	0.80	0.40	0.40	0.70	1.20	0.30	0.50	0.10	0.20	0.10	0.80	0.70	0.60	0.50
東部	0.00	0.13	0.27	0.13	0.20	0.53	0.07	0.27	0.27	0.47	0.27	0.13	0.13	0.27	0.40	0.47	0.53	0.07
南部	0.00	0.06	0.22	0.33	0.33	0.22	0.28	0.67	0.50	0.28	0.28	0.67	0.44	0.61	0.17	0.39	0.61	0.00

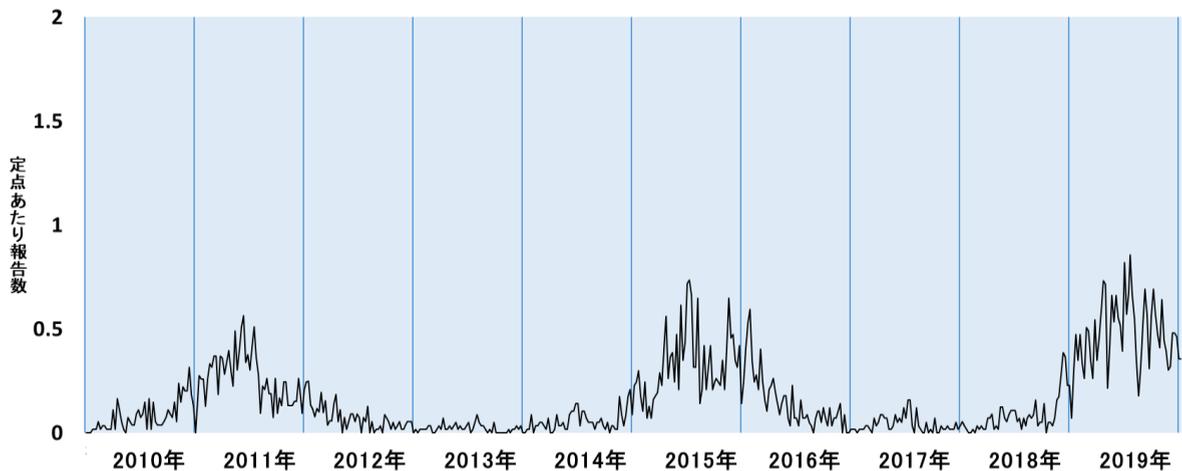
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.41	0.66	0.54	0.66	0.55	0.52	0.39	0.82	0.57	0.68	0.86	0.66	0.55	0.34	0.18	0.32	0.52	0.69
北部	0.54	0.69	0.92	0.38	0.31	0.62	0.54	1.23	0.77	0.54	1.54	0.62	0.46	0.38	0.54	0.23	0.69	0.62
西部	0.60	0.60	0.50	0.50	0.50	0.40	0.20	0.40	0.60	0.00	0.20	0.50	0.00	0.20	0.00	0.20	0.40	0.44
東部	0.20	0.47	0.27	0.73	0.40	0.27	0.40	0.60	0.27	0.93	0.67	0.40	0.93	0.20	0.13	0.40	0.47	0.47
南部	0.39	0.83	0.50	0.89	0.89	0.72	0.39	0.94	0.67	0.94	0.89	1.00	0.61	0.50	0.06	0.39	0.50	1.06

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.56	0.31	0.56	0.69	0.56	0.47	0.41	0.64	0.45	0.39	0.30	0.32	0.48	0.48	0.46	0.36	0.48
北部	0.38	0.23	0.77	1.08	0.77	0.85	0.57	1.14	0.71	0.43	0.43	0.43	0.64	0.36	0.79	0.50	0.65
西部	0.33	0.56	0.33	0.33	0.11	0.22	0.56	0.11	0.33	0.22	0.33	0.44	0.11	0.11	0.11	0.22	0.36
東部	0.60	0.20	0.60	0.47	0.67	0.47	0.13	0.73	0.27	0.33	0.33	0.20	0.40	0.60	0.20	0.27	0.37
南部	0.78	0.33	0.50	0.78	0.56	0.33	0.44	0.44	0.44	0.50	0.17	0.28	0.61	0.67	0.61	0.39	0.50

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週~2019年第52週)

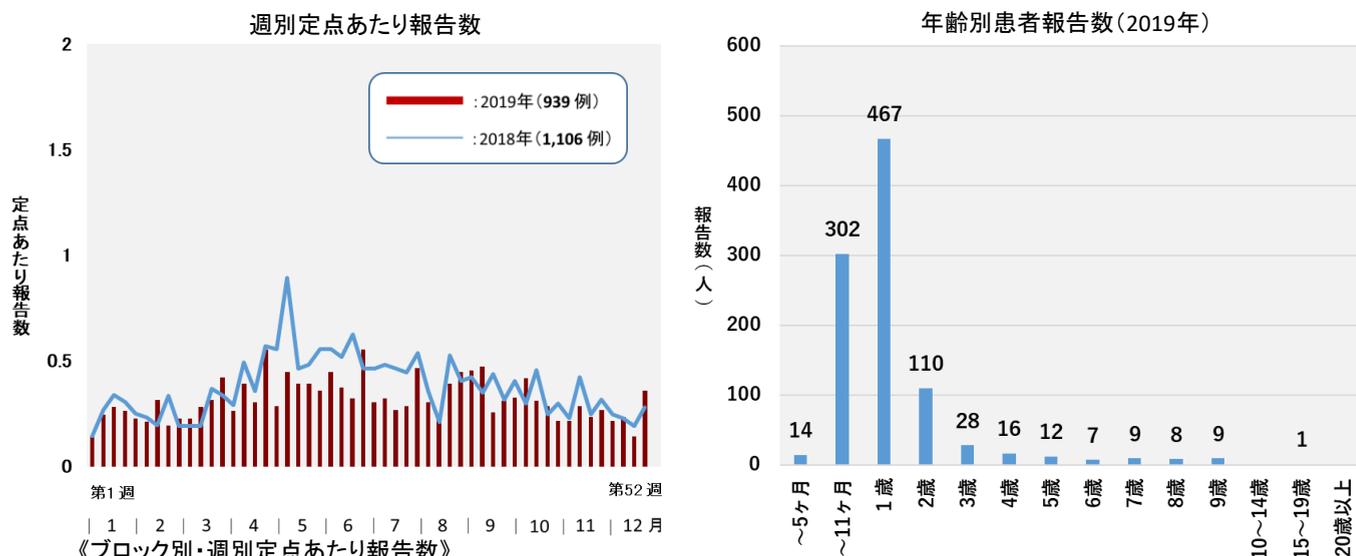


## ク 突発性発しん

2019年の突発性発しんの報告数は939人、定点当たりの報告数の年平均は0.32であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.40であり、2019年は最も少ない報告数であった。

週別定点あたり報告数では、例年と同様に季節変動は少なかった。

年齢別患者報告数は1歳が467人と最も多く、6～11ヶ月の302人と続き、両方で全体の81.9%を占めた。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.14	0.25	0.28	0.26	0.23	0.21	0.32	0.19	0.23	0.23	0.28	0.32	0.42	0.26	0.39	0.30	0.55	0.29
北部	0.43	0.29	0.36	0.29	0.36	0.29	0.29	0.36	0.43	0.21	0.64	0.71	0.21	0.43	0.62	0.62	0.62	0.85
西部	0.20	0.60	0.30	0.30	0.50	0.30	0.50	0.10	0.30	0.20	0.20	0.40	0.50	0.10	0.40	0.40	0.60	0.40
東部	0.00	0.13	0.27	0.13	0.07	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13	0.07	0.27	0.07	0.33	0.13	0.20	0.00
南部	0.00	0.11	0.22	0.33	0.11	0.17	0.39	0.17	0.11	0.33	0.17	0.17	0.67	0.39	0.28	0.17	0.78	0.06

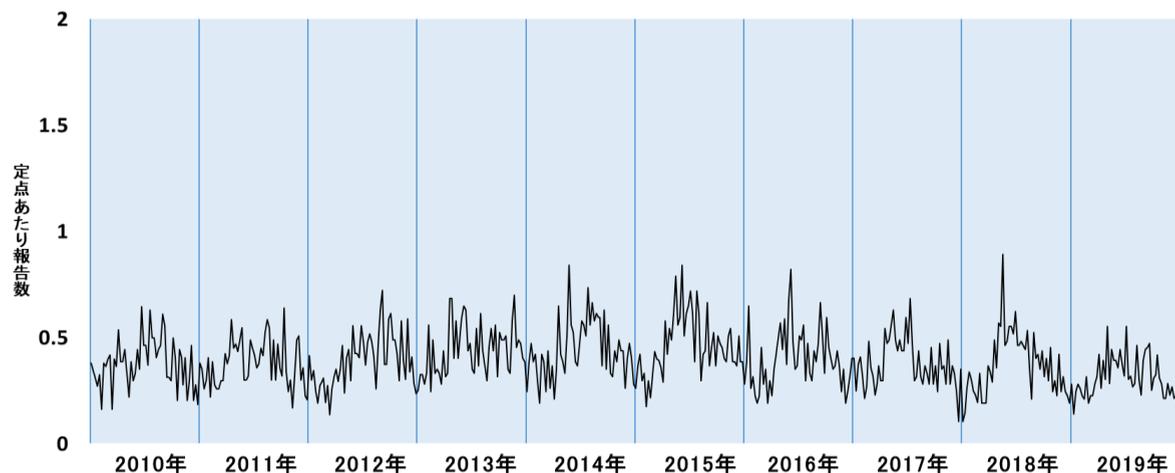
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.45	0.39	0.39	0.36	0.45	0.38	0.32	0.55	0.30	0.32	0.27	0.29	0.46	0.30	0.23	0.39	0.45	0.45
北部	0.38	0.54	0.38	0.54	0.54	0.31	0.08	0.46	0.46	0.15	0.77	0.38	0.69	0.31	0.62	0.77	0.31	0.77
西部	0.20	0.10	0.40	0.40	1.10	0.00	0.70	0.50	0.40	0.70	0.20	0.40	0.80	0.30	0.20	0.20	0.30	0.11
東部	0.40	0.47	0.47	0.27	0.13	0.33	0.33	0.53	0.07	0.40	0.20	0.13	0.20	0.07	0.20	0.27	0.47	0.27
南部	0.67	0.39	0.33	0.28	0.28	0.67	0.28	0.67	0.33	0.17	0.00	0.28	0.33	0.50	0.00	0.33	0.61	0.56

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.47	0.25	0.31	0.33	0.42	0.31	0.29	0.21	0.21	0.29	0.23	0.27	0.21	0.23	0.14	0.36	0.32
北部	0.38	0.31	0.38	0.46	0.85	0.54	0.43	0.36	0.36	0.43	0.29	0.21	0.36	0.29	0.14	0.36	0.43
西部	0.67	0.11	0.22	0.44	0.33	0.11	0.22	0.22	0.11	0.33	0.22	0.00	0.11	0.11	0.11	0.67	0.33
東部	0.33	0.00	0.53	0.13	0.33	0.40	0.07	0.20	0.00	0.07	0.13	0.20	0.13	0.13	0.20	0.00	0.20
南部	0.56	0.50	0.11	0.33	0.22	0.17	0.39	0.11	0.33	0.33	0.28	0.50	0.22	0.33	0.11	0.50	0.31

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)

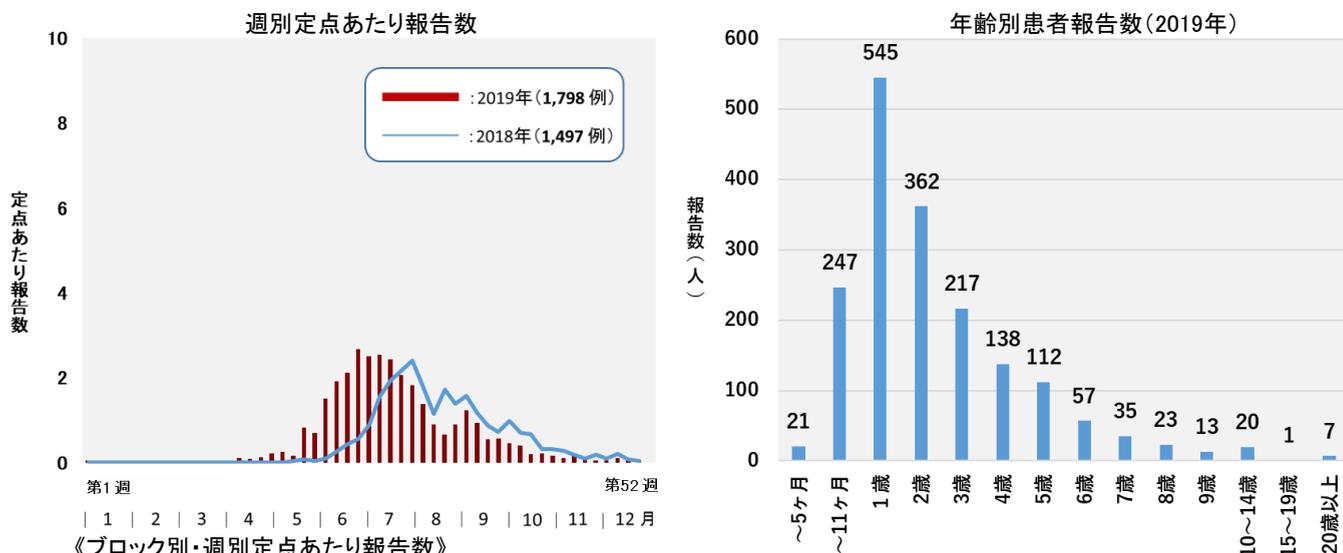


## ケ ヘルパンギーナ

2019年のヘルパンギーナの報告数は1,798人、定点当たりの報告数のは0.61であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.60である。

ヘルパンギーナは夏型感染症であり、週別定点あたり報告数では、ピークは第26週の2.68であった。

年齢別患者報告数は、1歳の545人が最も多く、次いで2歳の362人、6～11ヶ月の247人と続き、0～4歳で全体の85.1%を占めた。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.05	0.05	0.04	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.02	0.04	0.00	0.00	0.00	0.11	0.09	0.13	0.21
北部	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.23	0.15	0.38	0.54
西部	0.10	0.00	0.10	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.50
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.06	0.17	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.06	0.17	0.11	0.00

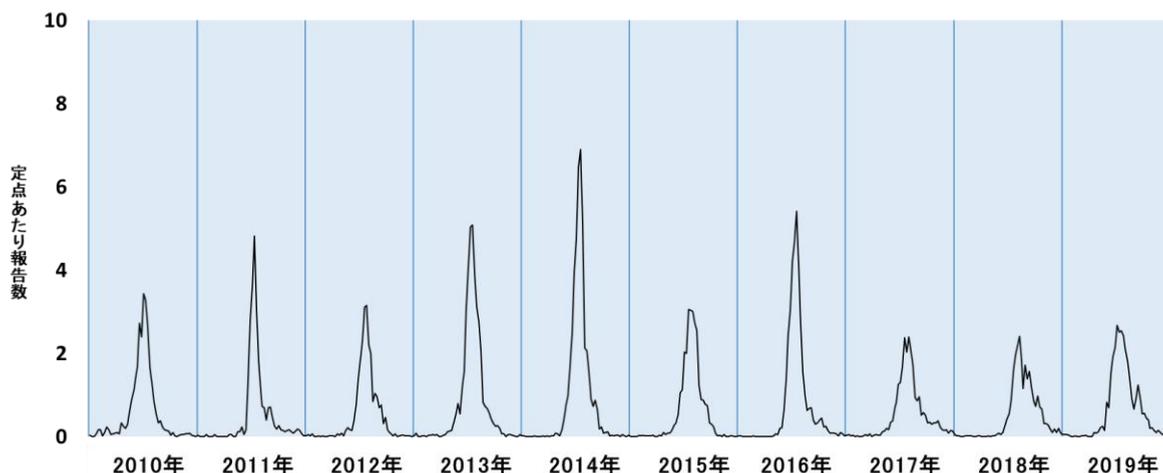
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.25	0.16	0.82	0.70	1.52	1.93	2.13	2.68	2.52	2.55	2.43	2.07	1.82	1.39	0.91	0.66	0.91	1.24
北部	0.69	0.54	2.23	1.92	3.00	4.15	3.38	3.69	3.92	4.31	4.31	3.69	3.15	2.23	1.85	1.00	1.54	2.23
西部	0.10	0.00	0.30	0.60	1.20	1.50	2.10	2.40	2.20	2.50	2.90	2.70	2.50	2.20	1.50	0.70	0.70	1.22
東部	0.20	0.07	0.47	0.13	0.60	0.60	1.53	1.13	1.20	0.80	1.33	0.80	1.00	0.73	0.33	0.27	0.33	0.67
南部	0.06	0.06	0.39	0.33	1.39	1.67	1.72	3.39	2.78	2.78	1.72	1.61	1.17	0.89	0.39	0.72	1.06	1.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.95	0.55	0.56	0.45	0.40	0.20	0.21	0.16	0.11	0.16	0.11	0.05	0.05	0.11	0.07	0.07	0.61
北部	2.00	1.08	1.08	0.62	0.85	0.38	0.36	0.29	0.21	0.07	0.21	0.14	0.07	0.36	0.21	0.07	1.10
西部	0.44	0.33	0.67	0.67	0.67	0.22	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.61
東部	0.40	0.27	0.07	0.13	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.13	0.00	0.13	0.07	0.00	0.07	0.26
南部	0.89	0.50	0.56	0.50	0.22	0.22	0.39	0.17	0.17	0.39	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.11	0.54

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)

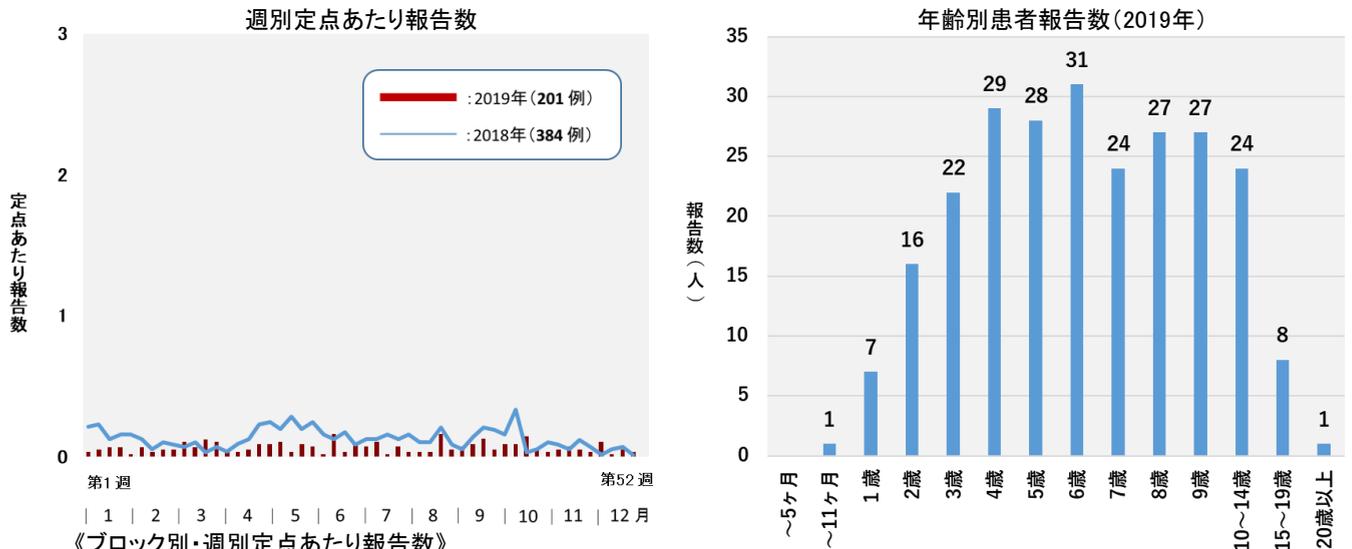


## コ 流行性耳下腺炎

2019年の流行性耳下腺炎の報告数は201人、定点当たりの報告数の年平均は0.07であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.41である。

流行性耳下腺炎は2010年と2016年に大きな流行があり、約4～5年毎に周期的流行をみせるが、2019年は大きな流行はみられず、過去10年間で最も少ない報告数であった。

0～9歳における年齢別患者報告数は、6歳の31人、4歳の29人、5歳の28人と続いた。



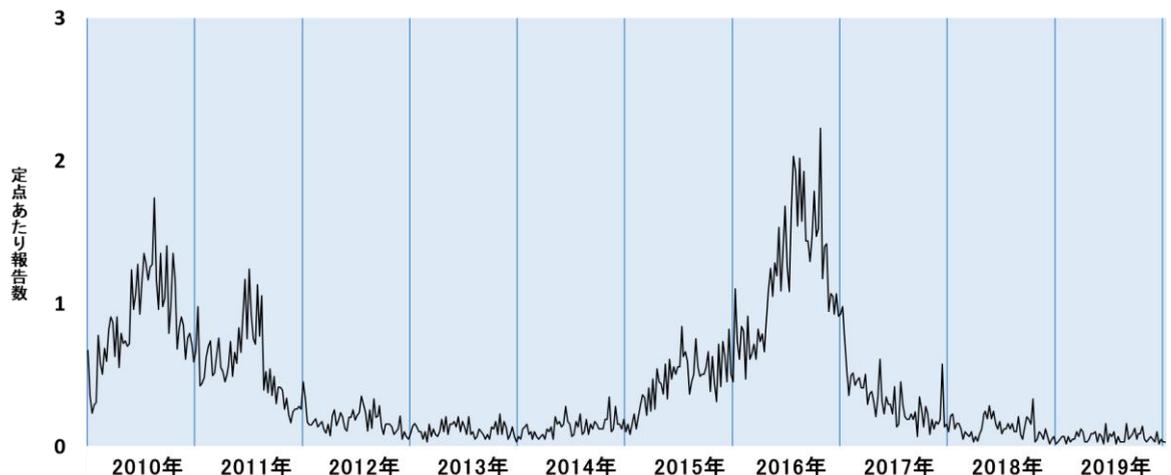
《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.04	0.05	0.07	0.07	0.02	0.07	0.04	0.05	0.05	0.11	0.07	0.12	0.11	0.04	0.04	0.05	0.09	0.09
北部	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.14	0.07	0.07	0.07	0.00	0.00	0.21	0.43	0.07	0.00	0.00	0.00	0.08
西部	0.10	0.20	0.10	0.10	0.00	0.20	0.00	0.20	0.20	0.40	0.20	0.20	0.00	0.10	0.10	0.20	0.20	0.20
東部	0.00	0.00	0.13	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.13	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07
南部	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.11	0.06

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.11	0.04	0.09	0.07	0.02	0.16	0.04	0.09	0.07	0.11	0.02	0.07	0.04	0.04	0.04	0.16	0.05	0.07
北部	0.31	0.15	0.31	0.08	0.08	0.23	0.00	0.15	0.08	0.08	0.00	0.15	0.08	0.00	0.15	0.00	0.08	0.00
西部	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.20	0.10	0.10	0.00	0.10	0.10	0.20	0.00	0.10	0.10	0.22
東部	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.13	0.00	0.00	0.07	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.13
南部	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.11	0.11	0.06	0.06	0.11	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.17	0.06	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.09	0.13	0.05	0.09	0.09	0.15	0.05	0.04	0.05	0.07	0.05	0.04	0.11	0.02	0.05	0.04	0.07
北部	0.23	0.15	0.08	0.15	0.08	0.15	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.36	0.07	0.07	0.14	0.10
西部	0.00	0.11	0.00	0.22	0.11	0.00	0.11	0.00	0.11	0.22	0.22	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.11
東部	0.13	0.00	0.00	0.07	0.13	0.13	0.13	0.13	0.07	0.07	0.07	0.13	0.07	0.00	0.07	0.00	0.06
南部	0.00	0.22	0.11	0.00	0.06	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04

定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)



## 2) インフルエンザ定点把握疾患

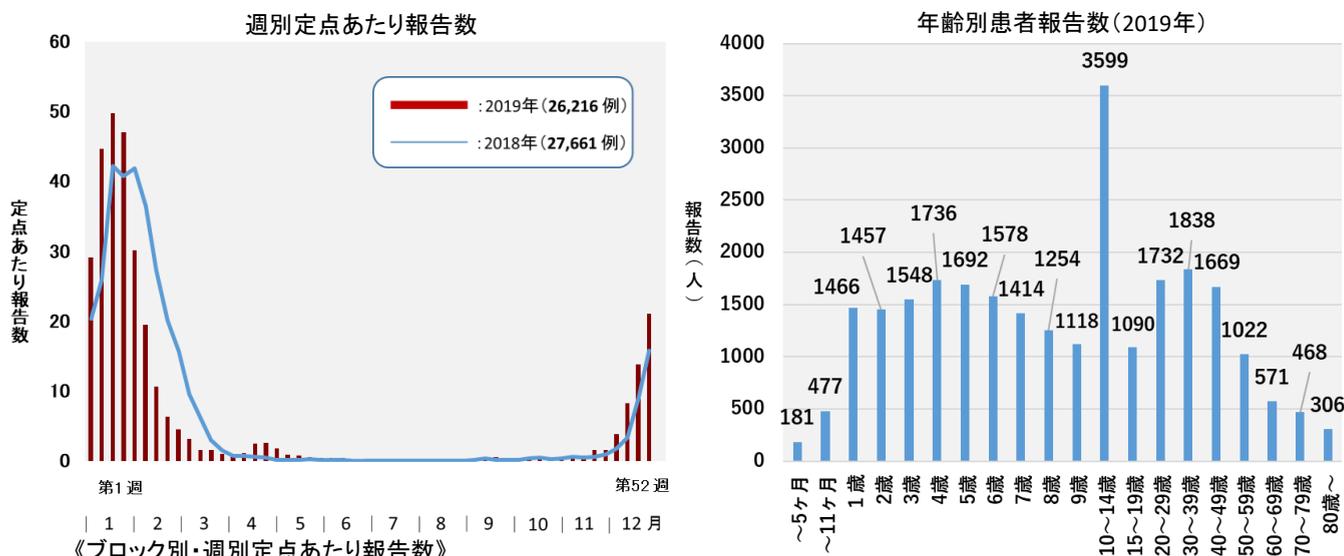
### インフルエンザ

2019年のインフルエンザの報告数は26,216人、定点当たりの報告数の年平均は6.08であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は4.51である。

週別定点あたり報告数では、警報レベル開始基準値である30を超えたのは第2週で、終息基準値である10を下回ったのは第8週であった。ピークは第3週の49.71であった。

年齢別患者報告数は、10～14歳が3,599人と最も多かった。

A型はAH1pdm09亜型が63例、AH3亜型が46例、B型はVictoria系統が4例検出された。



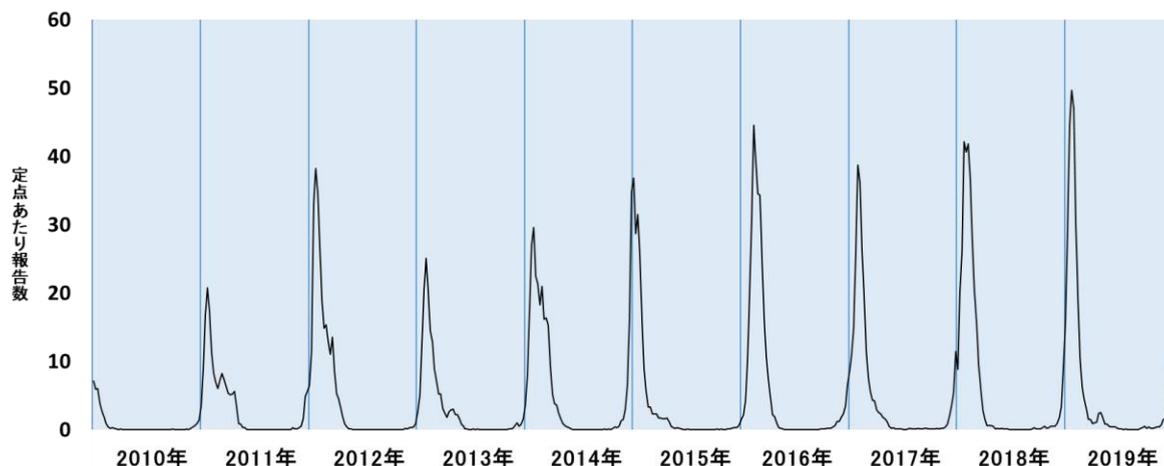
《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	29.16	44.60	49.71	47.04	30.16	19.47	10.65	6.31	4.46	3.12	1.53	1.51	0.95	1.01	1.12	2.44	2.51	1.74
北部	28.05	47.75	70.05	48.65	33.05	22.70	14.55	5.75	3.40	2.60	1.85	1.40	1.10	1.65	1.42	2.21	2.74	2.26
西部	76.40	74.27	63.53	58.33	40.73	27.73	15.73	9.87	8.47	5.00	1.87	1.60	0.80	0.87	1.60	2.80	2.80	5.47
東部	9.68	28.41	33.14	38.14	23.59	17.45	6.86	4.41	3.05	2.82	1.64	1.82	1.14	0.73	0.64	2.77	2.68	0.23
南部	19.23	38.77	40.12	46.81	27.38	14.38	7.92	6.31	4.15	2.69	1.00	1.30	0.78	0.85	1.04	2.12	2.04	0.50

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.85	0.80	0.52	0.41	0.45	0.43	0.23	0.16	0.13	0.06	0.12	0.05	0.05	0.01	0.05	0.05	0.06	0.27
北部	1.00	1.16	0.63	0.26	0.37	0.21	0.00	0.05	0.05	0.05	0.32	0.11	0.11	0.00	0.00	0.00	0.16	0.32
西部	1.80	1.47	0.87	0.67	0.80	1.27	1.00	0.33	0.47	0.20	0.20	0.13	0.07	0.07	0.07	0.20	0.00	0.36
東部	0.59	0.45	0.41	0.36	0.41	0.23	0.09	0.09	0.09	0.05	0.05	0.00	0.05	0.00	0.05	0.00	0.05	0.45
南部	0.42	0.46	0.35	0.42	0.35	0.27	0.08	0.19	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.04	0.04	0.04

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.30	0.48	0.25	0.40	0.27	0.19	0.28	0.39	0.46	0.77	1.50	1.56	3.78	8.28	13.74	21.11	6.08
北部	0.32	0.53	0.21	0.47	0.53	0.32	0.20	0.20	0.50	0.45	1.45	1.85	5.05	9.40	17.20	23.15	6.87
西部	0.86	1.43	0.57	0.71	0.64	0.36	1.07	1.29	1.21	2.29	3.14	2.86	4.36	12.71	23.50	44.79	9.80
東部	0.09	0.05	0.23	0.14	0.05	0.00	0.00	0.18	0.09	0.36	1.14	1.27	2.36	6.09	8.64	13.36	4.17
南部	0.15	0.31	0.12	0.38	0.08	0.15	0.15	0.23	0.35	0.54	0.96	0.88	3.69	6.88	10.15	13.35	4.97

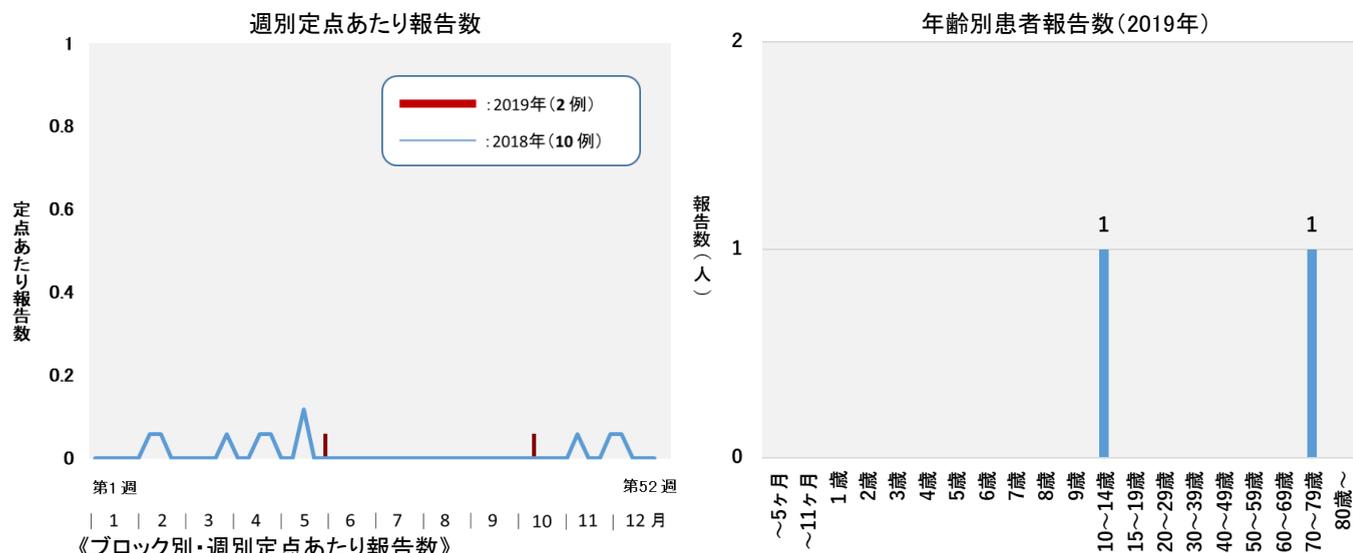
定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)



### 3) 眼科定点把握疾患

#### ア 急性出血性結膜炎

2019年の急性出血性結膜炎の報告数は2人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.01であり、2019年は最も少ない報告数であった。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

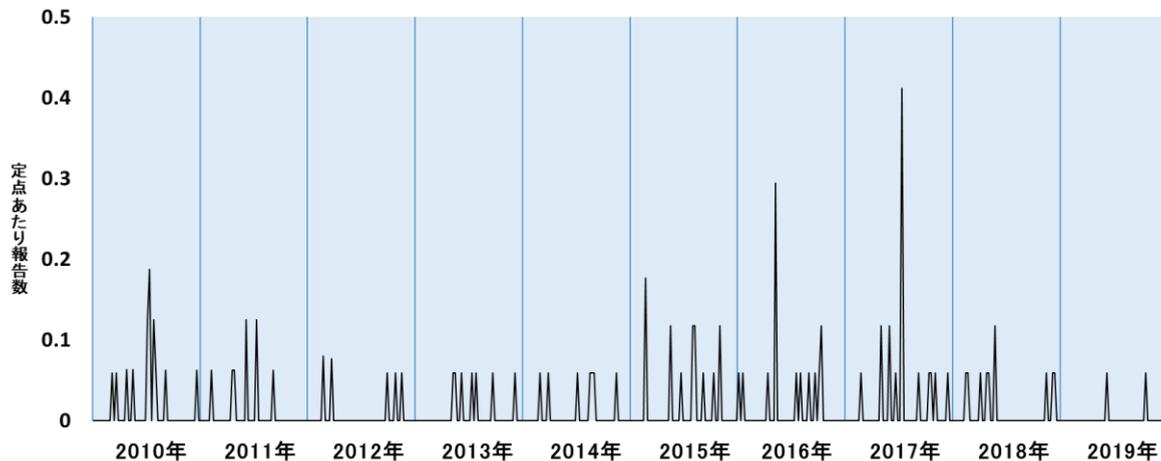
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
北部	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

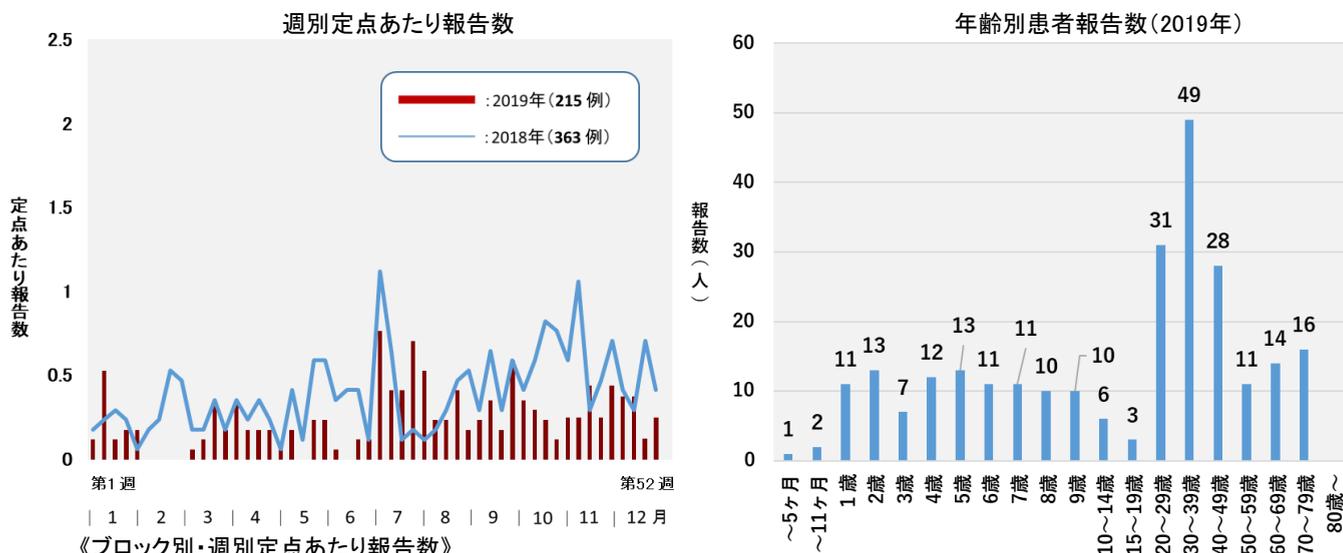
定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週~2019年第52週)



## イ 流行性角結膜炎

2019年の流行性角結膜炎の報告数は215人、定点あたりの報告数の年平均は0.24であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は0.35である。

年齢別患者報告数は、20歳以上の報告が全体の69.3%を占めたが、各年齢層に分散していた。



《ブロック別・週別定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.12	0.53	0.12	0.18	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.12	0.35	0.18	0.35	0.18	0.18	0.18	0.06
北部	0.20	0.80	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.80	0.00	0.60	0.40	0.00	0.00	0.00
西部	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
東部	0.17	0.50	0.33	0.33	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.17	0.00	0.00	0.00	0.33	0.33	0.17
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.50	0.75	0.25	0.25	0.00	0.00

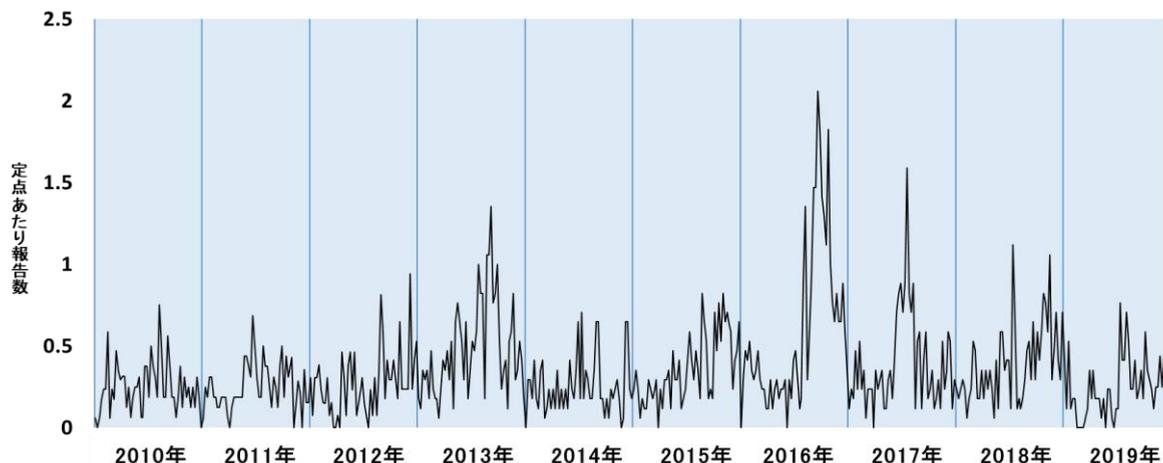
  

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.18	0.00	0.24	0.24	0.06	0.00	0.12	0.12	0.76	0.41	0.41	0.71	0.53	0.24	0.24	0.41	0.18	0.24
北部	0.20	0.00	0.80	0.20	0.20	0.00	0.00	0.20	0.60	0.00	0.40	0.20	0.00	0.00	0.20	0.20	0.00	0.20
西部	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.50	2.00	1.50	0.00	1.00	1.00	0.50	0.00	1.00	1.00
東部	0.17	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.33	0.50	0.33	0.33	0.50	0.17	0.17
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.25	0.25	0.75	0.50	2.25	1.00	0.00	0.00	0.75	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.35	0.18	0.59	0.35	0.29	0.24	0.12	0.25	0.25	0.44	0.25	0.44	0.38	0.38	0.13	0.25	0.24
北部	0.60	0.20	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.20	0.60	0.00	0.60	1.00	0.20	0.40	0.20	0.23
西部	0.50	0.00	1.00	1.00	0.50	0.00	0.00	0.00	1.00	0.50	0.00	1.00	0.00	1.50	0.00	0.00	0.41
東部	0.17	0.17	0.33	0.33	0.50	0.33	0.33	0.60	0.20	0.40	0.80	0.20	0.20	0.20	0.00	0.20	0.22
南部	0.25	0.25	0.25	0.50	0.25	0.50	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00	0.50	0.22

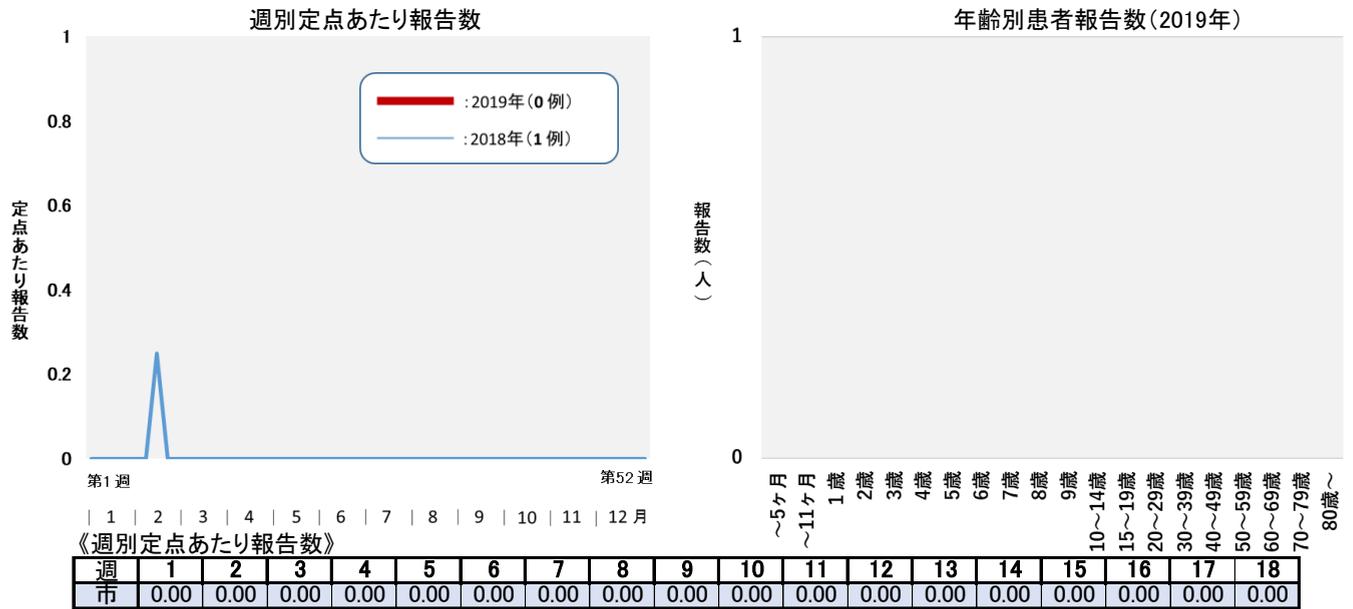
定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)



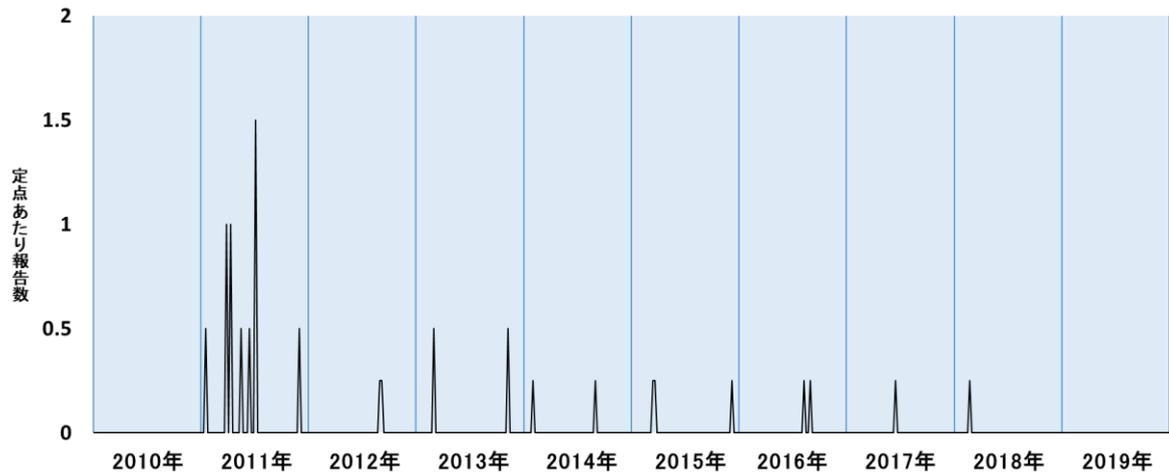
#### 4) 基幹定点把握疾患 (週報)

##### ア 細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)

2019年の細菌性髄膜炎の報告数はなかった。

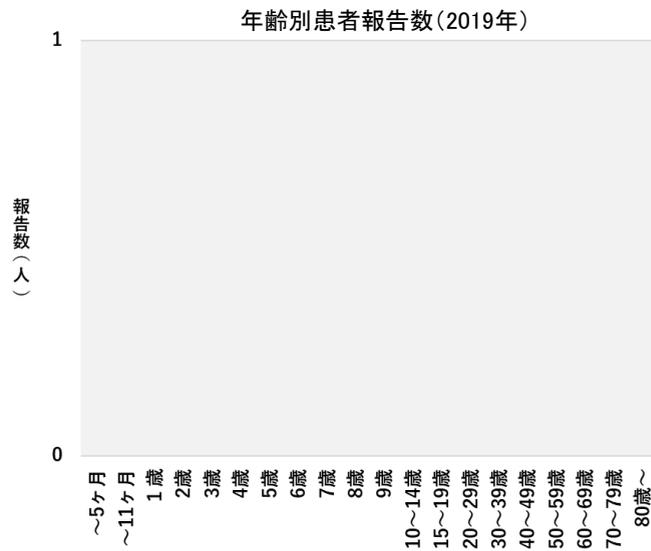


##### 定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週~2019年第52週)



# イ 無菌性髄膜炎

2018年以降、無菌性髄膜炎の報告はない。



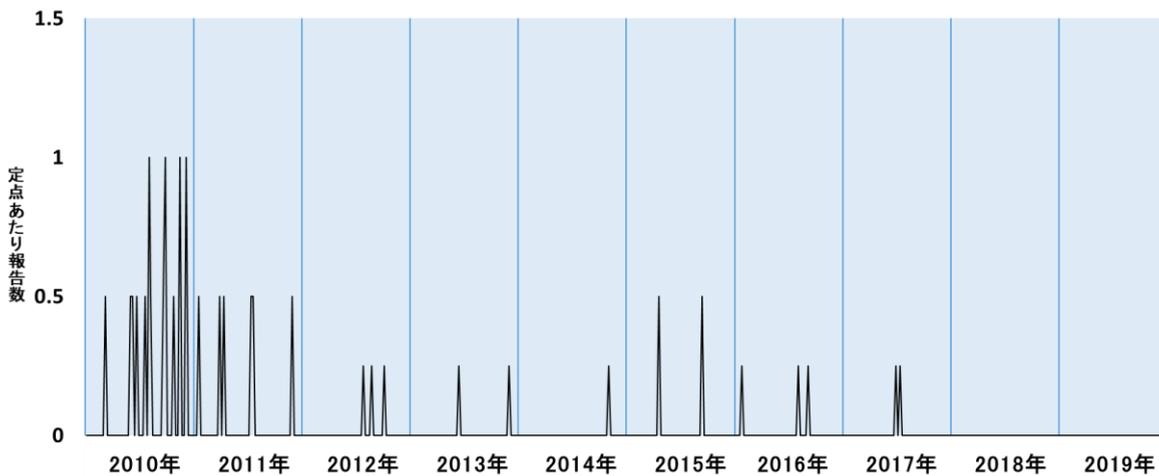
《週別 定点あたり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

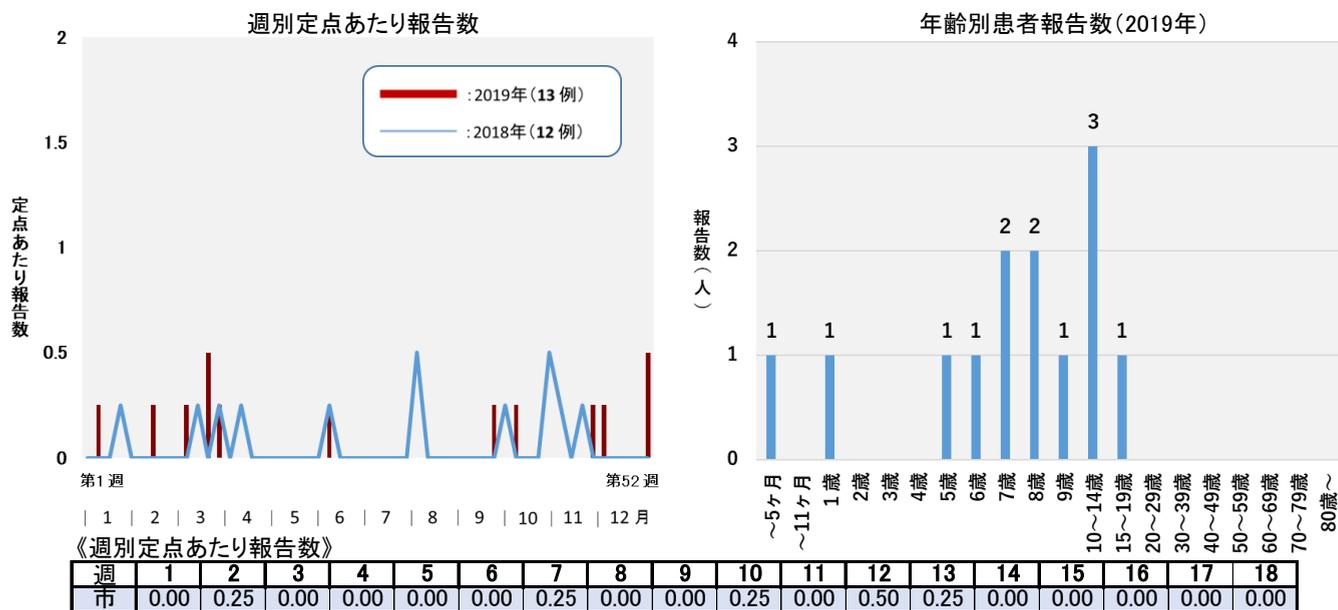
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)



## ウ マイコプラズマ肺炎

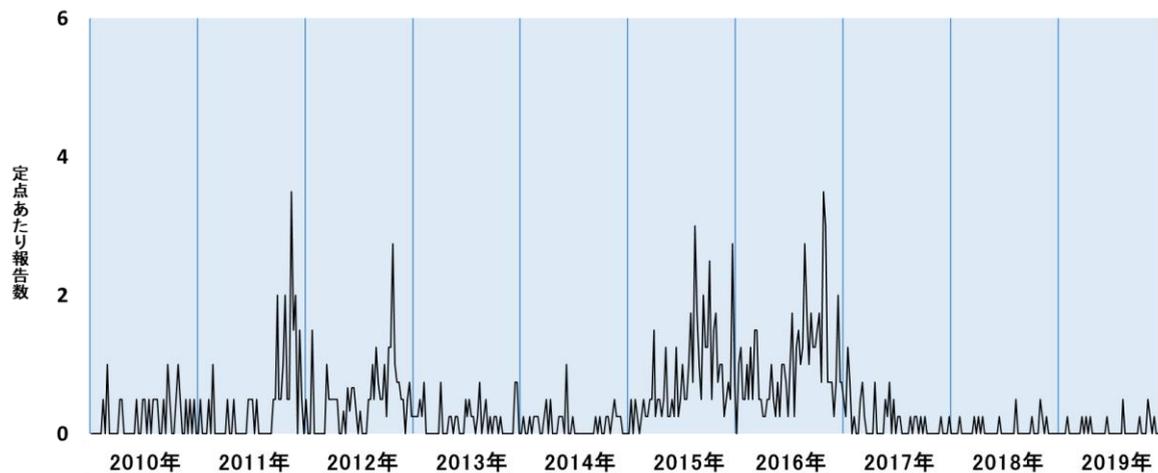
2019年のマイコプラズマ肺炎の報告数は13人、定点当たりの報告数の年平均は0.06であり、ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.43であった。



週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

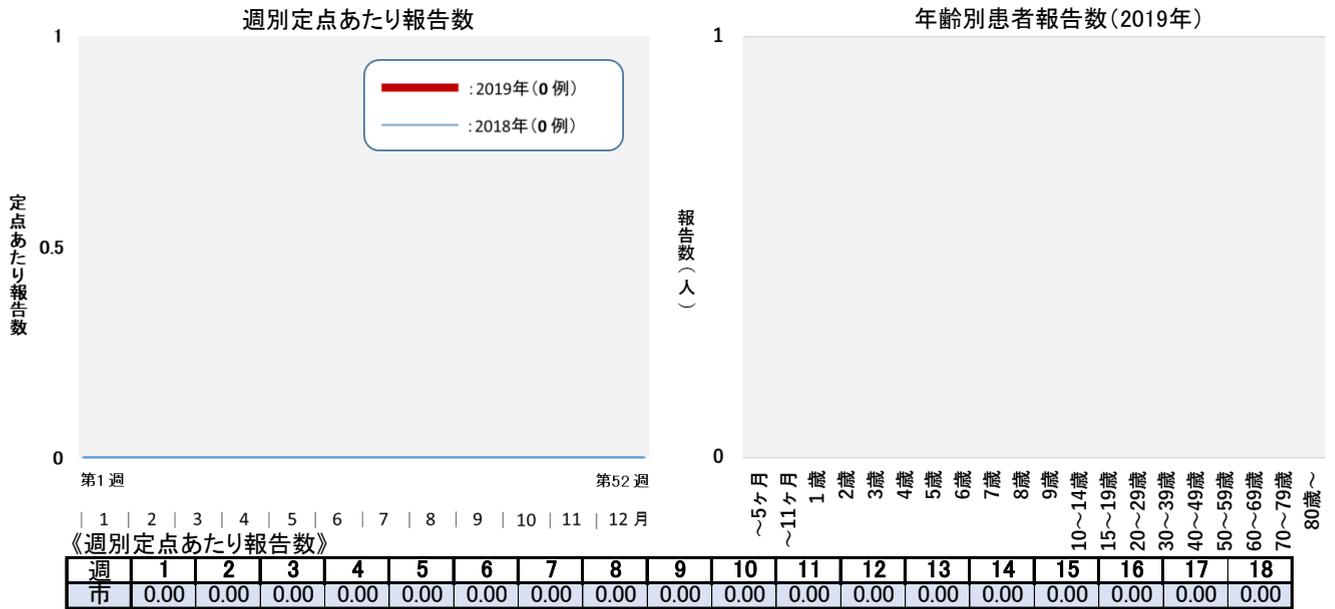
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.25	0.00	0.00	0.00	0.50	0.06

### 定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)



## エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

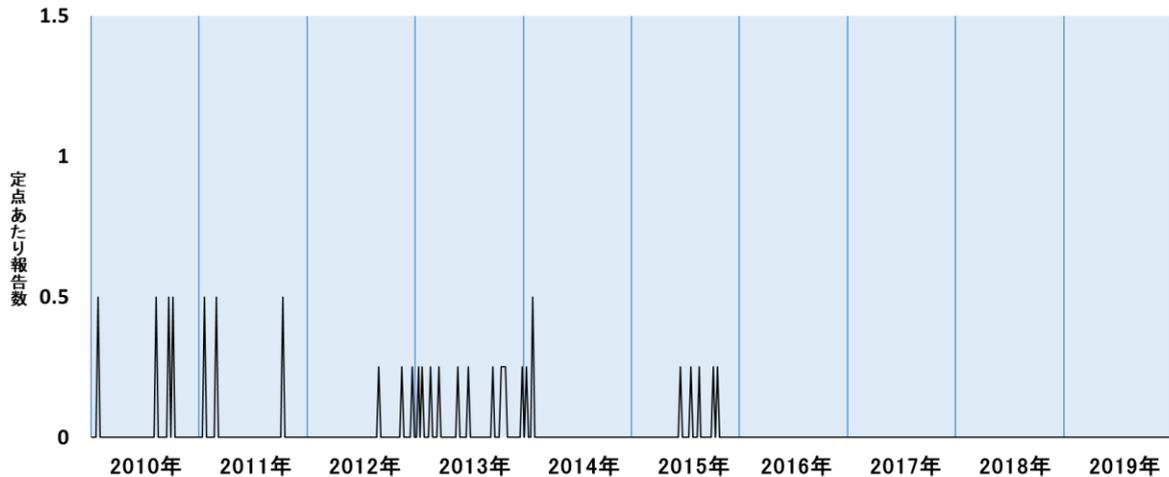
2016年以降、クラミジア肺炎の報告はない。



週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

### 定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)

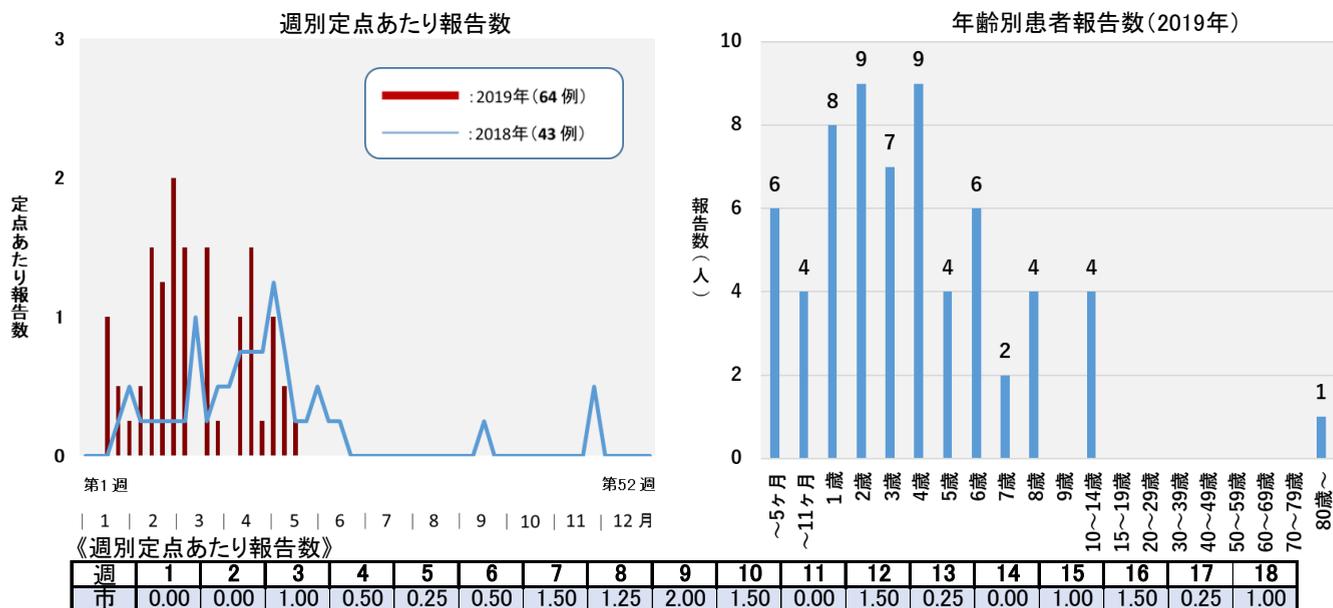


※2013年10月14日に新たに追加

## オ 感染性胃腸炎（ロタウイルスが病原体であるものに限る）

2019年の感染性胃腸炎（ロタウイルスが病原体であるものに限る）の報告数は64人、定点当たりの報告数の年平均は0.28であり、報告が始まってからの6年間（2013年は除く）の定点当たりの報告数の平均は0.22であった。

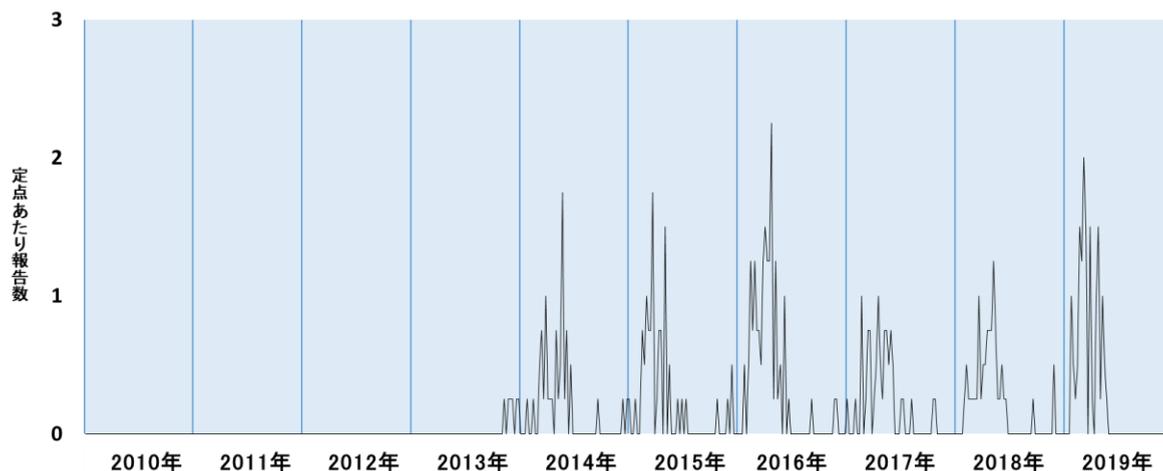
年齢別患者報告数は2歳、4歳の9人が最も多く、1歳の8人、3歳の7人と続いた。



週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.50	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.28

### 定点あたり報告数 経年変化(2010年第1週～2019年第52週)※2013年10月14日に新たに追加



## 5) 基幹定点把握疾患(月報)

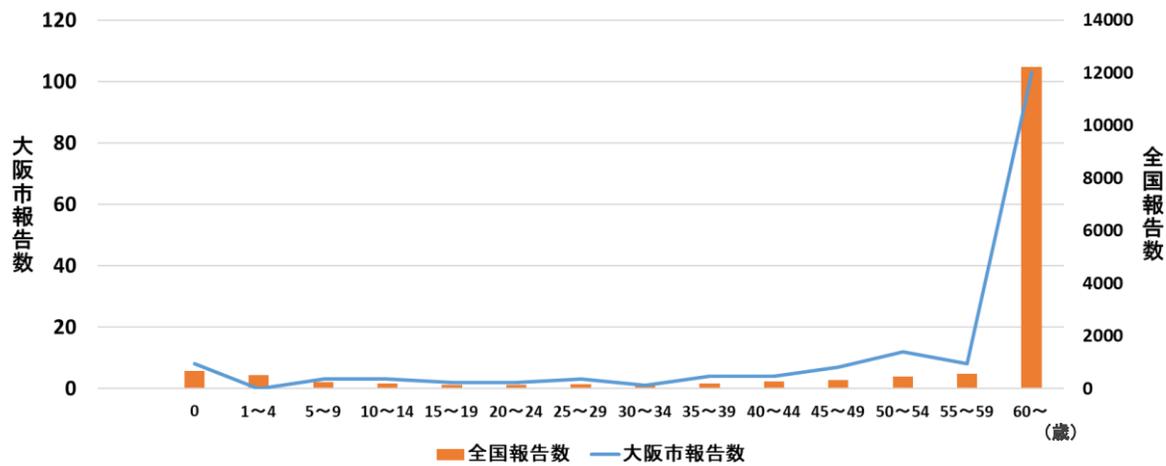
月別発生状況 2019年

疾患名	1		2		3		4		5		6		計	
	報告数	定点あたり数												
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10	2.50	14	3.50	11	2.75	16	4.00	11	2.75	11	2.75	160	40.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.25	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.25	0	0.00	2	0.50

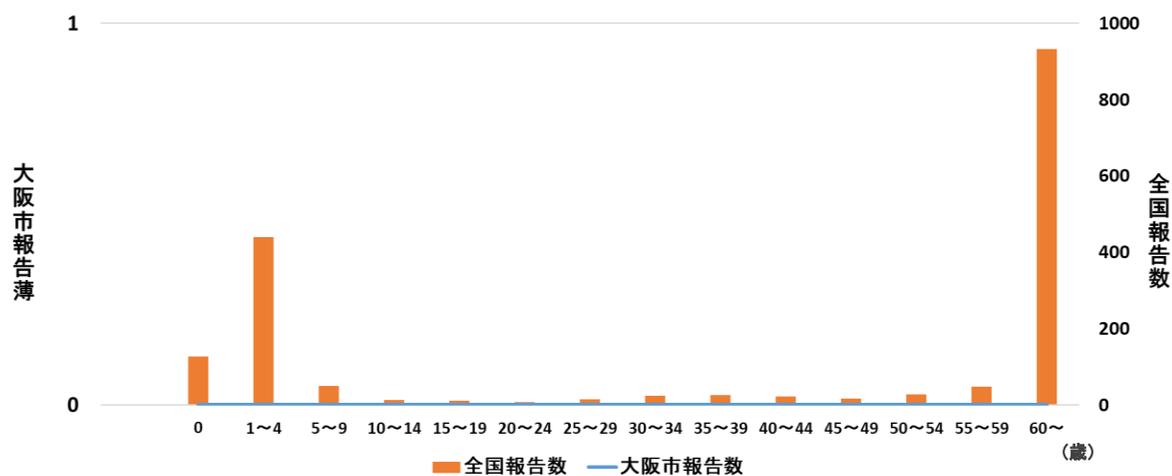
  

疾患名	7		8		9		10		11		12		計	
	報告数	定点あたり数												
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10	2.50	18	4.50	21	5.25	18	4.50	8	2.00	12	3.00	160	40.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.50

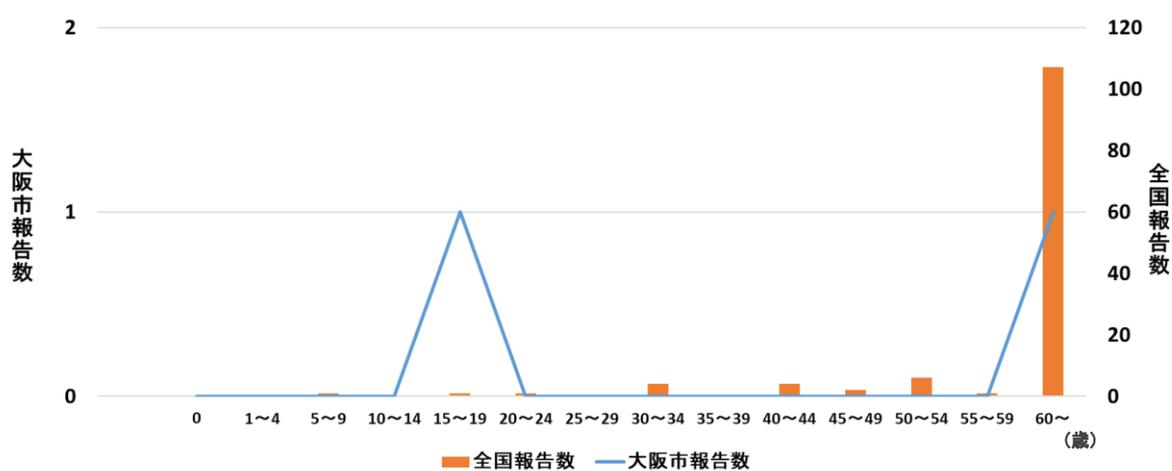
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 年齢別発生状況 2019年大阪市報告数: 160例 (全国報告数: 16,240例)



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 年齢別発生状況 2019年大阪市報告数: 報告なし (全国報告数: 1,754例)

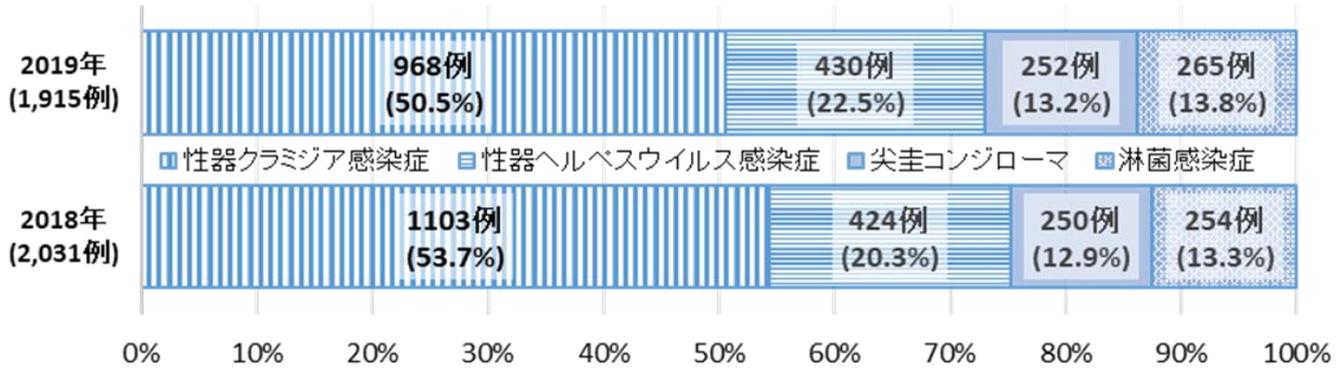


薬剤耐性緑膿菌感染症 年齢別発生状況 2019年大阪市報告数: 2例 (全国報告数: 127例)

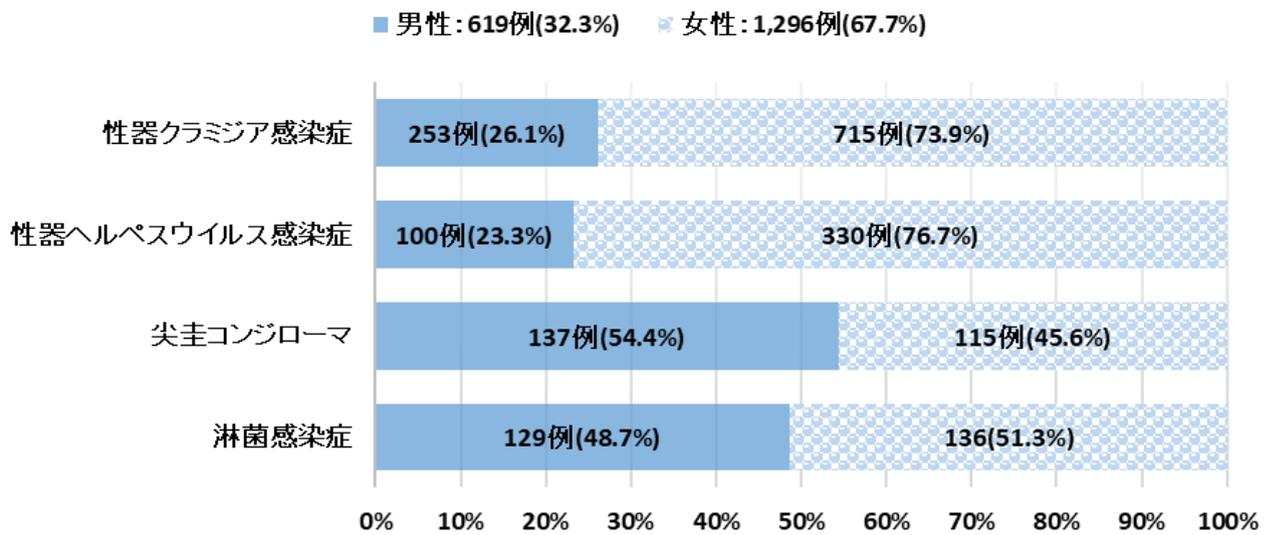


## 2 定点把握感染症(性感染症)

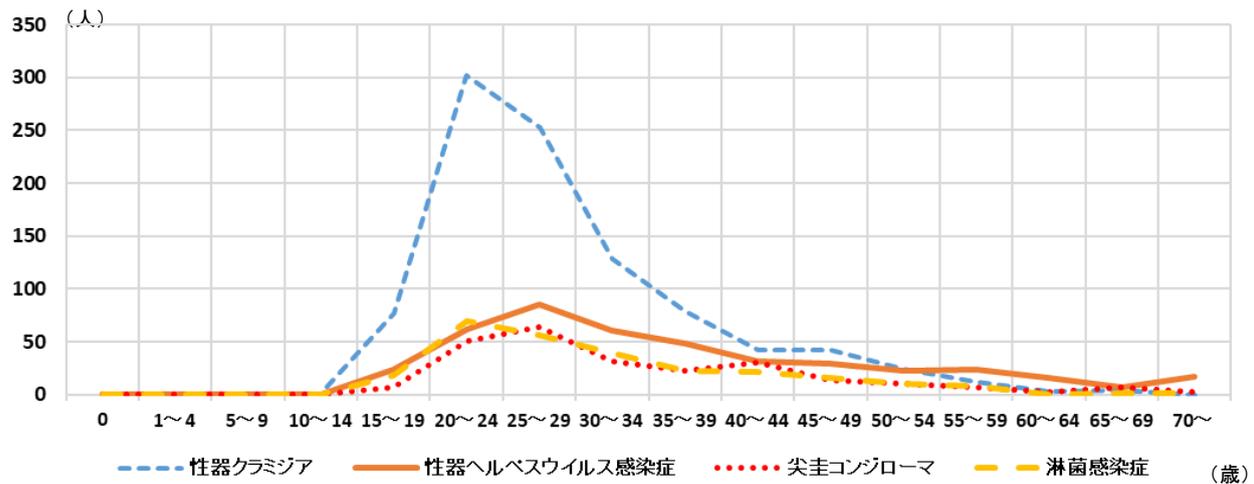
### 疾患別割合(男女計)



### 疾患別・男女別件数比較 2019年

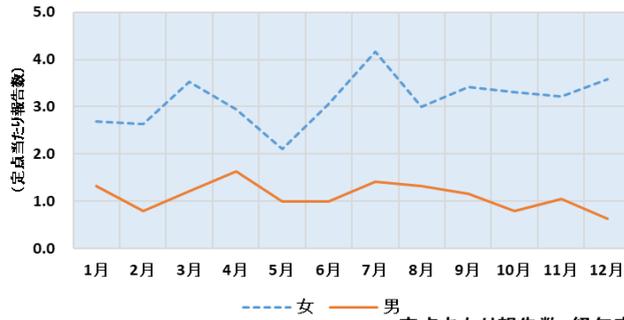


### 疾患別・年齢別患者報告数(男女計) 2019年



# 1) 性器クラミジア感染症

月別定点あたり報告数(2019年)



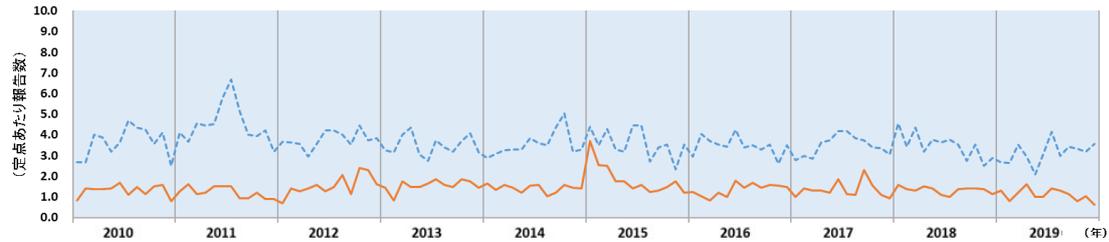
月別定点あたり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	2.68	2.63	3.53	2.95	2.11	3.05
男性	1.32	0.79	1.21	1.63	1.00	1.00

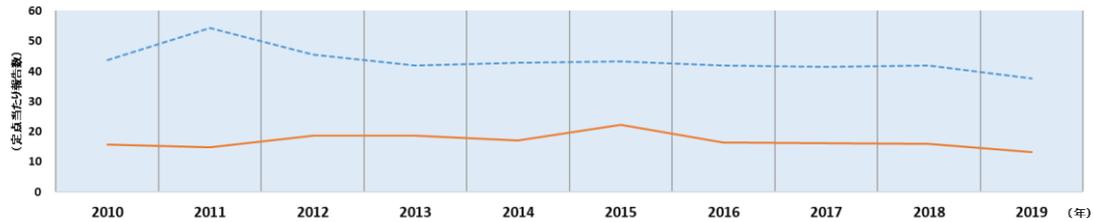
月	7	8	9	10	11	12
女性	4.16	3.00	3.42	3.32	3.21	3.58
男性	1.42	1.32	1.16	0.79	1.05	0.63

計	10年間の定点あたり数の平均
37.63	43.41
13.32	16.91

定点あたり報告数 経年変化(月別)

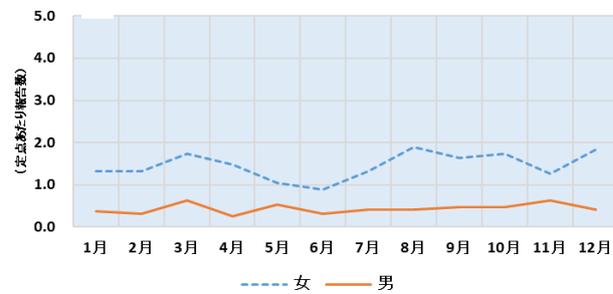


定点あたり報告数 経年変化(年別)



# 2) 性器ヘルペスウイルス感染症

月別定点あたり報告数(2019年)



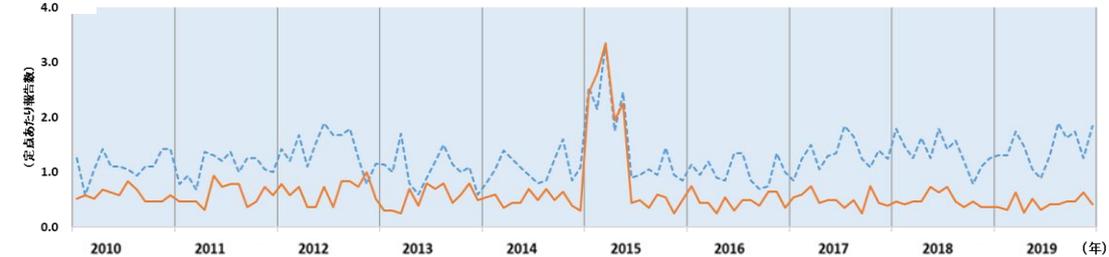
月別定点あたり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	1.32	1.32	1.74	1.47	1.05	0.89
男性	0.37	0.32	0.63	0.26	0.53	0.32

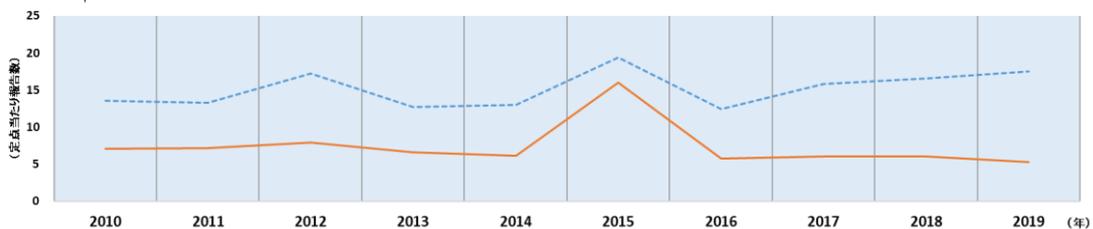
月	7	8	9	10	11	12
女性	1.32	1.89	1.63	1.74	1.26	1.84
男性	0.42	0.42	0.47	0.47	0.63	0.42

計	10年間の定点あたり数の平均
17.47	15.14
5.26	7.40

定点あたり報告数 経年変化(月別)

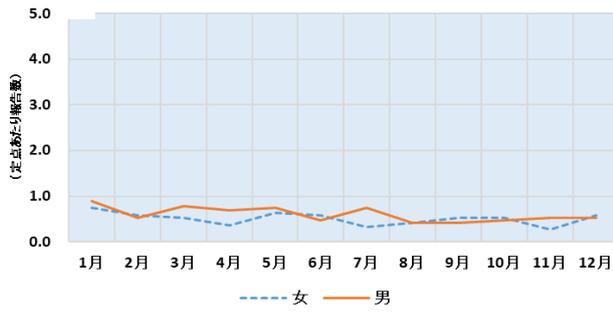


定点あたり報告数 経年変化(年別)



### 3) 尖圭コンジローマ

月別定点あたり報告数(2019年)



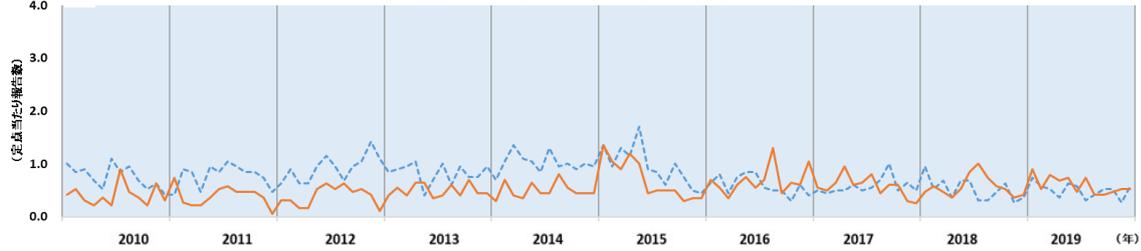
月別定点あたり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.74	0.58	0.53	0.37	0.63	0.58
男性	0.89	0.53	0.79	0.68	0.74	0.47

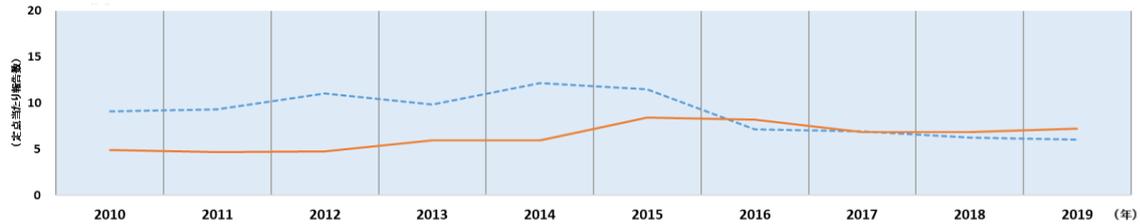
月	7	8	9	10	11	12
女性	0.32	0.42	0.53	0.53	0.26	0.58
男性	0.74	0.42	0.42	0.47	0.53	0.53

計	10年間の定点あたり数の平均
6.05	8.95
7.21	6.42

定点あたり報告数 経年変化(月別)

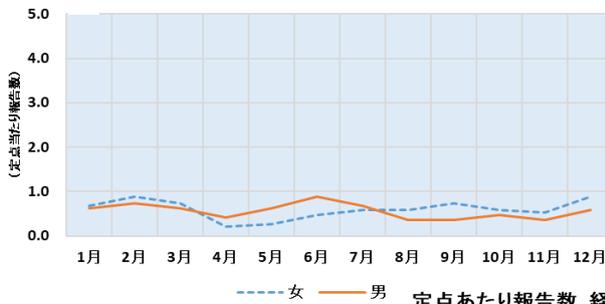


定点あたり報告数 経年変化(年別)



### 4) 淋菌感染症

月別定点あたり報告数(2019年)



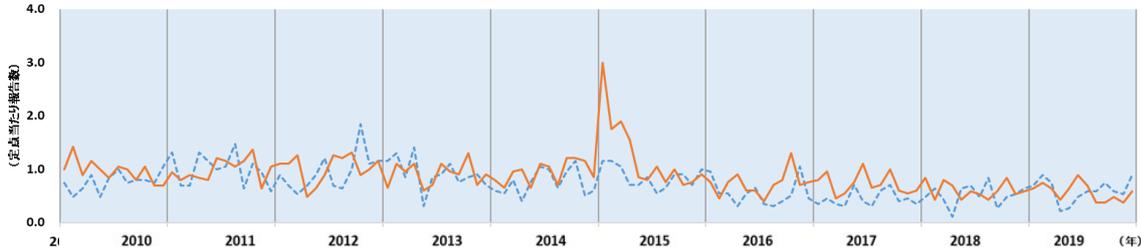
月別定点あたり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.68	0.89	0.74	0.21	0.26	0.47
男性	0.63	0.74	0.63	0.42	0.63	0.89

月	7	8	9	10	11	12
女性	0.58	0.58	0.74	0.58	0.53	0.89
男性	0.68	0.37	0.37	0.47	0.37	0.58

計	10年間の定点あたり数の平均
7.16	8.80
6.79	10.44

定点あたり報告数 経年変化(月別)



定点あたり報告数 経年変化(年別)



### 3 一～五類全数把握感染症

#### (1) 一類感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱は報告がなかった。

#### (2) 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は報告がなかった。

#### (3) 三類感染症

##### ア 細菌性赤痢

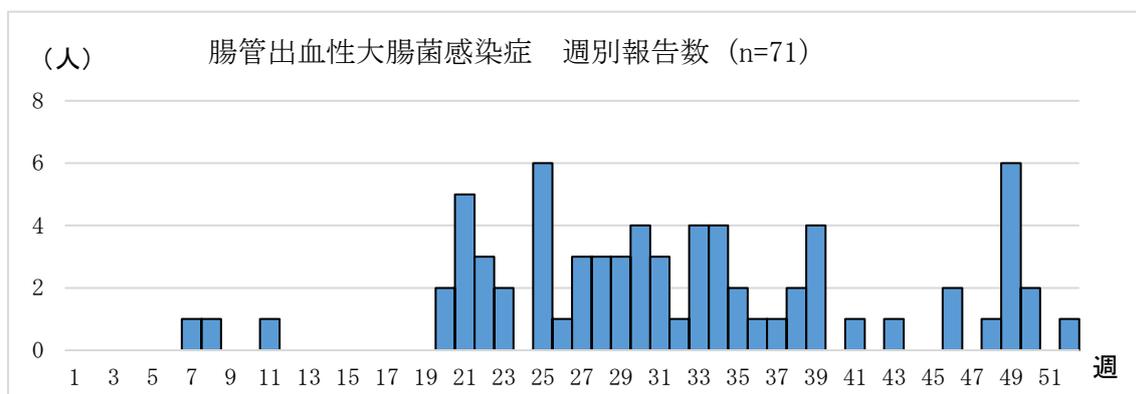
2019年は3人の報告があった。菌種はすべて *S.flexneri* であった。性別は男性が1人、女性が2人で、年齢階級別では20～29歳2人、70～79歳1人であった。

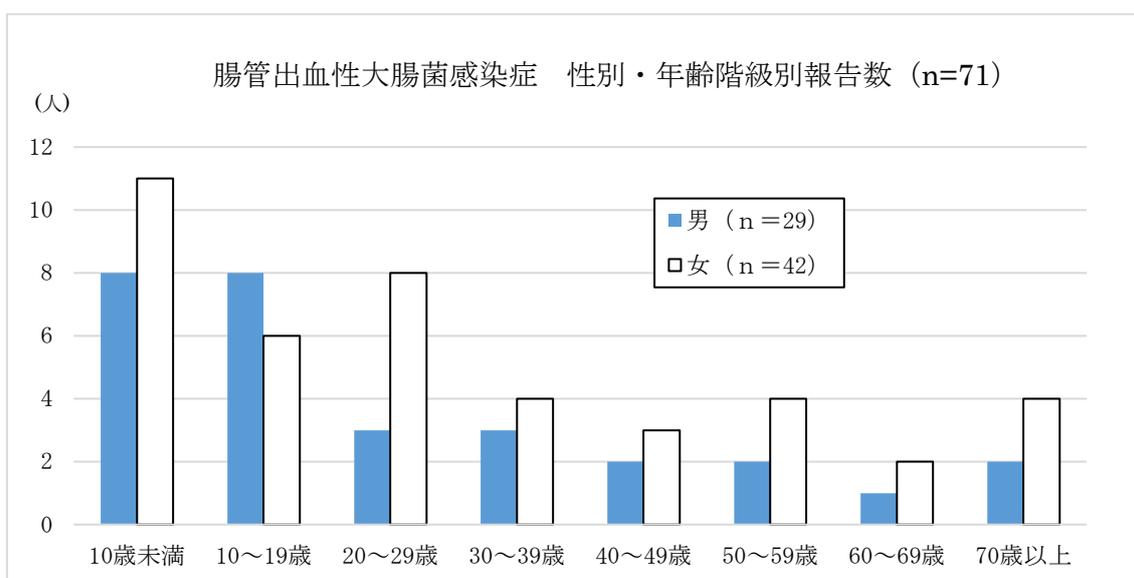
このうち輸入例は1例で、推定感染地域はカンボジアであった。3人とも経口感染によると推定された。

##### イ 腸管出血性大腸菌感染症

2019年は71人の報告があった。症状別では患者51人、無症状病原体保有者20人であった。性別は男性29人、女性42人で、年齢階級別では10歳未満19人（うち5歳未満11人）、10～19歳14人、20～29歳11人、30～39歳7人、40～49歳5人、50～59歳6人、60～69歳3人、70歳以上6人であった。推定感染地はシンガポールが1人、その他は国内であった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断された者は7人であった。うち10歳未満は4人であった。





腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別報告数 (n=71)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
08	VT2	2	0157	VT1	4
026	VT1	8		VT2	16
0103	VT1	8		VT1、VT2	24
不明	VT1	1		不明	6
	VT2	1			
	不明	1			

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=7)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地
2/14	男	82	0 不明 毒性不明	国内
6/19	女	8	0157 毒性不明	国内
6/19	女	5	0157 VT2	国内
6/20	男	19	0157 毒性不明	国内
7/4	女	26	0157 VT1、VT2	国内
10/7	女	4	0157 VT2	国内
12/27	女	3	0157VT1、VT2	国内

#### ウ その他の疾患

コレラ、腸チフス、パラチフスは報告がなかった。

#### (4)四類感染症

##### ア E型肝炎

2019年は1人の報告があった。性別は男性1人で、年齢階級別は80～89歳であった。推定感染地、推定感染経路は不明。

##### イ A型肝炎

2019年は8人の報告があった。性別は男性6人、女性2人で、年齢階級別では10～19歳が1人、20～29歳1人、30～39歳3人、40～49歳1人、50～59歳1人、60～69歳1人であった。遺伝子型はIA型が6例検出された。

推定感染地は国内6人、国外1人、不明1人であった。国外の推定感染地はエリトリアであった

推定感染経路は、経口感染4人、性的接触4人であった。性的接触の4人はすべて同性間性的接触であった。

##### ウ デング熱

2019年は19人の報告があった。性別は男性12人、女性7人、年齢階級別は、10～19歳2人、20～29歳5人、30～39歳2人、40～49歳4人、50～59歳6人であった。血清型の内訳は1型9人、2型2人、3型1人、4型2人、その他は不明であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染国は、カンボジア6人、フィリピン4人、タイ、ベトナムが各2人、インドネシア、スリランカ、モルディブ、ドミニカ共和国が各1人、であった。その他にタイ、マレーシア、シンガポールの3か国が1人であった。

##### エ 日本紅斑熱

2019年は2人の報告があった。性別は男性、女性1人で、年齢階級別は60～69歳が1人、70歳以上が1人であった。推定感染地はすべて国内であった。

##### オ マラリア

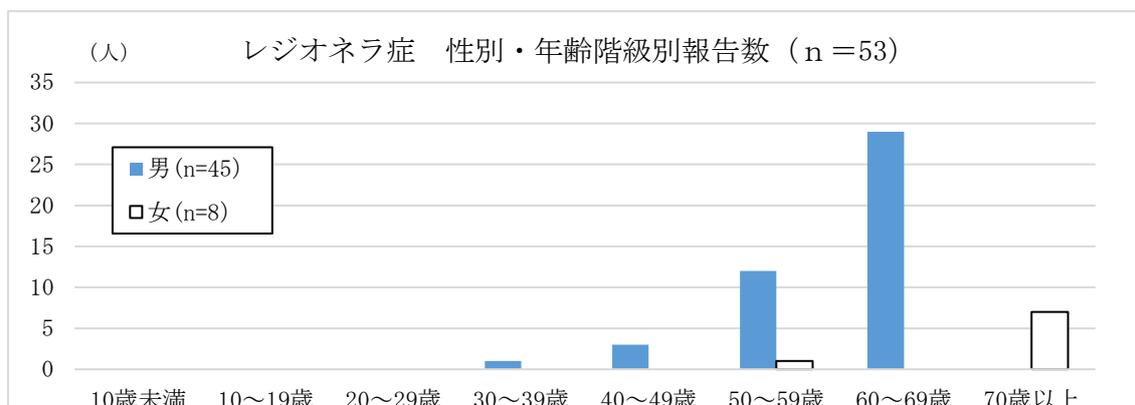
2019年は1人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は20～29歳であった。病型は熱帯熱マラリアであった。推定感染地はベナン共和国であった。

##### カ レジオネラ症

2019年は53人の報告があった。病型は肺炎型50人、ポンティアック熱型が2人、無症状保菌者が1人であった。性別は男性45人、女性8人、年齢階級別は30～39歳1人、40～49歳3人、50～59歳13人、60～69歳29人、70歳以上7人であった。

推定感染地は国内48人、不明5人であった。推定感染経路は水系感染19人、塵埃感染2人、不明31人、その他1人であった。水系感染のうち、公衆浴場施設（温泉を含む）の

利用歴がある者が 14 人、遊泳場の利用歴がある者はいなかった。



### キ チクングニア熱

2019 年は 1 人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は 50～59 歳であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からであった。推定感染地はミャンマーであった。

### ク つつが虫病

2019 年は 1 人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は 60～69 歳であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からであった。推定感染地はラオスであった。

### ケ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(病源体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱。

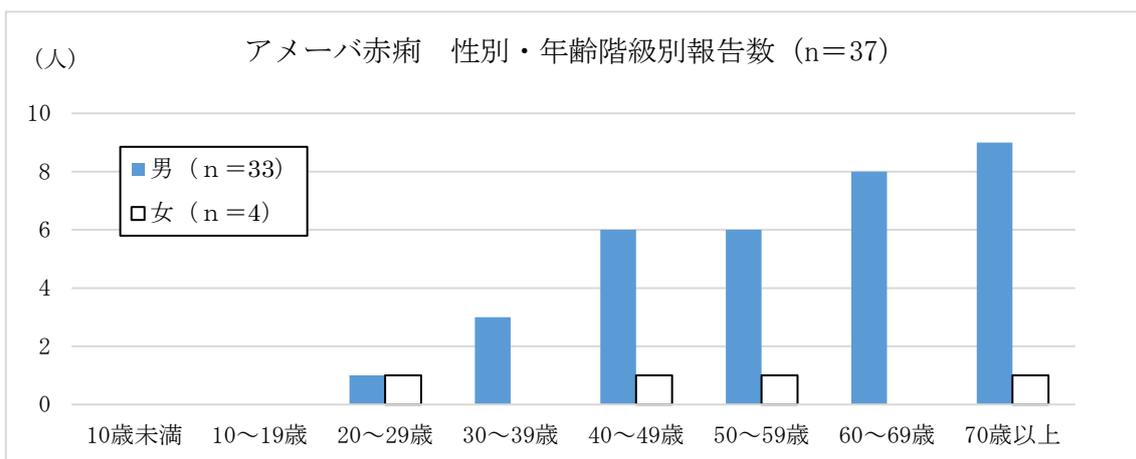
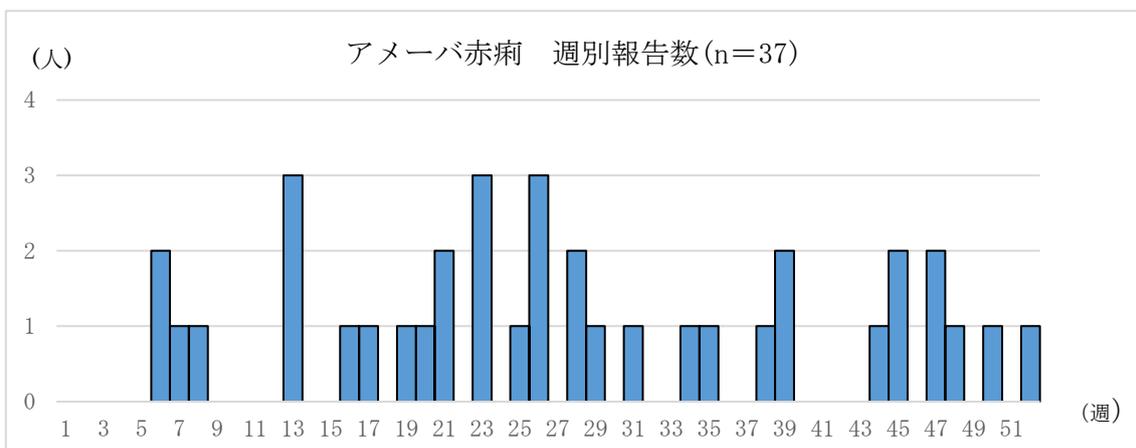
## (5)五類感染症(全数把握対象)

### ア アメーバ赤痢

2019 年は 37 人の報告があった。腸管アメーバ症 35 人、腸管外アメーバ症 1 人、腸管及び腸管外アメーバ症 1 人であった。性別は男性 33 人、女性 4 人で、年齢階級別では 20～29 歳 2 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 7 人、50～59 歳 7 人、60～69 歳 8 人、70 歳以上 10 人であった。

推定感染地は国内 30 人、国外 2 人、不明 5 人であり、国外感染例 2 人の推定感染国はタイ、台湾各 1 人であった。

推定感染経路は、性的接触 12 人（異性間 7 人、同性間 4 人、性別不明 1 人）、経口感染 5 人、不明 20 人であった。



### イ ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)

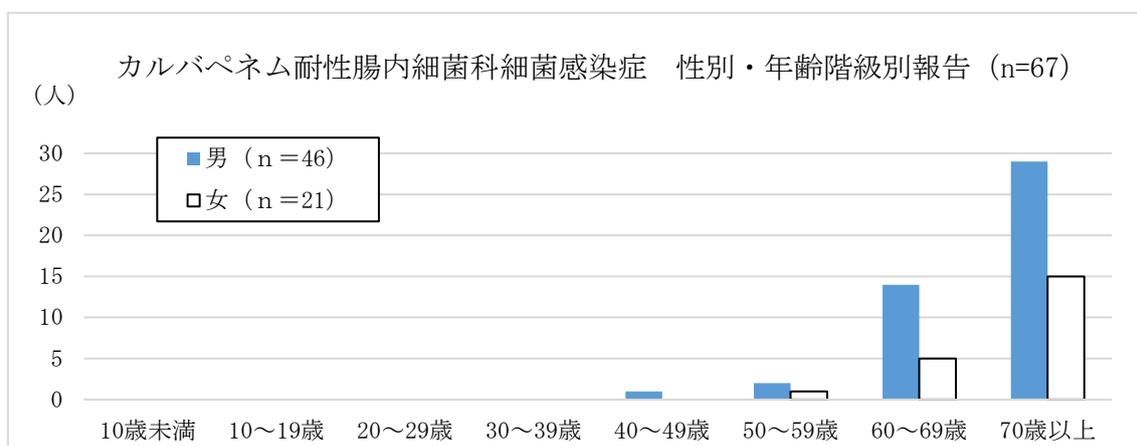
2019 年は 11 人の報告があった。病型は B 型肝炎が 9 人、C 型肝炎が 1 人、サイトメガロウイルス 1 人であった。性別は男性が 10 人、女性 1 人で、年齢階級別では 20～29 歳 4 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 1 人であった。

推定感染地は国内が 8 人、不明 3 人で、推定感染経路は性的接触 8 人（同性間 2 人、異性間 3 人、不明 3 人）、不明 2 人、その他 1 人であった。

### ウ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

2019 年は 67 人の報告があった。性別は男性 46 人、女性 21 人で、年齢階級別では 40～49 歳 1 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 19 人、70 歳以上 44 人であった。推定感染地

は国内 62 人、不明 5 人であった。CPE（カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌）は 10 件あり、内訳は *Escherichia coli* は 4 件、*Enterobacter cloacae* は 1 件、*Klebsiella pneumoniae* は 4 件、*Citrobacter koseri* および *Citrobacter farmeri* は各 1 件であった。



カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 分離菌種 (n=63)

菌種	分離件数 (CPE 株数)	菌種	分離件数 (CPE 株数)
<i>Escherichia coli</i>	7(4)	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	11(4)
<i>Enterobacter cloacae</i>	21(1)	<i>Serratia marcescens</i>	9
<i>Enterobacter aerogenes</i>	10	<i>Citrobacter braakii</i>	3
<i>Enterobacter asbriae</i>	1	<i>Citrobacter koseri</i> および <i>Citrobacter farmeri</i>	1(1)

#### エ 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

2019 年は 4 人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別ではすべて 10 歳未満であった。

推定感染地はすべて国内であった。病原体はロタウイルスが 1 人、不明 3 人であった。

#### オ クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

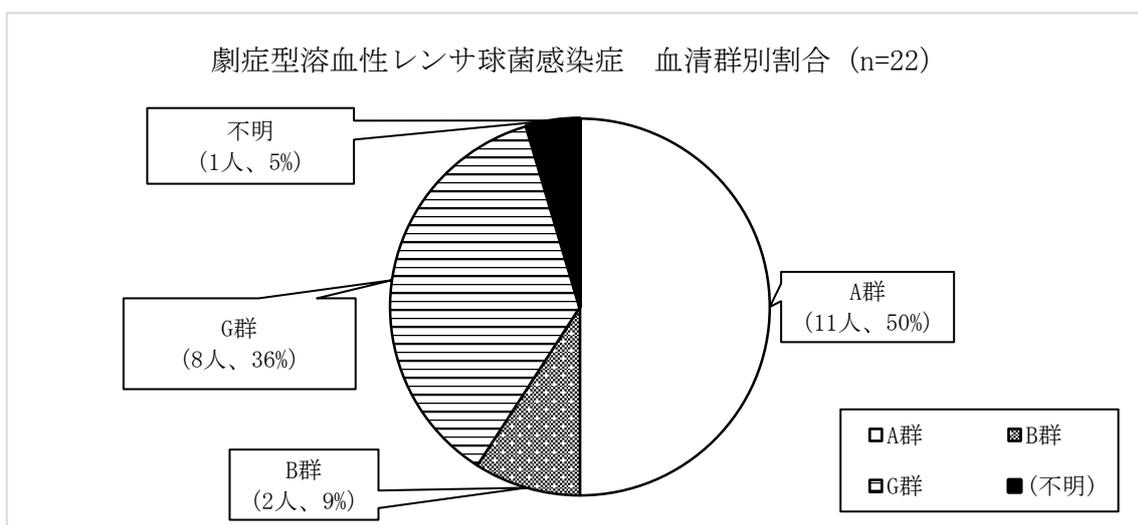
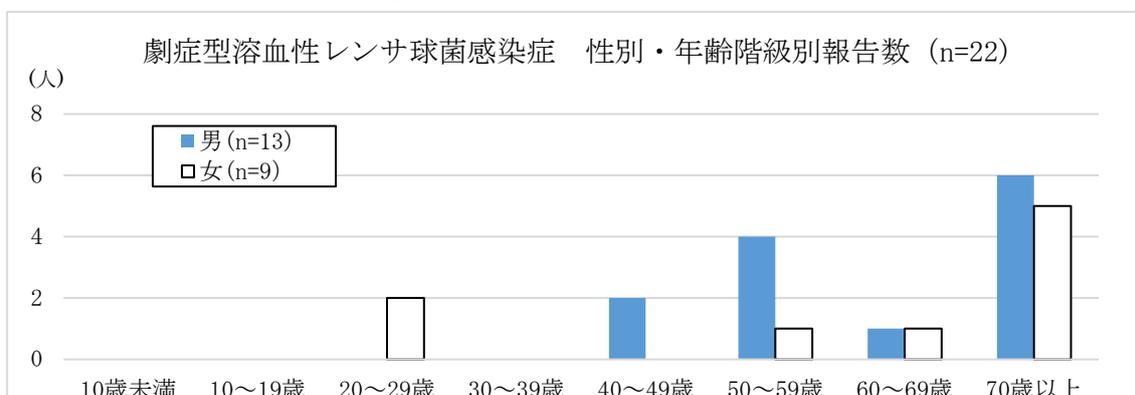
2019 年は 4 人の報告があった。古典型クロイツフェルト・ヤコブ病 (ほぼ確実) 3 人、家族性クロイツフェルト・ヤコブ病 (ほぼ確実) が 1 人であった。性別は、すべて女性で、年齢階級は 60~69 歳 1 人、70 歳以上 3 人であった。

#### カ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2019 年は 22 人の報告があった。昨年の報告数 11 人の 2 倍であった。性別は男性 13

人、女性 9 人で、年齢階級別では 20～29 歳 2 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 5 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 11 人であった。

推定感染地は国内 20 人、不明 2 人で、推定感染経路は創傷感染 9 人、飛沫・飛沫核感染 1 人、不明 12 人であった。



### キ 後天性免疫不全症候群

2019 年は 107 人の報告があり、2016 年から 4 年連続で減少している。AIDS 患者 20 人、HIV 感染者 87 人（指標疾患以外の有症者 8 人、無症候性キャリア 79 人）であった。

AIDS 患者 20 人の性別はすべて男性で、年齢階級別では 20～29 歳 3 人、30～39 歳 7 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 5 人、60～69 歳 1 人 70 歳以上 1 人であった。

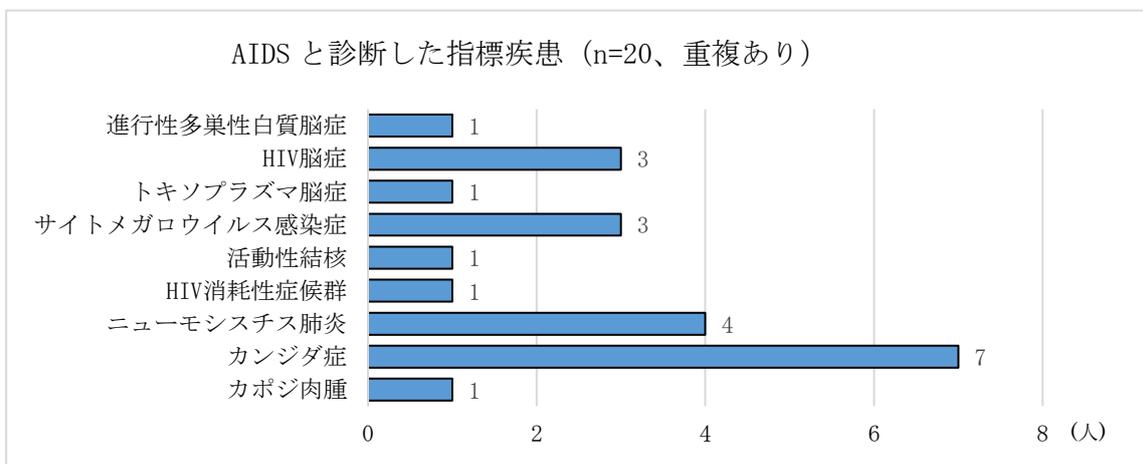
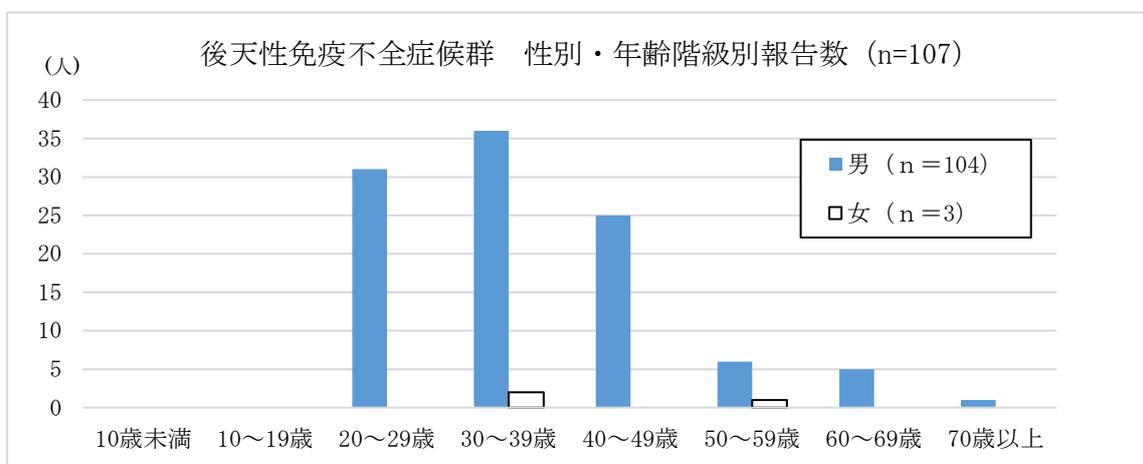
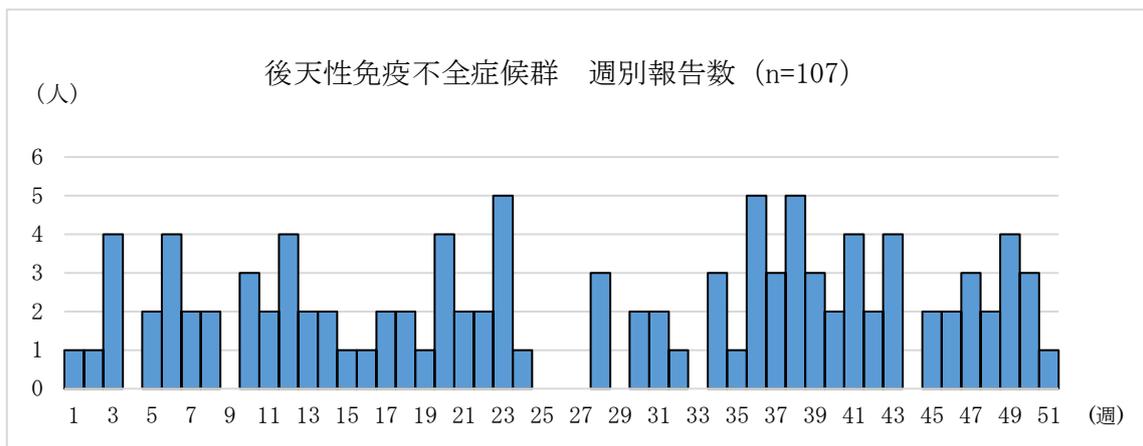
HIV 感染者のうち指標疾患以外の有症者の 8 人の性別はすべて男性で、年齢階級別では 20～29 歳 1 人、30～39 歳 2 人、40～49 歳 5 人であった。

HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 79 人の性別は男性 76 人、女性 3 人で、年齢階級別では、20～29 歳 27 人、30～39 歳 29 人、40～49 歳 17 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 4 人であった。

推定感染地は国内 86 人、国外 11 人、国内または国外 1 人、不明 9 人であった。国外

感染例 12 人の推定感染国別では中国 3 人、台湾、大韓民国各 2 人、アメリカ合衆国、イギリス、インドネシア、オーストラリア各 1 人、タイ、香港、シンガポールの 3 か国が推定されたのは 1 人であった。また、中国を推定感染地域と報告があった 1 人は日本も推定感染地として挙げられていた。

推定感染経路が性的接触 97 人、不明は 10 人であった。性的接触は同性間 76 人、異性間 15 人、同性間および異性間 2 人、性別不明 3 人、2 経路以上 1 人（異性間性的接触または輸血）であった。



## ク ジアルジア症

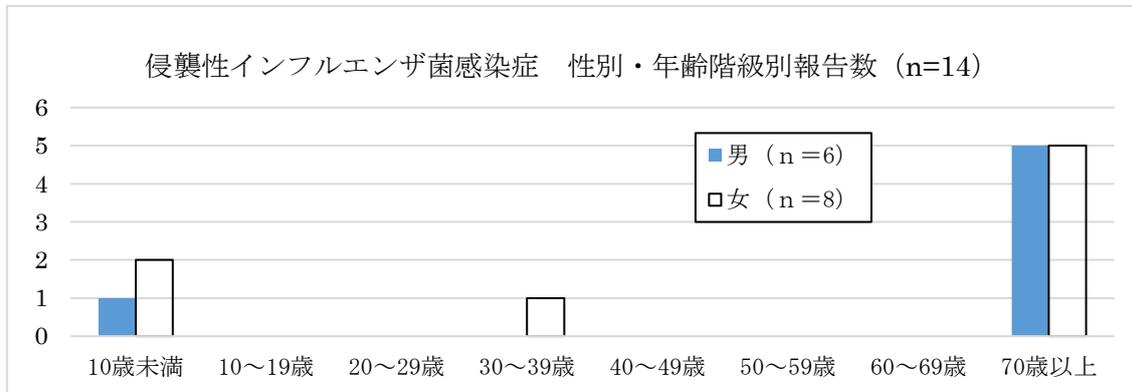
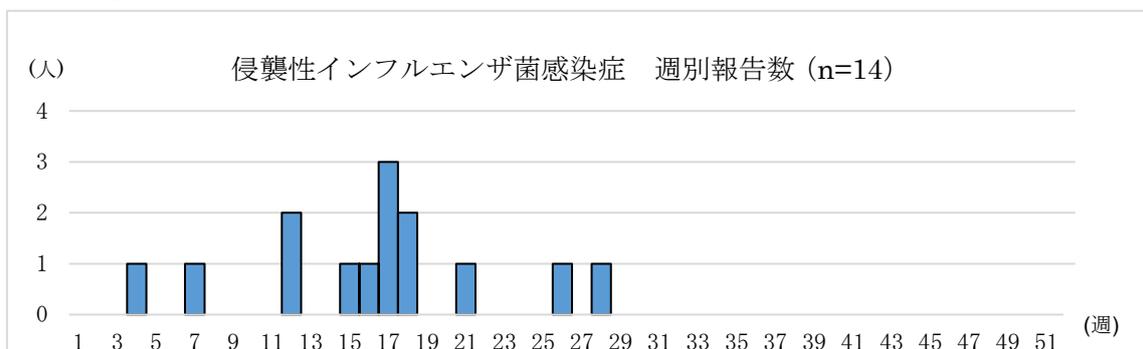
2019 年は 2 人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別では 30～39 歳が 1 人、40～49 歳が 1 人であった。

推定感染地は国内 1 人、インド 1 人であった。

## ケ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2019 年は 14 人の報告があった。昨年の 31 人の半数以下であった。性別は男性 6 人、女性 8 人で、年齢階級別では 10 歳未満 3 人、30～39 歳 1 人、70 歳以上 10 人であった。

推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 4 人、不明 10 人であった。



## コ 侵襲性髄膜炎菌感染症

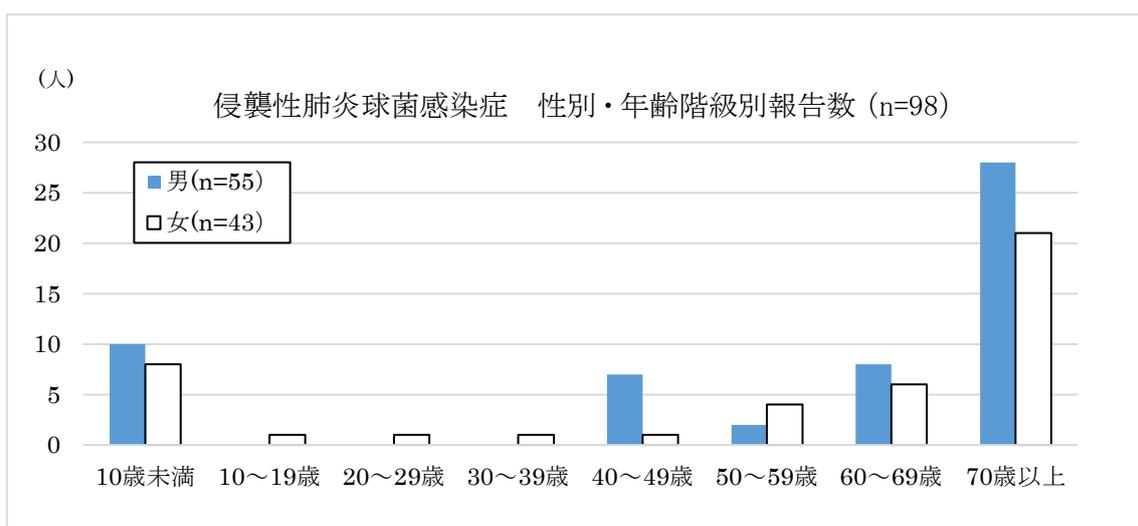
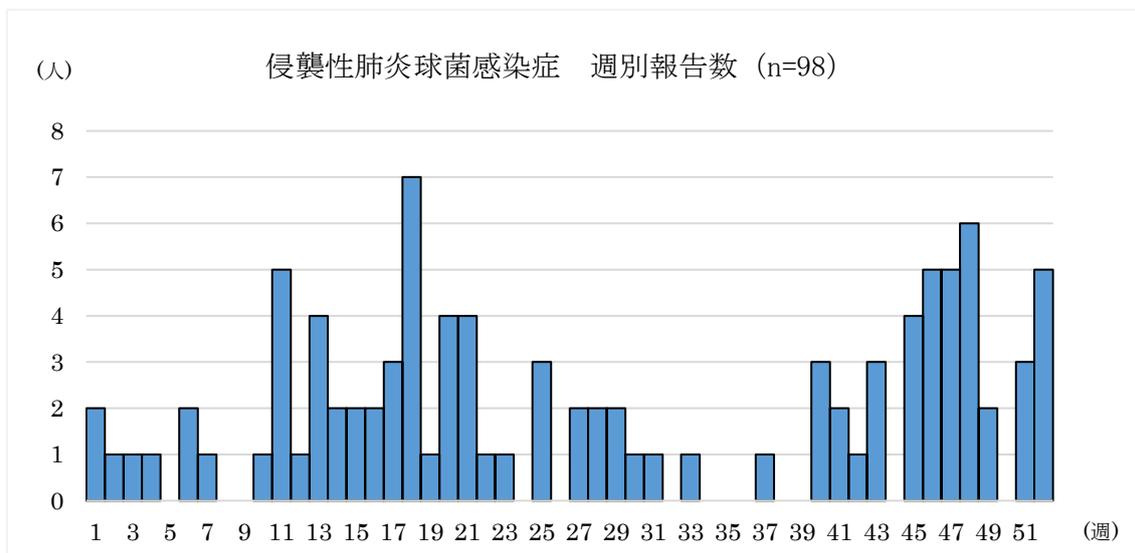
2019 年は 3 人の報告があった。性別は男性 1 人、女性 2 人で、年齢階級別では 50～59 歳 2 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染地は国内 2 人、不明 1 人であった。推定感染経路は 3 人すべて不明、ワクチン接種歴なしが 2 人、不明が 1 人であった。血清型は Y 群 2 人、B 群 1 人であった。

## サ 侵襲性肺炎球菌感染症

2019 年は 98 人の報告があった。性別は男性 55 人、女性 43 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 18 人、10～19 歳 1 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 8

人、50～59 歳 6 人、60～69 歳 14 人、70 歳以上 49 人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 34 人、その他 5 人、不明 59 人であった。ワクチン接種歴は 4 回接種 8 人、3 回接種 8 人、2 回接種 1 人、1 回接種 11 人、接種なし 32 人、不明 38 人であった。



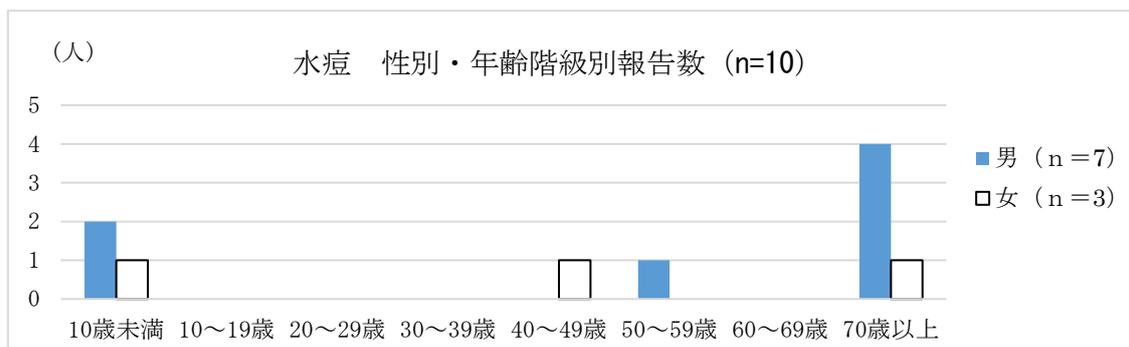
年齢階級別・ワクチン接種歴 (n=98)

	4 回接種	3 回接種	2 回接種	1 回接種	接種なし	不明	合計
5 歳未満	6	8	1	0	1		16
5～9 歳	2						2
10～64 歳				1	13	10	24
65 歳以上				10	18	28	56
合計	8	8	1	11	32	38	98

## シ 水痘(入院例に限る)

2019年は10人の報告があった。性別は男性7人、女性3人で、年齢階級別では10歳未満3人、40～49歳1人、50～59歳1人、70歳以上5人であった。

推定感染地は国内8人、不明2人で、推定感染経路は接触感染1人、飛沫・飛沫核感染2人、不明7人であった。ワクチン接種歴は接種歴あり1人、接種なし5人、不明4人であった。



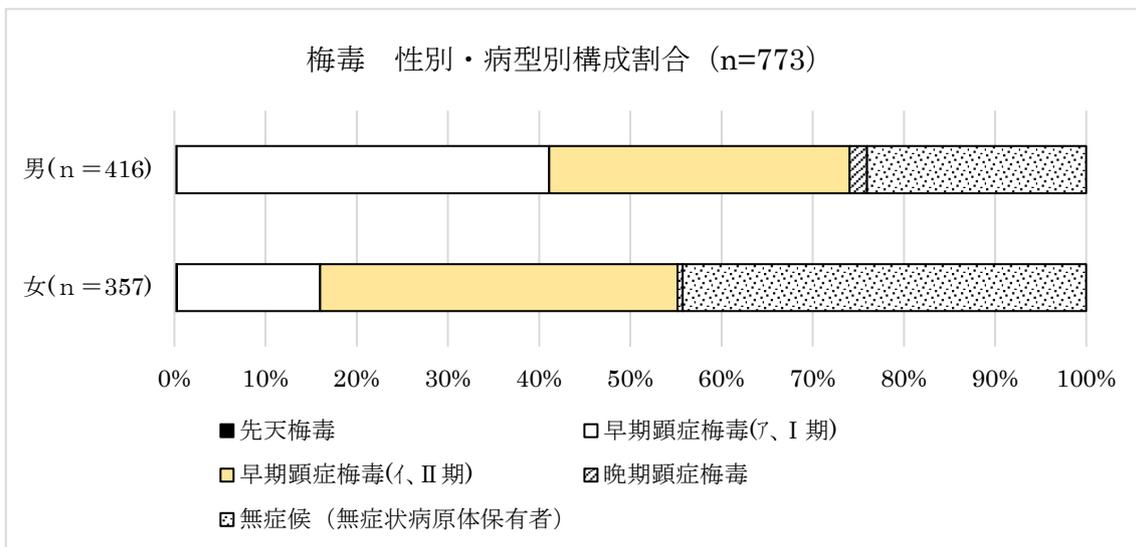
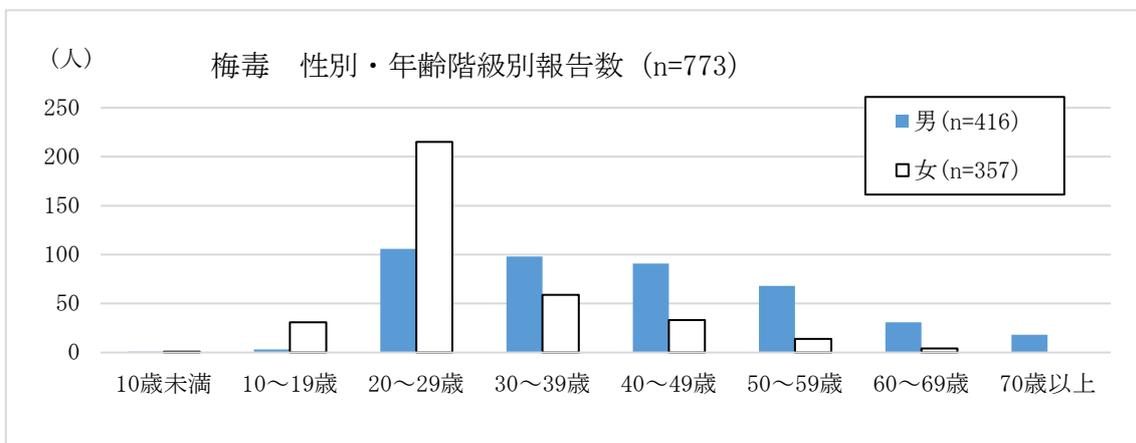
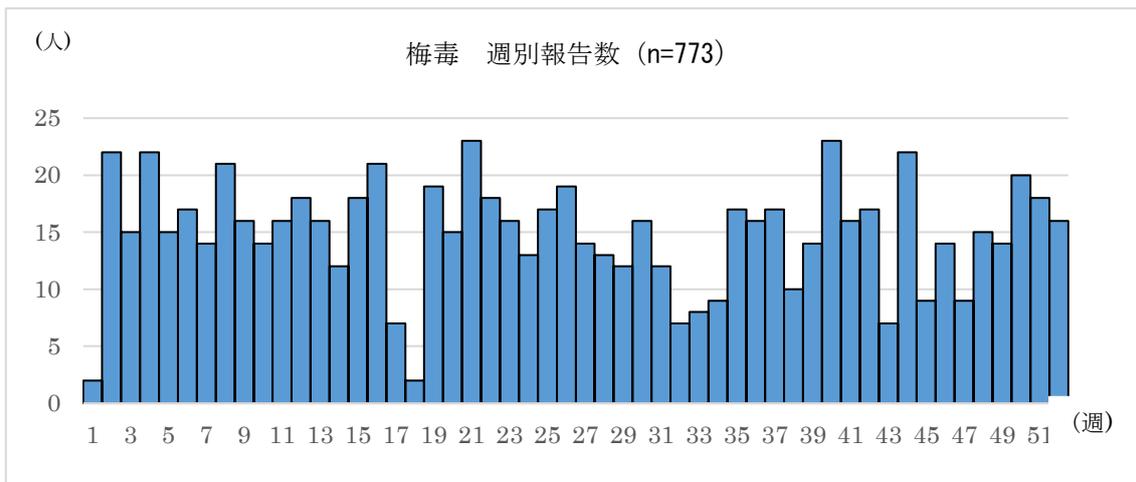
## ス 梅毒

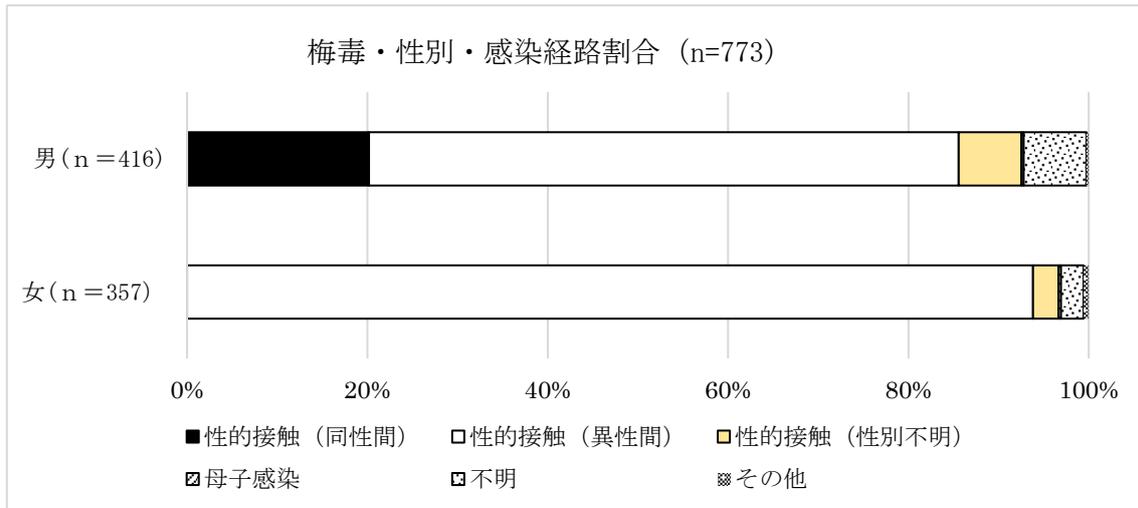
2019年は773人の報告があった。2017年は635人、2018年は864人であり2013年以降増加していたが減少に転じた。

病型別では早期顕症梅毒Ⅰ期226人、早期顕症梅毒Ⅱ期277人、晩期顕症梅毒10人、先天梅毒2人、無症候258人であった。性別は男性416人、女性357人であった。年齢階級別では10歳未満2人(いずれも0歳)、10～19歳34人、20～29歳321人、30～39歳157人、40～49歳124人、50～59歳82人、60～69歳35人、70歳以上18人で、20～59歳の男性が363人で全感染者の47%を占めた。一方、20～29歳では、321人のうち女性が215人で67%を占めた。

推定感染地は国内714人、国外10人、国内または国外2人、不明47人であり、国外感染例12人の推定感染国は韓国が4人、ベトナム、タイは各2人、インドネシア、シンガポール、フィリピン、中国は各1人であった。

推定感染経路は性的接触730人(異性間607人、同性間84人、性別不明39人)、母子感染2人、針等の鋭利なものの刺入による感染1人、その他2人、不明38人であった。また、2019年1月より発生届の内容に性風俗従事歴・利用歴の項目が新たに加わった。性風俗産業従事歴(直近6か月以内)有が210人、従事歴無が95人、従事歴不明は468人であった。性風俗産業利用歴(直近6か月以内)有が184人、利用歴無が221人、利用歴不明は368人であった。





### セ 播種性クリプトコックス症

2019年は4例の報告があった。性別は男性2人、女性2人で、年齢階級別では70歳以上4人であった。推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は鳥類の糞などとの接触1人、免疫不全2人、不明1人であった。

### ソ バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

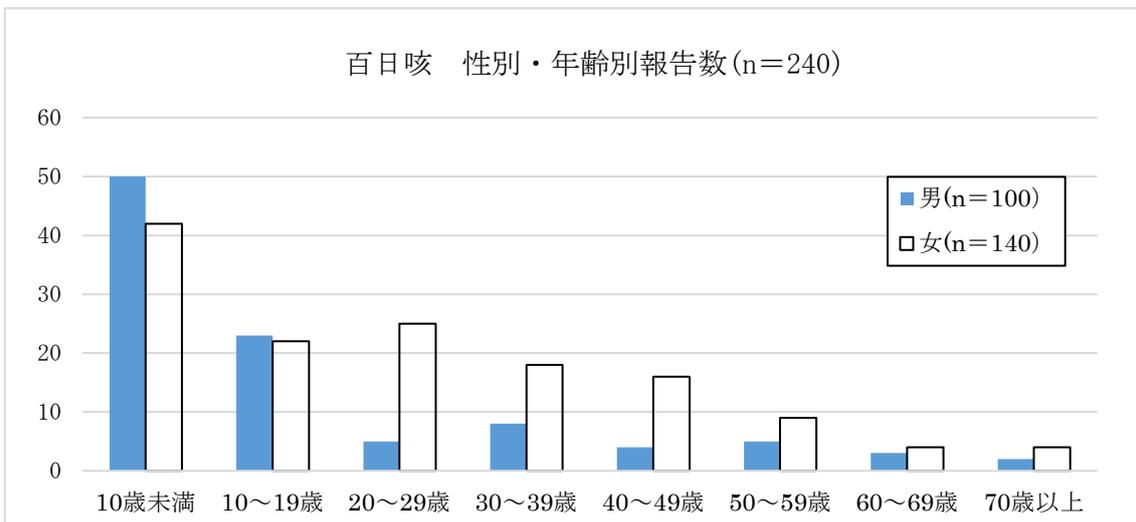
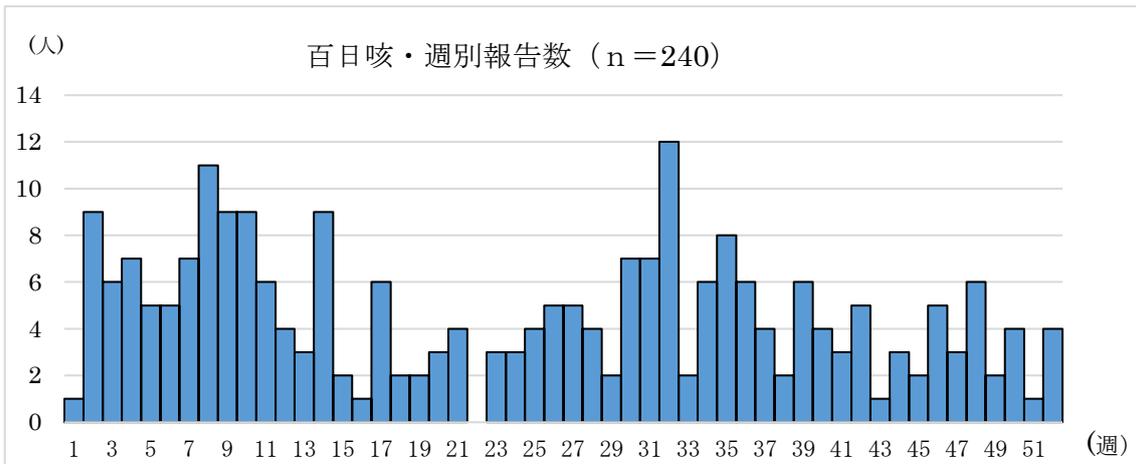
2019年は8人の報告があった。性別は男性6人、女性2人、年齢階級別では50～59歳1人、60～69歳1人、70歳以上6人であった。

菌種はすべて *Enterococcus faecium* 7人、*Enterococcus faecalis* 1人、耐性遺伝子は *vanA* が2人、不明6人であった。

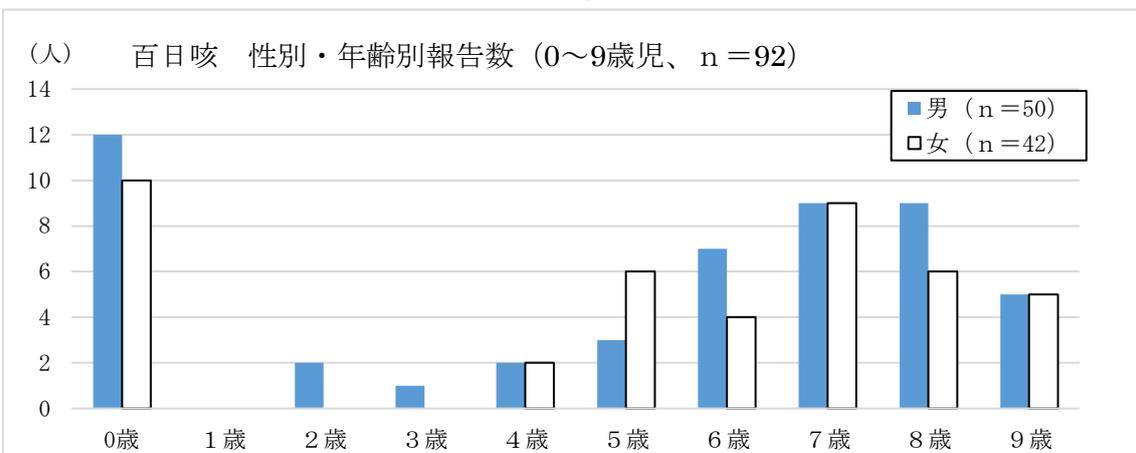
推定感染地は国内5人、不明3人であった。推定感染経路は保菌2人、病院内による感染1人、接触感染1人、不明4人であった。

### タ 百日咳

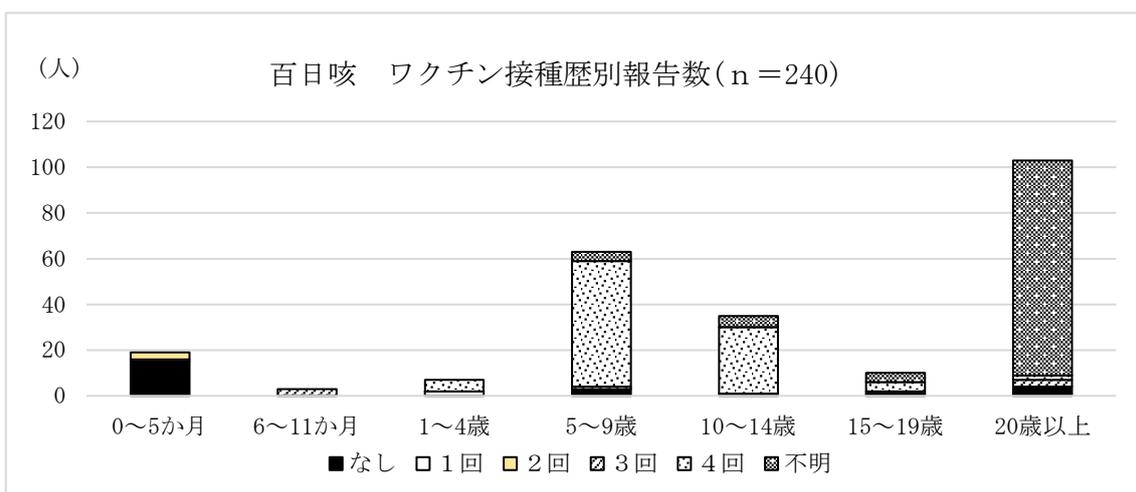
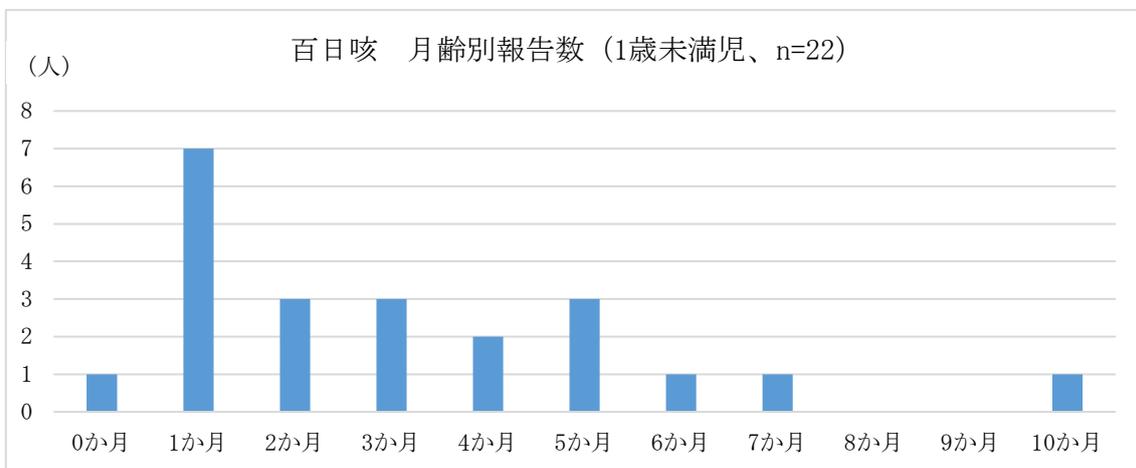
2019年は240人の報告があった。昨年441人に比べほぼ半数の報告であった。性別は男性100人、女性140人で、年齢階級別では10歳未満92人(38%)、10～19歳45人(18.8%)、20～29歳30人(12.5%)、30～39歳26人(10.8%)、40～49歳20人(8.3%)、50～59歳14人(5.8%)、60～69歳7人(2.9%)、70歳以上6人(2.5%)であった。0～14歳までの報告数は127人で、全報告数の52.9%を占めた。



年齢階級別では10歳未満が最も多く92人であった。内訳は0歳22人、2歳2人、3歳1人、4歳4人、5歳9人、6歳11人、7歳18人、8歳15人、9歳10人であり、0歳および7、8歳で二峰性のピークを認めた。



最も重症化しやすいとされる 6 か月未満の月齢の患者数は、20 人で全報告数の 8%を占めた。これらの患者の感染原因・感染経路は、11 人(55%)が家族内感染（父親、母親、同胞、不明）で、その他は不明であった。



百日咳含有ワクチン接種歴別では、4 回以上接種歴有が 95 人で全報告数の 39.6%を占めた。1~4 歳、5~9 歳、10~14 歳のワクチン既接種者はそれぞれ 12 人、56 人、29 人であり、この年代の小児患者の過半数がワクチン既接種者であった。

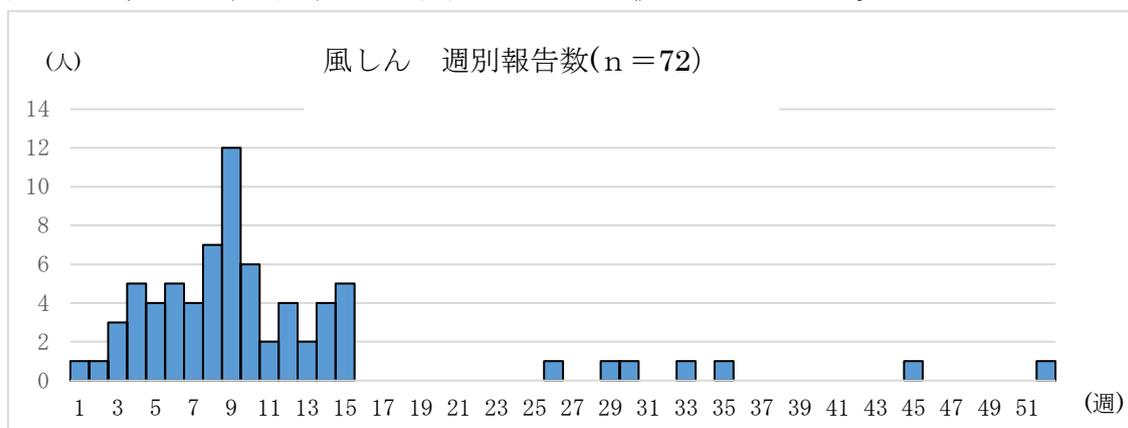
診断方法（重複あり）は、血清抗体価検査による診断が 140 人(58.3%)と最多で、次いで遺伝子検査が 103 人(42.9%)であり、また、分離・同定は 3 人(1.0%)、ペア血清による抗体陽転または抗体価有意上昇は 1 人(0.4%)、臨床決定が 3 人(1.0%)であった。臨床決定された患者はいずれも感染原因・感染経路で、家族内感染で、確定例との接触が疑われる患者であった。

推定感染地は国内 208 人(86.6%)、国外 1 人、不明 31 人であった。

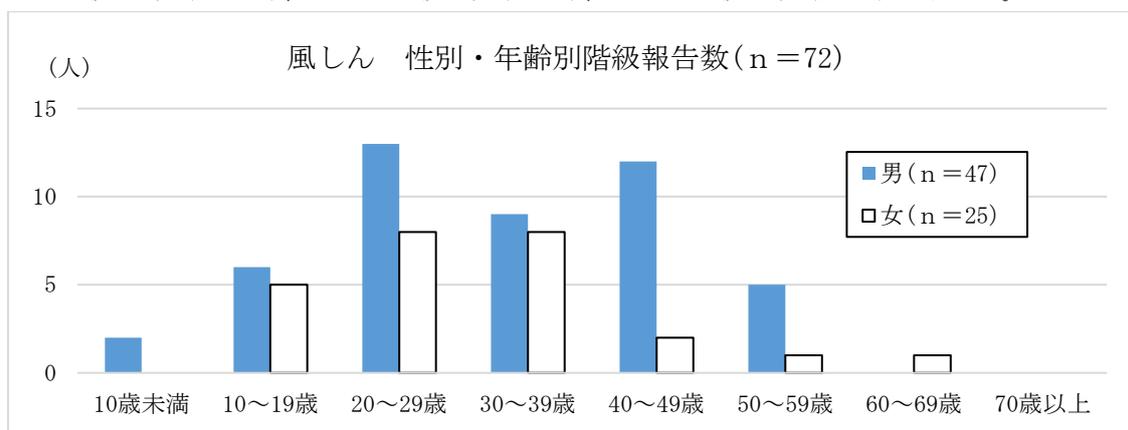
## チ 風しん

風しんは法令および予防指針の改正により、2018年1月1日以降、医師は風しんと臨床診断した時点で直ちに届出を行うこと、原則として全例にウイルス遺伝子検査を実施すること、風しん患者が1例でも発生した場合には積極的疫学調査を行うことが求められるようになった。「風しんに関する特定感染症予防指針（厚生労働省告示第百二十二号：平成26年3月28日）」では、「早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに、令和2年度までに風疹の排除を達成すること」を目標としている。

2019年は72人の報告があり、第15週までに報告が集中していた。過去10年の報告数の推移をみると、2008年5人、2009年4人、2010年1人、2011年17人、2012年207人、2013年1388人、2014年9人、2015年6人、2016年6人、2017年8人、2018年53人であり、2019年は前年からの流行が15週まで続いたとみられる。



性別は男性47人(65.3%)、女性25人(34.7%)であった。年齢階級別では10歳未満2人(2.8%)、10～19歳11人(15.3%)、20～29歳21人(29.2%)、30～39歳17人(23.6%)、40～49歳14人(19.4%)、50～59歳6人(8.3%)、60～69歳1人(1.4%)であった。



病型は検査診断例が71人(98.6%)、臨床診断例1人(1.4%)であった。検査診断例の検査方法の内訳(重複あり)は、PCR法によるウイルス遺伝子の検出が48人、血清IgM抗体の検出が35人であった。臨床診断例が1人であった。遺伝子型は1Eが40人であった。

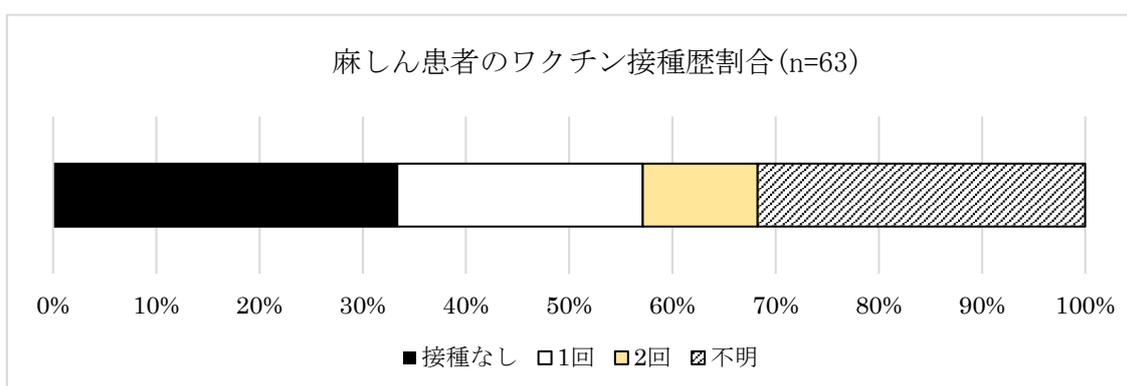
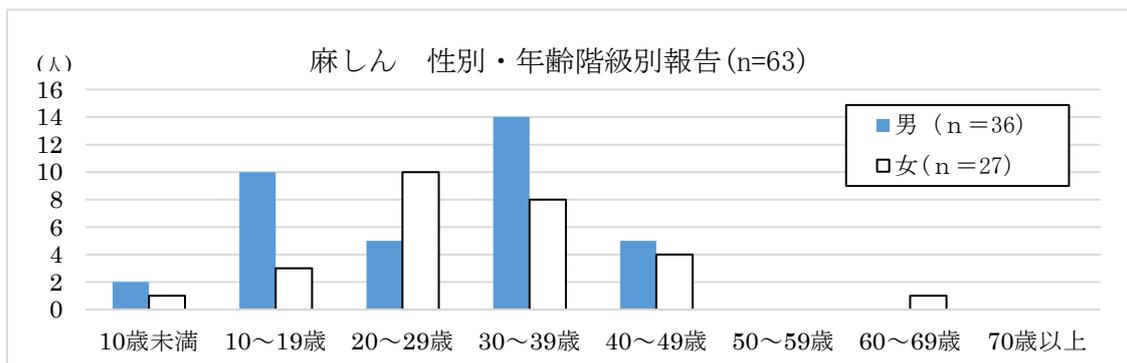
風しん含有ワクチン接種歴は、1回接種4人(5.6%)、接種歴なし19人(26.4%)、不明47人(65.3%)であり、2回接種2人(2.8%)であった。

推定感染地は国内53人(73.6%)、国外1人(1.4%)、不明18人(25.0%)であった。国外感染例の推定感染国は中国であった。

## ツ 麻しん

2019年は63人の報告があった。2月に市内の大型商業施設で集団感染事例があり、関係者および利用者で24名の感染が判明した。

いずれも検査診断例であった。検査診断例の検査方法の内訳(重複あり)は、PCR法によるウイルス遺伝子の検出が55人、血清IgM抗体の検出が27人であった。また、遺伝子型はD8が37人、B3が9人であった。性別は男性36人、女性27人で、年齢階級は10歳未満3人、10～19歳13人、20～29歳15人、30～39歳22人、40～49歳9人、60～69歳1人であった推定感染地は国内47人、国外6人、不明10人で、国外感染例の感染推定国はベトナム、フィリピンが各2人、ドイツ、タイが各1人であった。麻しん含有ワクチン接種歴は2回接種7人、1回接種15人、接種歴なし21人、不明20人であった。



## テ クリプトスポリジウム症

2019年は2人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は2人とも50～59歳であった。推定感染地はすべて国内であり、感染経路はすべて同性間性的接触であった。

## **ト 破傷風**

2019 年は 1 人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は 40～49 歳、推定感染地は国内であった。

## **ナ 薬剤耐性アシネトバクター感染症**

2019 年は 1 人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は 60～69 歳、推定感染地は韓国であった。

## **ニ その他の五類感染症**

以下の疾患は届出がなかった。

急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）、先天性風しん症候群（CRS）、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症。

週別発生状況 2019年

類	疾患名	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週	第17週	第18週	
一類	エボラ出血熱																			
	クリミア・コンゴ出血熱																			
	痘そう																			
	南米出血熱																			
	ペスト																			
	マールブルグ病																			
	ラッサ熱																			
二類	急性灰白髄炎																			
	ジフテリア																			
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)																			
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)																			
	鳥インフルエンザ(H5N1)																			
	鳥インフルエンザ(H7N9)																			
三類	コレラ																			
	細菌性赤痢																			
	腸管出血性大腸菌感染症								1	1			1							
	腸チフス																			
	パラチフス																			
四類	E型肝炎																			
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)																			
	A型肝炎		1					1						1		1				
	エキノコックス症																			
	黄熱																			
	オウム病																			
	オムスク出血熱																			
	回帰熱																			
	キャサヌル森林病																			
	Q熱																			
	狂犬病																			
	コクシジオイデス症																			
	サル痘																			
	ジカウイルス感染症																			
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)																			
	腎症候性出血熱(HFRS)																			
	西部ウマ脳炎																			
	ダニ媒介脳炎																			
	炭疽																			
	チクングニア熱																			
	つつが虫病																			
	デング熱											1		1			2			
	東部ウマ脳炎																			
	鳥インフルエンザ																			
	ニパウイルス感染症																			
	日本紅斑熱																			
	日本脳炎																			
	ハンタウイルス肺症候群(HPS)																			
	Bウイルス病																			
	鼻疽																			
	ブルセラ症																			
	ベネズエラウマ脳炎																			
	ヘンドラウイルス感染症																			
	発しんチフス																			
	ポツリヌス症																			
	マラリア																			
野兎病																				
ライム病																				
リッサウイルス感染症																				
リフトバレー熱																				
類鼻疽																				
レジオネラ症			1				1			1			1	3				1	1	
レプトスピラ症																				
ロッキー山紅斑熱																				
五類	アメーバ赤痢							2	1	1				3			1	1		
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)							1			1	1								
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症				4	2	3		2				1	3	1				1	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)																			
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)							1												
	クリプトスポリジウム症											1								
	クロイツフェルト・ヤコブ病												1				1		1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1		1	1				1	1				1	1			
	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)		1	1	4		2	4	2	2		3	2	4	2	2	1	1	2	
	ジアルジア症																1		1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		3	1				1					1	1		1			
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1																
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1	1	1		2	1				1	5	1	4	2	2	2	3	7
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)									1	1	1			2					
	先天性風しん症候群																			
	梅毒	2	22	15	22	15	17	14	21	16	14	16	18	16	12	18	21	7	2	
	播種性クリプトコックス症									1		1								
	破傷風								1											
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							1												
百日咳	1	9	6	7	5	5	5	7	11	9	9	6	4	3	9	2	1	6	2	
風しん	1	1	3	5	4	5	4	7	12	6	2	4	2	4	5					
麻しん	1	3	5	6	3	8	11	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	2		
薬剤耐性アシネトバクター感染症														1						

週別発生状況 2019年

類	疾患名	第19週	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週	第35週	第36週
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	痘そう																		
	南米出血熱																		
	ペスト																		
	マールブルグ病																		
	ラッサ熱																		
二類	急性灰白髄炎																		
	ジフテリア																		
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)																		
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)																		
	鳥インフルエンザ(H5N1)																		
	鳥インフルエンザ(H7N9)																		
三類	コレラ																		
	細菌性赤痢							1											
	腸管出血性大腸菌感染症		2	5	3	2		6	1	3	3	3	4	3	1	4	4	2	1
	腸チフス																		
	パラチフス																		
四類	E型肝炎																		
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)																		
	A型肝炎																		1
	エキノコックス症																		
	黄熱																		
	オウム病																		
	オムスク出血熱																		
	回帰熱																		
	キャサヌル森林病																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
	コクシジオイデス症																		
	サル痘																		
	ジカウイルス感染症																		
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)																		
	腎症候性出血熱(HFRS)																		
	西部ウマ脳炎																		
	ダニ媒介脳炎																		
	炭疽																		
	チクングニア熱																		
	つつが虫病				1														
	デング熱	1							2	2		1				1	2		2
	東部ウマ脳炎																		
	鳥インフルエンザ																		
	ニパウイルス感染症																		
	日本紅斑熱													1					
	日本脳炎																		
	ハンタウイルス肺症候群(HPS)																		
	Bウイルス病																		
	鼻疽																		
	ブルセラ症																		
	ベネズエラウマ脳炎																		
	ヘンドラウイルス感染症																		
	発しんチフス																		
	ポツリヌス症																		
	マラリア																		
	野兔病																		
	ライム病																		
	リッサウイルス感染症																		
	リフトバレー熱																		
	類鼻疽																		
	レジオネラ症	2		2		1	2	3	3					4	2		2	2	2
レプトスピラ症																			
ロッキー山紅斑熱																			
五類	アメーバ赤痢	1	1	2		3		1	3		2	1		1			1	1	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)							1		1		1	1						
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		2		2	1			3	1	1	2	4	1	1	2	3	1	1
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)																		
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	1							1										
	クリプトスポリジウム症																		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病																		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1	1	1					1		1		1	1
	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2	1	4	2	2	5	1				3		2	2	1		3	1
	ジアルジア症																		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1																	
	侵襲性髄膜炎菌感染症															1			
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	4	4	1	1		3		2	2	2	1	1		1			
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)											1		1					1
	先天性風しん症候群																		
	梅毒	19	15	23	18	16	13	17	19	14	13	12	16	12	7	8	9	17	16
	播種性クリプトコックス症	1																	
	破傷風																		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1				1											1	
	百日咳	2	3	4		3	3	4	5	5	4	2	7	7	12	2	6	8	6
	風しん								1			1	1			1			1
	麻しん	1	4						1			1	2						
薬剤耐性アシネトバクター感染症																			

週別発生状況 2019年

類	疾患名	第37週	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週	第52週	累積数	
一類	エボラ出血熱																	0	
	クリミア・コンゴ出血熱																	0	
	痘そう																	0	
	南米出血熱																	0	
	ペスト																	0	
	マールブルグ病																	0	
	ラッサ熱																	0	
二類	急性灰白髄炎																	0	
	ジフテリア																	0	
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)																	0	
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)																	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)																		0
	鳥インフルエンザ(H7N9)																		0
三類	コレラ																	0	
	細菌性赤痢							1				1						3	
	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	4		1		1			2		1	6	2		1	71	
	腸チフス																	0	
	パラチフス																	0	
四類	E型肝炎											1						1	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)																	0	
	A型肝炎	1	1		1													8	
	エキノコックス症																	0	
	黄熱																	0	
	オウム病																	0	
	オムスク出血熱																	0	
	回帰熱																	0	
	キャサヌル森林病																	0	
	Q熱																	0	
	狂犬病																	0	
	コクシジオイデス症																	0	
	サル痘																	0	
	ジカウイルス感染症																	0	
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)																	0	
	腎症候性出血熱(HFRS)																	0	
	西部ウマ脳炎																	0	
	ダニ媒介脳炎																	0	
	炭疽																	0	
	チクングニア熱				1													1	
	つつが虫病																	1	
	デング熱	1	1										1				1	19	
	東部ウマ脳炎																	0	
	鳥インフルエンザ																	0	
	ニパウイルス感染症																	0	
	日本紅斑熱								1									2	
	日本脳炎																	0	
	ハンタウイルス肺症候群(HPS)																	0	
	Bウイルス病																	0	
	鼻疽																	0	
	ブルセラ症																	0	
	ベネズエラウマ脳炎																	0	
	ヘンドラウイルス感染症																	0	
	発しんチフス																	0	
	ポツリヌス症																	0	
	マラリア								1									1	
	野兔病																	0	
	ライム病																	0	
	リッサウイルス感染症																	0	
	リフトバレー熱																	0	
	類鼻疽																	0	
	レジオネラ症	1	1	3		1		2		3	1	2			2	3		53	
レプトスピラ症																	0		
ロッキー山紅斑熱																	0		
五類	アメーバ赤痢		1	2					1	2		2	1		1		1	37	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	1	1		1				1									11	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	2	1		2	2	1	2	1	3		1	1	2	3	3	67	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)																	0	
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)														1			4	
	クリプトスポリジウム症																	2	
	クロイツフェルト・ヤコブ病										1							4	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1							1				1	2	22	
	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5	3	5	3	2	4	2	4		2	2	3	2	4	3	1	107	
	ジアルジア症																	2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症							1									2	1	14
	侵襲性髄膜炎菌感染症													1				3	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1			3	2	1	3		4	5	5	6	2		3	5	98	
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)		1								1							10	
	先天性風しん症候群																	0	
	梅毒	17	10	14	23	16	17	7	22	9	14	9	15	14	20	18	16	773	
	播種性クリプトコックス症												1					4	
	破傷風																	1	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																	0	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症										1						1	1	8
	百日咳	4	2	6	4	3	5	1	3	2	5	3	6	2	4	1	4	240	
	風しん										1							1	72
	麻しん													1				63	
薬剤耐性アシネトバクター感染症																	1		

過去10年全数把握感染症発生状況

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	2010年
一類	エボラ出血熱									
	クリミア・コンゴ出血熱									
	痘そう									
	南米出血熱									
	ペスト									
	マールブルグ病									
	ラッサ熱									
二類	急性灰白髄炎									
	ジフテリア									
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)									
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)									
	鳥インフルエンザ(H5N1)									
鳥インフルエンザ(H7N9)										
三類	コレラ				1					1
	細菌性赤痢	3	3	4	3	1	4	7	8	5
	腸管出血性大腸菌感染症	71	105	44	61	45	45	59	165	52
	腸チフス			2		2	3	1		2
	パラチフス		2	1	1		1	2		1
										2
四類	E型肝炎	1	3	6	2	1		1	2	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)									
	A型肝炎	8	40	9	13	7	12	8	3	3
	エキノкокクス症								1	
	黄熱									
	オウム病									
	オムスク出血熱									
	回帰熱									
	キャサスル森林病									
	Q熱									
	狂犬病									
	コクシジオイデス症									
	サル痘									
	ジカウイルス感染症									
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)									
	腎症候性出血熱(HFRS)									
	西部ウマ脳炎									
	ダニ媒介脳炎									
	炭疽									
	テクングニア熱	1		1	1	1				
	つつが虫病	1		1	1			1		
	デング熱	19	11	10	10	13	5	14	14	5
	東部ウマ脳炎									
	鳥インフルエンザ									
	ニパウイルス感染症									
	日本紅斑熱	2	3							
	日本脳炎									
	ハンタウイルス肺症候群(HPS)									
	Bウイルス病									
	鼻疽									
	ブルセラ症									
	ベネズエラウマ脳炎									
	ヘンドラウイルス感染症									
	発しんチフス									
	ポツリヌス症									
	マラリア	1	5	1	1	1	1	2	2	3
	野兔病									
	ライム病						1			
	リッサウイルス感染症									
	リフトバレー熱									
	類鼻疽									
	レジオネラ症	53	41	33	27	27	26	22	16	23
レプトスピラ症				1	1	2	1	1	1	
ロッキー山紅斑熱										
五類	アメーバ赤痢	37	52	61	58	57	72	58	39	51
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	11	5	7	10	9	18	12	17	14
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	67	59	30	29	51	10			
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)									
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	4	5	6	7	8	9	4	5	3
	クリプトスポリジウム症	2		2	1		1			1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	6	1	3	4	6	3	4	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	22	11	15	13	18	11	7	2	6
	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	107	123	133	150	190	172	185	141	189
	ジアルジア症	2	2	1	5	7	4	7	8	3
	髄膜炎菌性髄膜炎							1	1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	14	31	9	8	11	6	3		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3	2		1	1	1			
	侵襲性肺炎球菌感染症	98	97	102	91	66	45	22		
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	10	14	11	17	17	2			
	先天性風しん症候群							3		
	梅毒	773	864	635	467	254	196	114	75	57
	播種性クリプトкокクス症	4	5	2	6	4				
	破傷風	1		5	3	2	1	1		1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症									
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	8	4	5		2	2	5	8	2
	百日咳	240	441							
	風しん	72	53	6	8	6	9	1388	207	17
麻しん	63	5	1	15	1	17	3	1	6	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1			1						

# 大阪市感染症発生動向調査事業実施要綱

## 第1条 目的

感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の提供・公開により、これらの疾病に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として、本事業を実施する。

## 第2条 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、次のとおりとする。

### 1 全数把握の対象

〔一類感染症〕

- (1)エボラ出血熱 (2)クリミア・コンゴ出血熱 (3)痘そう
- (4)南米出血熱(5)ペスト(6)マールブルグ病 (7)ラッサ熱

〔二類感染症〕

- (8)急性灰白髄炎 (9)結核 (10)ジフテリア
- (11)重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る) (12)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)
- (13)鳥インフルエンザ(H5N1) (14) 鳥インフルエンザ(H7N9)

〔三類感染症〕

- (15)コレラ (16)細菌性赤痢 (17)腸管出血性大腸菌感染症
- (18)腸チフス (19)パラチフス

〔四類感染症〕

- (20)E型肝炎 (21)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)
- (22)A型肝炎 (23)エキノコックス症 (24)黄熱 (25)オウム病
- (26)オムスク出血熱 (27)回帰熱 (28)キャサヌル森林病 (29)Q熱
- (30)狂犬病 (31)コクシジオイデス症 (32)サル痘
- (33) ジカウイルス感染症
- (34)重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)
- (35)腎症候性出血熱 (36)西部ウマ脳炎 (37)ダニ媒介脳炎
- (38)炭疽 (39)チクングニア熱 (40)つつが虫病 (41)デング熱
- (42)東部ウマ脳炎
- (43)鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)
- (44)ニパウイルス感染症 (45)日本紅斑熱 (46)日本脳炎
- (47)ハンタウイルス肺症候群 (48)Bウイルス病 (49)鼻疽
- (50)ブルセラ症 (51)ベネズエラウマ脳炎
- (52)ヘンドラウイルス感染症 (53)発しんチフス (54)ボツリヌス症(55)マラリア (56)野兎病 (57)ライム病
- (58)リッサウイルス感染症 (59)リフトバレー熱 (60)類鼻疽

(61)レジオネラ症 (62)レプトスピラ症 (63)ロッキー山紅斑熱

[五類感染症]

- (64)アメーバ赤痢
- (65)ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)
- (66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
- (67)急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)
- (68)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)
- (69)クリプトスポリジウム症 (70)クロイツフェルト・ヤコブ病
- (71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (72)後天性免疫不全症候群
- (73)ジアルジア症 (74)侵襲性インフルエンザ菌感染症
- (75)侵襲性髄膜炎菌感染症 (76)侵襲性肺炎球菌感染症
- (77)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)
- (78)先天性風しん症候群 (79)梅毒 (80)播種性クリプトコックス症
- (81)破傷風 (82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
- (83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (84)百日咳 (85)風しん
- (86)麻しん (87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

[新型インフルエンザ等感染症]

- (112)新型インフルエンザ (113)再興型インフルエンザ

[指定感染症]

- (114) 新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)

2 定点把握の対象

[五類感染症]

- (88)RSウイルス感染症 (89)咽頭結膜熱
- (90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (91)感染性胃腸炎 (92)水痘
- (93)手足口病 (94)伝染性紅斑 (95)突発性発しん
- (96)ヘルパンギーナ (97)流行性耳下腺炎
- (98)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)
- (99)急性出血性結膜炎 (100)流行性角結膜炎
- (101)性器クラミジア感染症 (102)性器ヘルペスウイルス感染症
- (103)尖圭コンジローマ (104)淋菌感染症
- (105)クラミジア肺炎(オウム病を除く)
- (106)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)
- (107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (108)マイコプラズマ肺炎
- (109)無菌性髄膜炎 (110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
- (111)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(115)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

### 3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13)鳥インフルエンザ(H5N1)

## 第3条 実施主体

実施主体は大阪市とする。

## 第4条 実施体制

情報処理の総合的かつ円滑な推進を図るため、次の体制により実施する。

### 1 大阪市感染症情報センター

中央感染症情報センター(厚生労働省)との連絡調整を図るとともに、所管地域における患者情報及び病原体情報(検査情報を含む。以下同じ。)を収集し、全国情報と併せて、これらを速やかに保健福祉センター及び医師会等関係機関に提供・公開するため、大阪市感染症情報センターの機能を保健所感染症対策課に置く。

### 2 検査機関

本事業の検査機関は、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所(以下「大阪健康安全基盤研究所」という。)とする。

### 3 指定届出機関及び指定提出機関(定点)

全数把握の感染症以外の対象感染症については、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点を、また、患者の検体又は当該感染症の病原体(以下「検体等」という。)を収集するため病原体定点を、医師会等関係機関の協力のもとにそれぞれ大阪市内の医療機関の中から選定する。なお、法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

#### (1)患者定点

対象感染症の患者発生状況を地域的に把握するため、人口及び医療機関の分布等を勘案のうえ、厚生労働省の示す基準に準拠し、小児科定点、インフルエンザ定点、眼科定点、性感染症定点、基幹定点を設置するものとする。

#### (2)病原体定点

病原体の分離等検査情報を収集するため次の点に留意して医療機関の中から選定する。

ア 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

イ 小児科定点、インフルエンザ定点、及び眼科定点の各々について、概ね10%を病原体定点とする。なお、インフルエンザ定点の選定に当たっては、小児科定点から

10%以上及び内科定点から10%以上をそれぞれ3定点と2定点を下回らないように、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として選定する。

ウ 基幹定点は全て病原体定点とする。

(3)法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

疑似症の発生状況を把握するため、人口及び医療機関の分布等を勘案のうえ、厚生労働省の示す基準に準拠し、疑似症定点を設置するものとする。

なお、疑似症定点と疑似症定点以外の医療機関との連携体制をあらかじめ構築するよう取組み、疑似症の迅速かつ適切な把握に努める。

4 感染症発生動向調査委員会

事業の的確な運用を図るため、執行機関の附属機関に関する条例第1条及び大阪市感染症発生動向調査委員会規則の定めるところにより、小児科、内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、結核、微生物学、疫学、獣医学、昆虫学等の専門家、保健所、地方衛生研究所の代表等で構成する「大阪市感染症発生動向調査委員会」を開催する。

第5条 実施方法

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86)) 新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

[調査単位及び実施方法]

(1)該当する患者等を届出基準等通知に基づき診断した医師から、同通知別記様式1-1から別記様式4-44、別記様式5-12、5-22、5-23及び6-1のうち該当する感染症の様式により届出を受けた保健福祉センターは、直ちに受け付けた届出の写しを保健所感染症対策課に報告する。また必要に応じて保健福祉センターは、患者を診断した医師に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式の検査票を添付して依頼する。

(2)保健所感染症対策課は、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて大阪健康安全基盤研究所と協議し、感染症の蔓延を防止するため特に必要と認める場合は、病原体検査を大阪健康安全基盤研究所に依頼する。

2 全数把握対象の五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86)を除く。)

[調査単位及び実施方法]

(1)該当する患者等を届出基準等通知に基づき診断した医師から、同通知別記様式5-1から5-24(別記様式5-12、5-22及び5-23を除く。)のうち該当する感染症の様式により届出を受けた保健福祉センターは、医師が診断してから7日以内に受け付けた届出の写しを保健所感染症対策課に報告する。また必要に応じて保健福祉センターは患者を診断した医者に対して、病原体検査のための検体又は病原体情報の提供について、別記様式の検査票を添付して依頼する。

(2)保健所感染症対策課は、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて大阪健康安全基盤研究所と協議し、感染症の蔓延を防止するため特に必要と認める場合は、病原体検査を大阪健康安全基盤研究所に依頼す

る。

### 3 定点把握対象の五類感染症

#### (1)調査単位等

- ア 患者情報については、小児科定点、インフルエンザ定点、眼科定点及び基幹定点(週報対象感染症)においては、1週間(毎週月曜日から翌週日曜日)を調査単位とし、性感染症定点及び基幹定点(月報対象感染症)においては1ヶ月を単位とする。
- イ 病原体情報については、大阪健康安全基盤研究所より、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

#### (2)患者定点

- ア 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における主として臨床的診断の結果をもって、患者発生状況の把握を行うものとする。
- イ 小児科定点においては届出基準等通知別記様式6-1により、インフルエンザ定点においては同通知別記様式6-2により、眼科定点においては同通知別記様式6-3により、性感染症定点においては同通知別記様式6-4により、基幹定点においては同通知別記様式6-2(2)、6-5、6-6により、それぞれの調査単位の患者発生状況等を報告する。

#### (3)病原体定点

- ア 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のための検体を採取し、別記様式の検査票を添えて、大阪健康安全基盤研究所へ送付する。
- イ 小児科病原体定点の医療機関においては、第2条の(88)から(97)までを対象感染症とする。
- ウ インフルエンザ病原体定点の医療機関(指定提出機関)においては、第2条の(98)を対象感染症とする。
- エ 眼科病原体定点の医療機関においては、第2条の(99)及び(100)を対象感染症とする。
- オ 基幹病原体定点の医療機関においては、第2条の(91)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(106)及び(109)を対象感染症とする。

### 4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

#### [調査単位及び実施方法]

- (1)疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時における届出基準等通知に基づく届出基準により、直ちに疑似症発生状況を把握し、別記様式6-7に記載の上、提出する。
- (2)保健所感染症対策課は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、汎用サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても把握し、保健福祉センター、指定届出機関、指定提出機関、その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

## 5 大阪市感染症情報センター

- (1)管内の患者定点及び保健福祉センターから得られた患者情報を収集し、一類、二類、三類、四類感染症、五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症については直ちに、全数把握対象の五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86)を除く。)については保健福祉センターが届出を受けてから7日以内に、定点把握対象の五類感染症については調査単位が週単位の場合は調査対象週の翌週の火曜日まで、月単位の場合は調査対象月の翌月3日までに感染症発生動向調査システムに入力し、登録情報の確認を行う。
- (2)大阪市感染症情報センターは一類から五類までの感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び疑似症について、患者情報の収集及び分析を行う。
- (3)発生動向調査で得られた、患者情報等の集計及び分析結果を速やかに、保健福祉センター、医師会、定点医療機関等の関係機関へ提供・公開する。

## 6 大阪健康安全基盤研究所

- (1)大阪健康安全基盤研究所は、前記3-3により搬送された検査依頼票及び検体等を、別途定める病原体検査要領に基づき検査し、これを病原体情報として大阪市感染症情報センター及び中央感染症情報センターへ報告する。
- (2)検査のうち大阪健康安全基盤研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて他の都道府県等又は国立感染症研究所へ検査依頼する。

## 第6条 積極的疫学調査

- 1 一類、二類、三類、四類、五類全数把握感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症が発生した場合、並びに五類定点把握感染症及び疑似症等に係る感染症発生動向調査において通常と異なる傾向が認められた場合は、個別の事例に応じ適切に判断し実施する。
- 2 調査を行う場合、関係者の理解と協力を得つつ、関係機関と密接な連携を図り、地域における詳細な流行状況や、感染症等の迅速な把握に努める。
- 3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法
  - (1)大阪市感染症情報センター

鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査を実施した場合は、別に定める基準に従い、直ちに疑い症例調査支援システムに調査内容を入力するものとする。なお、医療機関より提出される検体等には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を添付すること。
  - (2)大阪健康安全基盤研究所
    - ア 検査依頼票及び検体等が送付された場合にあっては、当該検体等を別途定める病原体検査要領に基づき検査し、その内容を直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。
    - イ 鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあっては、法施行規則第9条第2項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。

## 第7条 情報の保護

本事業を実施するため収集した情報のコンピュータ処理は、次の事項に留意するものとする。

- 1 コンピュータの総括的な管理とデータ保護の適正化を図るため管理責任者を置く。
- 2 コンピュータの管理責任者は、保健所感染症対策課長とする。
- 3 管理責任者は、本事業に関わりのある職員をコンピュータの操作者に充て、運用の面では専用パスワードの設定、操作員識別コードの使用により操作者を限定し情報の改ざん、流用等の防止をはかる。
- 4 コンピュータ処理されたデータの保管については、万全を期する。

## 第8条 情報の活用

収集分析された情報は、次のとおり活用する。

- 1 感染症発生動向調査事業への活用。
- 2 保健福祉センター、医療関係機関、その他必要関係機関への提供・公開。
- 3 市民への提供・公開。

### 附 則（施行期日）

この要綱は、平成12年12月1日から実施する。

### 附 則（施行期日）

この要綱は、平成13年4月1日から実施する。

### 附 則（施行期日）

この要綱は、平成15年4月1日から実施する。

### 附 則（施行期日）

この要綱は、平成16年4月1日から実施する。

### 附 則（施行期日）

この要綱は、平成18年4月1日から実施する。

### 附 則（施行期日）

この要綱は、平成18年6月12日から実施する。

### 附 則（施行期日）

この要綱は、平成19年4月1日から実施する。

### 附 則（施行期日）

この要綱は、平成20年1月1日から実施する。

### 附 則

この要綱は、平成20年4月1日から実施する。

### 附 則

この要綱は、平成20年5月12日から実施する。

### 附 則

この要綱は、平成23年2月1日から実施する。

### 附 則

この要綱は、平成23年4月1日から実施する。

### 附 則

この要綱は、平成23年9月5日から実施する

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成25年3月4日から実施する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成25年5月6日から実施する。

附 則

この要綱は、平成26年7月26日から実施する。

附 則

この要綱は、平成26年9月19日から実施する。

附 則

この要綱は、平成27年1月21日から実施する。

附 則

この要綱は、平成27年5月21日から実施する。

附 則

この要綱は、平成28年2月15日から実施する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成30年1月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成30年5月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、令和2年2月1日から実施する。

#### 届出様式一覧

- 1 別記様式 一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)
- 2 届出基準等通知 別記様式1-1～6-7

## 大阪市感染症発生動向調査委員会規則

### (趣旨)

第1条 この規則は、執行機関の附属機関に関する条例（昭和28年大阪市条例第35号）第2条の規定により、大阪市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

### (組織)

第2条 委員会は、委員15名以内で組織する。

2 委員は、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱する。

### (任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

### (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、議事その他の会務を総理する。

3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

### (専門委員)

第5条 専門の事項を調査審議させるため必要があるときは、委員会に専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱する。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査審議が終了したときは、解嘱されるものとする。

### (部会)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員会に部会を置くことができる。

2 部会は、委員長が指名する委員及び専門委員で組織する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員のうちから委員長が指名する。

4 部会長は、当該部会の会務を総理し、部会における調査審議の状況及び結果を委員会に報告する。

5 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長の指名する委員がその職務を代理する。

### (会議)

第7条 委員会の会議は委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

### (関係者の出席)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴

くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康局において処理する。

(施行の細目)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、平成25年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年1月1日から施行する。

## 大阪市感染症発生動向調査委員会委員

委員名	所 属
大場 雄一郎	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター
改田 厚	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所
金井 瑞恵	大阪市保健所
神谷 元	国立感染症研究所
白野 倫徳	地方独立行政法人 大阪市立総合医療センター
濱崎 考史	大阪市立大学大学院
濱田 実保	はまだ小児科
廣川 秀徹	大阪市保健所
古林 敬一	そねざき古林診療所
水谷 哲	医療法人警和会 大阪警察病院
宮川 松剛	一般社団法人 大阪府医師会
森下 清文	医療法人 森下眼科

感染症発生動向調査指定届出機関（内科定点）

令和元年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	(医) 中尾医院	533-0022	東淀川区菅原5-7-11
	柴医院	535-0002	旭区大宮3-8-16
	市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	(医) 寺岡内科医院	532-0002	淀川区東三国6-19-8
	樋口医院	531-0073	北区本庄西2-5-26
大阪市西部	宮下医院	554-0013	此花区梅香3-22-14
	四ツ橋診療所	550-0013	西区新町1-22-9
	大塚医院	552-0012	港区市岡2-6-21
	本山診療所	551-0031	大正区泉尾1-2-19
	(医) 北野クリニック	555-0031	西淀川区出来島1-4-18
大阪市東部	大阪警察病院	543-0035	天王寺区北山町10-31
	(医) 徳田クリニック	556-0022	浪速区桜川2-11-28
	(医) 長田医院	537-0002	東成区深江南1-10-8ピア・メゾン深江1F
	正木クリニック	544-0034	生野区桃谷2-18-9
	おのい深江橋診療所	536-0022	城東区永田4-11-14
	(医) 杉岡内科医院	538-0042	鶴見区今津中5-6-26
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
大阪市南部	(地独) 大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	河南医院	558-0032	住吉区遠里小野1-12-9
	わたベクリニック	558-0056	住吉区万代東1-4-12
	(医) 田島医院	546-0042	東住吉区西今川1-6-16
	加納医院	557-0034	西成区松1-4-23
	(医) 宮武医院	559-0024	住之江区新北島1-9-23
	(医) 長吉総合病院	547-0016	平野区长吉長原1-2-34
	いぬいクリニック	547-0021	平野区喜連東3-5-50

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

令和元年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	あさいこどもクリニック	534-0016	都島区友渕町2-1-5ともぶちクリニックビル2階
	こおりやま小児科	534-0015	都島区善源寺町2-2-22 善源寺メディカルモール2階
	（地独）大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	森川こどもクリニック	533-0032	東淀川区淡路2-16-6-101
	淀川キリスト教病院	533-0032	東淀川区柴島1-7-50
	（医）前田こどもクリニック	533-0006	東淀川区上新庄2-15-18旭丘ビル4階
	樋口医院	531-0062	北区長柄中1-6-6
	かよう内科・小児科	535-0021	旭区清水4-3-29
	中野こども病院	535-0022	旭区新森4-13-17
	市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	のだこどもクリニック	531-0074	大阪府大阪市北区本庄東1-1-10ライズ88ビル1階
	医療法人はるなクリニック	532-0006	淀川区西三国1-3-13-302
	北野病院	530-8480	北区扇町2-4-20
鈴木小児クリニック	532-0003	淀川区宮原4-4-2 新大阪グランドハイツ1F	
大阪市西部	（独）JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
	（公財）中央急病診療所	550-0013	西区新町4-10-13
	さかざきこどもクリニック	550-0027	西区九条1-27-6住金興産九条ビル303
	多根総合病院	550-0025	西区九条南1-12-21
	日本生命病院	550-0006	西区江之子島2-1-54
	にいつクリニック	552-0023	港区港晴1-1-23
	大正病院	551-0002	大正区三軒家東5-5-16
	ひの小児科	554-0011	此花区高見2-13-3
	千船病院	555-0001	西淀川区佃2-2-45

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

令和元年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市 東部	大阪赤十字病院	543-8555	天王寺区筆ヶ崎町5-30
	今石こどもクリニック	543-0042	天王寺区烏ヶ辻1-1-1 MIビル4階
	大阪警察病院	543-8502	天王寺区北山町10-31
	(医) 寺田町こども診療所	543-0045	天王寺区寺田町2-4-7寺田町第2ビル2F
	川田医院	556-0006	浪速区日本橋東3-7-7川田ビル1F
	高クリニック	537-0013	東成区大今里南3-13-13
	(医) 松本医院	544-0034	生野区桃谷2-19-20
	共和病院	544-0021	生野区勝山南4-16-10
	浦岡小児科	544-0006	生野区中川東2-13-17
	大阪府済生会野江病院	536-0002	城東区古市1-3-25
	福田クリニック	536-0008	城東区関目1-3-11
	(医) にしじまファミリークリニック	536-0005	城東区中央2-13-19
	竹中小児科	538-0043	鶴見区今津南1-5-37鶴見グリーンレジデンス1F
	(医) かめおかクリニック	538-0051	鶴見区諸口3-4-38
	(医) 田中小児科医院	542-0012	中央区谷町6-14-23
大阪市 南部	大阪市立大医学部附属病院	545-8585	阿倍野区旭町1-5-7
	(医) 富吉医院	545-0042	阿倍野区丸山通1-3-46
	勇村医院	545-0021	阿倍野区阪南町5-25-17
	(医) 武田小児科医院	558-0041	住吉区南住吉2-14-19 平成ハイツ壱番館1階
	(地独) 大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	畑小児科	558-0003	住吉区长居3-9-3
	武知小児科・内科	546-0014	東住吉区鷹合2-17-4
	おうぎもと小児科	546-0003	東住吉区今川3-12-12
	(医) 川合内科・小児科医院	546-0012	東住吉区中野4-5-18
	西成民主診療所	557-0034	西成区松2-1-7
	はまだ小児科	557-0042	西成区岸里東2-5-16
	畠中医院	559-0005	住之江区西住之江2-16-7
	藤山小児科医院	559-0024	住之江区新北島3-8-21 アネックス六兵衛三番街
	大阪市立住之江診療所	559-0012	住之江区東加賀屋1-2-16
	(医) 長浦小児科	547-0046	平野区平野宮町1-6カメロコビル1号棟1F
	(医) 長吉総合病院	547-0016	平野区长吉長原1-2-34
	(医) にしかわこどもクリニック	547-0033	平野区平野西3-9-11
	井藤医院	547-0024	平野区瓜破2-1-65ミカホーム8番1F

感染症発生動向調査指定届出機関（眼科定点）

令和元年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市 北部	(地独) 大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	(医) 春田眼科医院	533-0004	東淀川区小松1-10-38
	坂本眼科医院	535-0021	旭区清水3-2-9
	市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	(医) 森下眼科	530-0041	北区天神橋5-6-13
大阪市 西部	森山眼科医院	553-0005	福島区野田3-16-5
	はぶ眼科	555-0013	西淀川区千舟2-15-28
大阪市 東部	第二大阪警察病院	543-0042	天王寺区鳥ヶ辻2-6-40
	脇本眼科	543-0014	天王寺区玉造元町2-4トッパス玉造3階
	(医) 沢井眼科	556-0006	浪速区日本橋東3-7-7川田ビル2F
	(医) 塩見眼科	538-0042	鶴見区今津中5-1-33
	(独) 大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
	大手前病院	540-0008	中央区大手前1-5-34
大阪市 南部	(地独) 大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	杉浦眼科	546-0043	東住吉区駒川3-1-7
	(医) マツマ眼科クリニック	559-0013	住之江区御崎4-10-4サンライズ住之江公園1階
	吉田眼科医院	547-0034	平野区背戸口1-21-21メゾン平野1階

感染症発生動向調査指定届出機関（性感染症定点）

令和元年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市 北部	(地独) 大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	しおじレディースクリニック	533-0024	都島区東野田2-3-19 MFK京橋駅前ビル3F
	河島医院	533-0004	東淀川区小松2-5-2 米田ハイツ 2F
	(医) 佐々木クリニック	532-0002	淀川区東三国5-5-28
	こおりたクリニック	532-0002	淀川区東三国5-15-27
	大原クリニック	530-0021	北区浮田2-1-12アパ大阪天六ビル6F
	そねざき古林診療所	530-0057	北区曾根崎2-5-24石見ビル3F
	(医) さたクリニック	531-0062	北区長柄中1-5-16
大阪市 西部	勝瀬クリニック	550-0027	西区九条1-12-3
	岸医院	552-0012	港区市岡1-1-20
大阪市 東部	早川クリニック	542-0086	中央区西心斎橋1-4-5 御堂筋ビル5F
	(独) 大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
	こうむら女性クリニック	540-0033	中央区石町1-1-1天満橋千代田ビル2号館2F
	内田皮膚科クリニック	542-0012	中央区谷町7-1-44タンチエ谷町ビル2F
大阪市 南部	(医) レディースクリニックさわだ	545-0052	阿倍野区阿倍野筋1-5-1-100
	(医) 中川医院	558-0044	住吉区长峡町5-5
	原田皮膚科クリニック	546-0023	東住吉区矢田2-9-14アセンドプラザビル3階
	千住泌尿器科クリニック	557-0045	西成区玉出西2-6-6 シェルコンプレックス玉出ビル3F
	(医) 小川産婦人科	547-0044	平野区平野本町2-6-32

感染症発生動向調査指定届出機関（基幹定点）

令和元年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	（地独）大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
大阪市西部	（独）JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
大阪市東部	大阪赤十字病院	534-8555	天王寺区筆ヶ崎町5-30
大阪市南部	（地独）大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56

感染症発生動向調査指定届出機関（疑似症定点）

令和元年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	（地独）大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	淀川キリスト教病院	533-0024	東淀川区柴島1-7-50
	北野病院	530-8480	北区扇町2-4-20
	大阪府済生会中津病院	530-0012	北区芝田2-10-39
大阪市西部	（独）JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
	日本生命病院	550-0006	西区江之子島2-1-54
大阪市東部	大阪警察病院	543-0035	天王寺区北山町10-31
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
大阪市南部	（地独）大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	市立大学医学部附属病院	545-8585	阿倍野区旭町1-5-7

